山口県バドミントン協会50年史

飛翔

山口県バドミントン協会

目　次

更なる飛躍へ …… 1
会　長　林　芳正

強調性と強い身体、精神力を …… 2
名誉会長　林　義郎

競技力の向上を …… 3
理事長　三井　裕

競技人口の拡大　競技力の向上へ …… 4
山口県体育協会長　二井関成

グラビア …… 5

沿　革　史 …… 11

市郡協会の歩み …… 21
玖珂郡・岩国市・柳井市・熊毛郡・光市・下松市・徳山市・新南陽市・山口市・吉敷郡・宇部市・小野田市・萩市・長門市・防府市・下関市

専門部等の歩み …… 37
表彰部・審判部・競技部・指導部・実業団連盟・教職員連盟・家庭婦人連盟・高体連・中体連・ジュニア連盟

寄稿・団体 …… 47
大殿中学校女子部・柳井工業高校・山口高校・中村女子高校・山口中央高校・下関南高校・下関中央工業高校・高森高校・早鞆高校女子・山口大学・東亜大学・日本製紙・宇部興産

寄稿・個人 …… 61
藤井豊秋・津守幸介・尾上忠２・佐藤純[illegible]・岡崎光弘・杉原哲彦・松村和美・椎山昭[illegible]・藏成秋次・安藤輝夫・田村弘実・[illegible]浦捷治・末廣秀樹２・[illegible]井裕

記　　録 …… 77

歴代役員・山口県バドミントン協会規約・同組織図・同運営規定・同表彰規定・同平成10年度役員・同平成10年度一般会計予算・県協会長表彰者・登録者数の推移・市郡協会登録者数・平成９年度日本バドミントン協会登録者数・大会参加者数（平成元年～９年度）・団体選手名簿・平成９年度ランキング・昭和55年度ランキング・平成元年度ランキング・中国地区総合選手権大会優勝者・全日本シニア大会優勝･準優勝者・中国教職員バドミントン大会優勝者・中国中学校バドミントン選手権大会成績・山口県中学校バドミントン選手権大会成績・山口県小学生バドミントン大会成績・全国高等学校総合体育大会出場校・出場者一覧・山口県家庭婦人バドミントン連盟結成記念大会成績

あ と が き …… 113



更なる飛躍へ

山口県バドミントン協会

会　長　林　　芳正

この度、山口県バドミントン協会が創立50周年をむかえ、それにともない「山口県バドミントン協会50周年記念誌」の編集を企画、発刊いたしますこと心よりお祝い申し上げます。

山口県バドミントン協会は、戦後まもない昭和25年に創立され、現在までに歴代の会長をはじめ各役員の献身的な努力により発展し続けて参りました。私も平成９年３月、前会長でもあります私の父、林　義郎名誉会長からその任を引き継ぎ、微力ながら精一杯努力しているところでございます。現在、登録会員数は約2,700名を擁し、山口県におけるバドミントンの普及と発展に会員一丸となって邁進しております。過去には様々な大会が県内各地で開催され本県選手も好成績を残しております。これも一重に指導者ならびに皆様一人一人の努力の結果と考え、今後更なる飛躍を期待しております。

私共、山口県バドミントン協会としましても、来るべき21世紀に向け県内バドミントン界の統括団体としての役割を充分担い更に発展していかなければならないと思います。私もそのために鋭意努力させていただきますので、皆様におかれましては変わらぬ支援と協力をお願い申し上げます。最後になりましたが、本小史編集にあたりご尽力いただいた皆様に心より感謝申し上げまして私のあいさつといたします。

挨　拶



協調性と強い身体、精神力を

山口県バドミントン協会

名誉会長　林　　義　郎

山口県バドミントン協会の創立50周年を迎えられましたこと、又記念誌の発行にあたり誠におめでたく心よりお祝い申し上げます。

山口県バドミントン協会は昭和25年４月に当時山口市長でありました長井秋穂氏を初代会長として設立し、このたび50周年を迎えられました。設立当時は小規模だった協会も現在の登録人数は約2,700人と人数の増加に伴い年々活動も活発になっております。

私も代議士当選後、３代目会長当時県議会議員でありました市川八五氏より会長を引き継ぎ、昨年の３月に長男の現在参議院議員であります芳正が会長に就任するまで約27年間にわたり会長として協会の発展、振興に努力させていただきました。これも一重に協会の皆様の暖かいご支援とご指導の賜物だと厚くお礼申し上げる次第でございます。私も名誉会長として協会発展の為に今まで以上に努力していく所存でありますので、今後とも皆様の暖かいご協力を賜りたいと思います。

近年の不可解な事件が多発するなか、これからの日本はこういった人と人との協調性、強い身体と精神力を育てていくことがもっとも大切なことではないでしょうか。21世紀に向けて、山口県バドミントン協会の今後益々のご発展を祈念申し上げまして、私のお祝いの言葉とさせていただきます。



競技力の向上を

山口県バドミントン協会

理事長　三井　裕

山口県バドミントン協会は、平成11年４月で創立50周年を迎えることができました。昭和25年の協会設立後、昭和38年の下関市での第18回国民体育大会を始めとして、全日本教職員大会、全国高校総体、全国中学校大会等引き受け、企画・運営に苦労や工夫を重ねながら、また、県内大会や講習会の開催等を経て、今日の山口県バドミントン協会が一つの確立した組織として形づくられました。平成９年度には加盟市郡協会17、高校生以上の登録会員1,985人を擁するまでの協会に発展しております。今日までのすばらしい歴史は、本協会の歴代会長、理事長及び役員の方々、そして多数の会員の皆様方の多大なるご支援、ご協力によるものであります。

さて、最近の山口県の現状を考えてみますと、個人的にはすばらしい成績を収める選手もいますが、県トップクラスのレベルは、全国的にも低いといわれる中国地区で、やっと中位を維持しているという状態です。中国総合選手権大会等の年齢別の部においては上位の選手も多くいますが、これは社会人のバドミントン愛好者の熱心な取り組みによるものと考えられます。しかし、小学生･中学生･高校生等ジュニア層については、上位と言えないのが現状です。

今後の課題としては、ジュニア層の優秀な選手の育成があげられます。中国地区さらには全国的に活躍する選手を作りだしていくためには、本当に熱心に指導されている各地区のジュニア･中体連･高体連の先生方やバドミントン愛好者がそれぞれに連携し、計画的に共通の目的や目標を持って取り組み、レベルアップを図ることが急務だと考えています。さらに、多くの人々にも親しんでもらえるスポーツとなるようボトムアップも考えなくてはなりません。

私は、平成９年度より理事長に就任し、歩み始めたばかりではありますが、本協会創立50周年を機に、さらなる発展のために会員の皆様方のご支援をいただきたいと願っております。また、私自身35年近くラケットを握り続けてきておりますが、バドミントンは私の生涯スポーツであり、今後も気力・体力の続く限り、プレーを続けていきたいと考えています。

山口県バドミントン協会の創立50周年を機に、今後とも関係各位のご指導ご支援をお願いいたしまして、ごあいさつといたします。

祝　辞



競技人口の拡大
競技力の向上へ

㈶山口県体育協会

会　長　二　井　関　成

このたび、山口県バドミントン協会創立50周年記念誌が発刊の運びとなり、創立以来50年にわたる輝かしい歴史と諸先輩の偉業を綴る貴重な記録として後世に残されることは、誠に意義深いことであり、心からお慶び申し上げます。

顧みますと、貴協会におかれては、戦後の混乱期のなかにあって、昭和25年４月に県内におけるバドミントンの普及と振興を図ることを目的に設立され、以来今日までの半世紀にわたり山口県スポーツの普及発展に多大な貢献をされてこられました。とりわけ、昭和38年の山口国体をはじめ、全国教職員大会、全国高校総体、全国中学生大会等のバドミントン競技の開催・運営に尽力され、大会を成功裡に導かれた貴協会の素晴らしい団結力・組織力の強さに敬服いたしますとともに、激動する社会情勢の中、今日まで幾多の苦難を乗り越えられ、素晴らしい山口県バドミントン協会を築き上げられてきた歴代会長をはじめ、関係各位のバドミントンに寄せる熱い情熱に対し、改めて深甚なる敬意と感謝を表す次第であります。

さて、山口県体育協会は、46の競技団体、25の郡市体育協会及び３つの学校体育団体からなる計74団体の組織により、本県スポーツのより一層の振興に寄与すべく「生涯スポーツの普及・振興」と「競技力の向上」を二本柱として内外の情勢変化に的確に対応しつつ、スポーツの振興を積極的に推進しているところであります。中でも、国民体育大会における本県選手の活躍に対する県民の関心は高いものがあり、この成果が県民の士気やスポーツレベルの評価、そして県政にまでおよぶことから、国体での飛躍を目指し、「競技力の向上」に重点をおいたスポーツの振興を図っているところであります。

21世紀を間近に控え、社会環境が大きく変化する中で、「物」から「心」の豊かさを望む人々の生活意識の変化、高齢化の進展、余暇時間の増大等に伴い、人々の健康、体力に対する関心、スポーツに対するニーズが非常に高まっている今日、貴協会におかれても、その使命と役割は非常に大きなものがあり、幅広い年代に親しまれているバドミントン競技のより一層の競技人口拡大と更なる競技力の向上に期待を寄せるものであります。

どうか山口県バドミントン協会におかれましては、創立50周年の節目を契機に、更なる飛躍に向け邁進されることを切望するとともに、今後ますますの発展を祈念しお祝いのことばといたします。



◀昭和38年10月山口国体バドミントン競技会場となった国体当日の合掌づくりをイメージした下関市立体育館。



▲昭和33年第１回中国選手権大会
山口県男子チーム。安来。



▲故田中萬亀太副会長の日本協会功労賞
受賞祝賀会で。

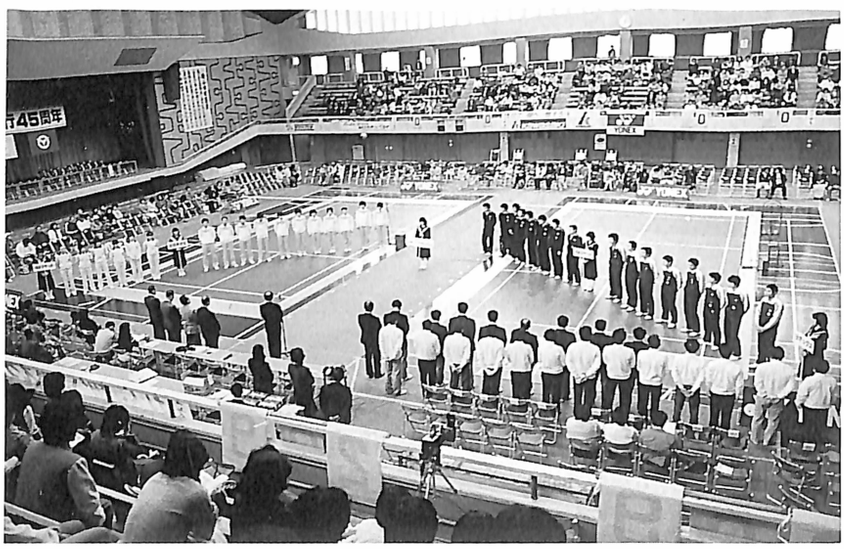


◀山口国体、山口県選手団。下関。

グラビア



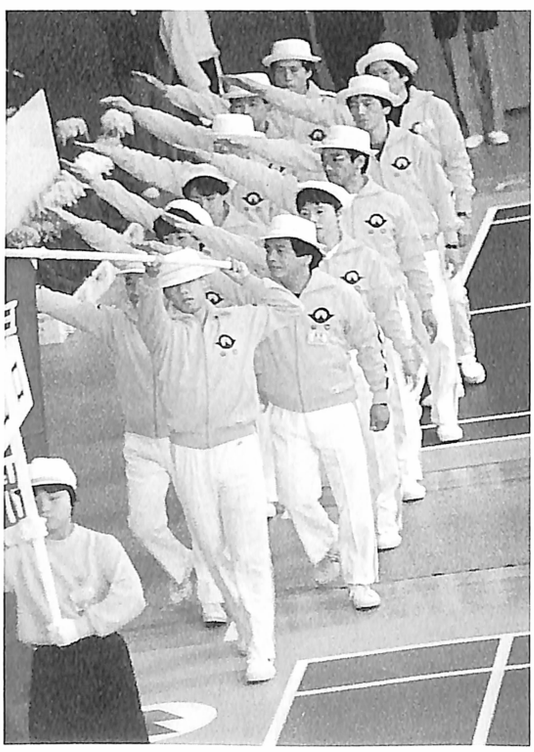
◀山口大学バドミントンOBは毎年集合し田中常正先生を囲んで旧交を温める。昭和50年頃の写真。



▶徳山市で行われた第一回日本リーグの開会式。昭和54年。



▲下松市では湯木博恵杯が創設され、競技力向上の役割を果たしている。写真は日本リーグ徳山大会での湯木選手。

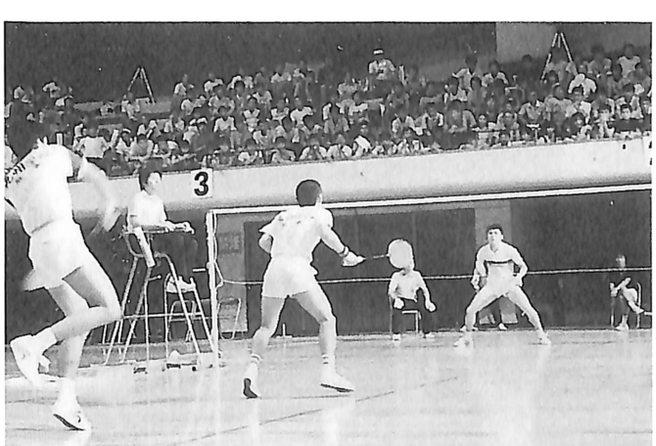


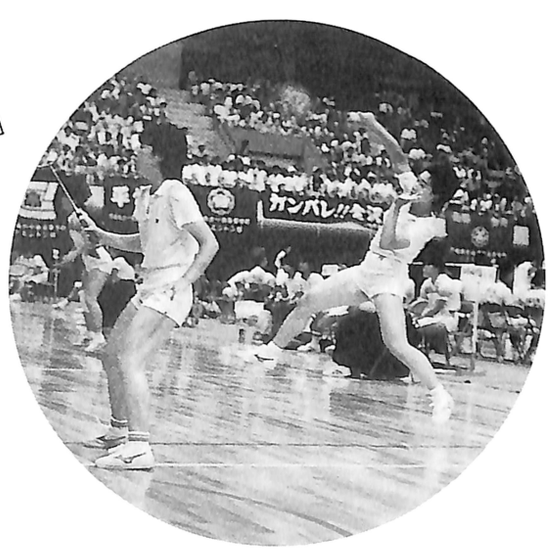
▶昭和60年、鳥取国体開会式、山口県選手団の入場行進。



◀昭和52年青森国体の山口県一般男女選手団。

熱戦展開





◀▲昭和61年、山口県を中心に開かれた全国高等学校総合体育大会の熱戦の模様。



▲昭和60年中国小学生大会の山口県選手団。鳥取県大栄町。



▲昭和40年岐阜国体一般男女山口県選手団。

グラビア



◀昭和63年、京都国体成年女子、少年男子の山口県選手団。



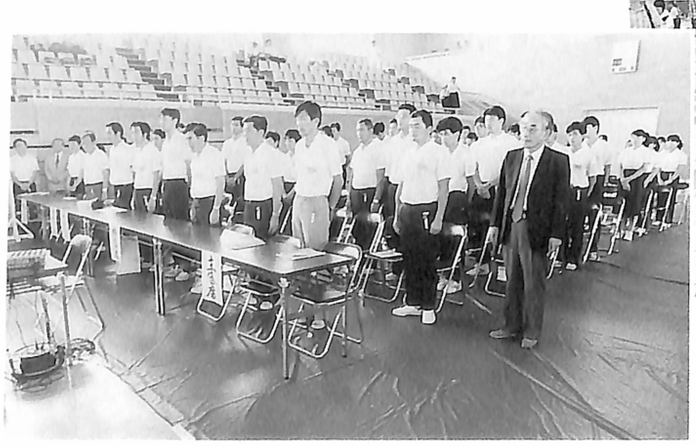
▲平成３年山口大学羽鞏会。毎年現役・ＯＢの対抗戦を楽しむ。



▲平成３年国体中国ブロック予選一般男子が優勝、石川国体出場を果たした山口県チーム。



▲全中山口県スポーツ文化センターの会場を去る選手達。



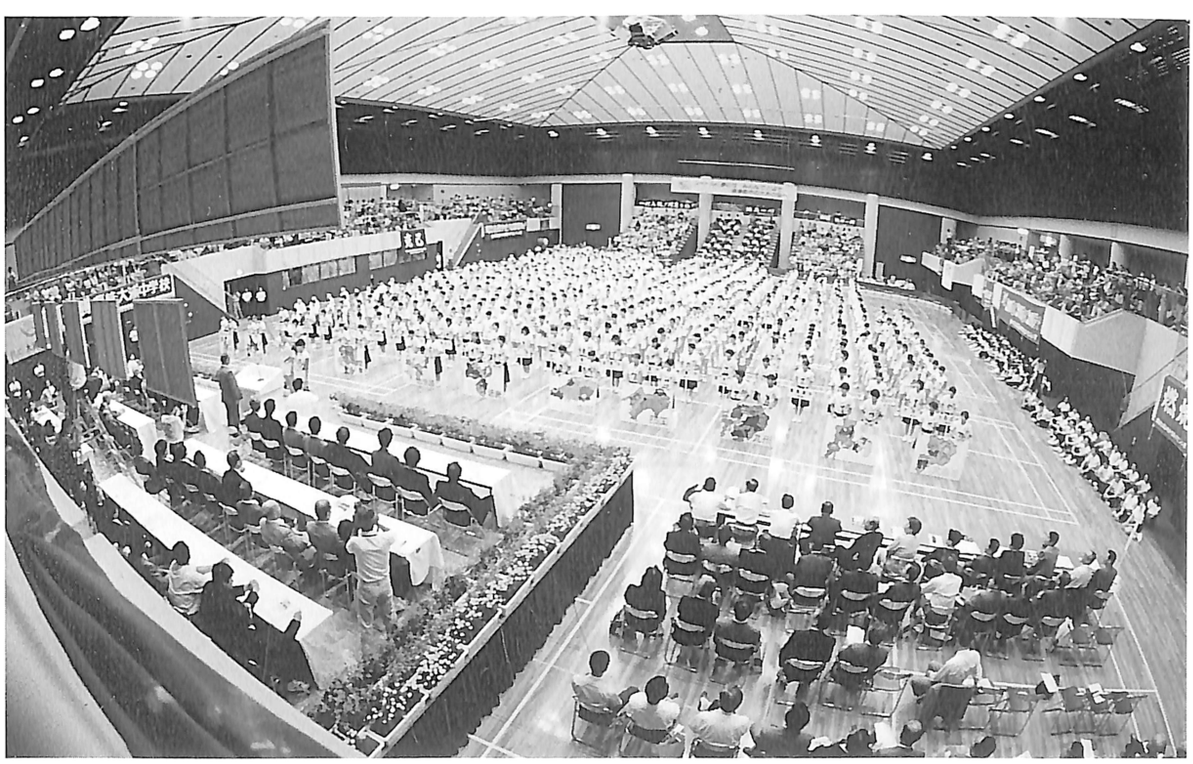
▲平成元年全中閉会式の模様。



▲全中、山口県代表大殿中女子チームの入場行進。



▲全中、須々万中は団体戦ベスト8に進出。
写真は複で奮戦中の睦田・森広組。



▲平成8年度第26回全国中学校バドミントン選手権大会の開会式の模様。
山口県から鴻南中・大殿中が出場。



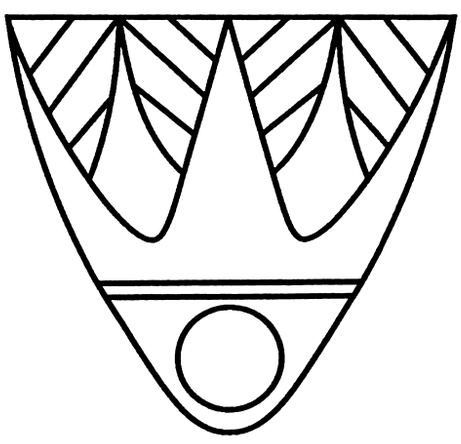
▲昭和60年、山口県スポーツ文化センターで
初めて県体が行われ、団体優勝した大殿中
チーム。



▲平成8年、広島国体に出場した
山口県一般男女チーム。

山口県バドミントン協会
シ ン ボ ル マ ー ク

（平成10年度制定）



シャトルでこそ出来る繊細なタッチのプレーをイメージし、山口県の栄光を王冠に託してシンボルマークとしました。

山口の文字とバドミントンの象徴であるシャトルをシンボライズした図案です。

単純明快をモットーに頑張ってみましたが、複雑で古めかしいものになってしまいました。

（尾上　忠）

沿　　革　　史

沿革史

山口県バドミントン協会50年の歩みを日記風にまとめてみました。

昭和24年度

○バドミントンの同好会が、田中萬亀太（山口女子大学教授）、友沢毅一郎（小郡郵便局長）、佐久間貫弌（山口高校教諭）、藤井豊秋（山口郵便局）、末広吉朗（小郡第一病院）などの有志により結成されたのが、山口県のはじまりといえる。

○第４回国体（東京都開催）よりオープン種目として、バドミントン競技が行われる。

昭和25年度

○昭和25年４月１日、山口県バドミントン協会が設立される。

○初代会長に長井秋穂（山口市長）、初代理事長に友沢毅一郎（小郡郵便局長）が就任する。

○７月　広田兼敏（日本バドミントン協会副会長）を山口市に招き、バドミントンのルールやプレーについて講習会を開催する。県下各地より、多数の参加がある。

○第５回国体（愛知県）から正式種目に採用され、一般男子、一般女子、高校男子の３種別、都道府県対抗の団体戦が始まる。

○５月　第１回バドミントン大会を小郡小学校で開催する。

昭和26年度

○理事長友沢より佐久間貫弌（山口高校教諭）となる。

○５月　山口県バドミントン協会結成記念大会が、小郡町小郡小学校講堂で開催される。種目は男子単複女子単複の４種目で、高校生、大学生、一般のフリー参加で、県下各地より多数の参加がある。

○９月　第６回国体バドミントン競技山口県予選会が小郡町小郡小学校で開催され、一般男子、一般女子、高校男子の３種別でそれぞれ単複優勝の３名が県代表として選出される。

○10月　第６回広島国体へ３種別に初参加をする。会場は広島市広島大学東雲分校体育館。

○３月　第１回山口県バドミントン指導者講習会が、日本バドミントン協会理事で岡山県バドミントン協会理事長の斉藤實氏を講師とし、山口市山口大学教育学部講堂で開催される。多数の受講者が参加する。

昭和27年度

○会長に野村幸祐（山口県教育長）、理事長に田中萬亀太（山口女子大学教授）が就任する。

○４月　山口県体育協会に加盟する。

○山口県下各地でバドミントン指導者講習会を開催する。講師に、友沢毅一郎、佐久間貫弌、田中萬亀太を、助手（技能プレイヤー）に末広吉朗、藤井豊秋、上俊明、福田修三、玉木康彦、津守幸介、中村由美子、豊福久恵を当て、講師１～２名に、助手２～４名をグループとし、同日に又は別の日に、宇部、萩、下関、美祢、防府、厚狭等に出向いている。

○６月　第１回山口県バドミントン選手権大会が下関市豊浦小学校で開催される。

○７月　中国四国県対抗バドミントン大会が広島県福山市で開催され山口県代表選手が出場する。

○９月　国体予選会が防府市華浦小学校で開催される。

○10月　東北３県国体、バドミントン競技は仙台市東北大学体育館で開催され、一般男女が参加する。高校女子が加わり、４種別となる。

○11月　山口県体育大会が、一般男女、高校男女単複の個人戦の４種別８種目で開催される。

○１月　山口県バドミントン協会指導者講習会が、県協会理事長及び山口市協会理事長の指導のもと山口市で開催される。

○２月　第１回山口県都市対抗バドミントン大会が山口市で開催され、男子１位山口市、２位下関市、３位小郡町、女子１位下関市、２位山口市、３位下松市となる。

沿革史

昭和28年度

○山口県高等学校体育連盟に、バドミントン競技が加入する。

○５月　山口県バドミントン新人大会が山口市山口女子短期大学で初めて開催される。

○７月　第２回山口県高校バドミントン大会が徳山市体育館で開催され、男子山口高校、女子聖光高校が優勝する。

○８月　中国四国バドミントン選手権大会が山口市大殿小学校講堂で開催される。初の県外からの選手を迎えての大会となる。

○９月　第２回都市対抗が光市室積小学校で開催される。男子１位山口市、２位小郡町、３位下関市、女子１位山口市、２位下関市、３位光市となる。

昭和29年度

○国体バドミントン競技、一般男女の部に、学生は参加してはならないことになる。（開催地は北海道）

○会長に10月より藤本菊二（山口県教育長）が就任する。

○９月　第３回中国バドミントン都市対抗大会が萩市萩一中と明倫小で開催される。

○10月　山口県体育大会が開催され、一般男女は、山口大学、ＹＫＣ（山口高校クラブ）勢が活躍、高校は男子山口高校、女子は下関南高校が優勝する。

昭和30年度

○４月　第５回山口県バドミントン協会結成記念大会が、小郡町小郡小講堂で開催される（延130人の選手が参加）。

○７月　中国５大学学生競技大会が山口市で開催される。

○10月　山口県体育大会が山口市で開催され、山口大学勢が圧倒的に上位を占める。

昭和31年度

○６月　国体山口県予選会が小郡町小郡小学校講堂で開催される。

○10月　第11回兵庫国体バドミントン競技が神戸市で開催され、一般男子が１回戦で福岡県を破り、初の１勝をあげる。

○10月　山口県体育大会が山口市白石中で開催され、山口勢と下関勢が活躍する。

昭和32年度

○５月　山口県高校バドミントン大会が、下関市で開催され、男子１位山口高校、２位柳井商工高校、女子１位柳井商工高校、２位下関南高校となる。

○６月　国体山口県予選会が防府市華浦小学校で開催される。

○10月　静岡国体バドミントン競技は富士市で開催され一般男子が参加する。

昭和33年度

○８月　山口県体育大会が山口市大殿小学校講堂で開催され、男子は山口大学勢、女子は山口大学、山口女子短期大学勢が活躍する。

○８月　第１回国体バドミントン競技中国予選大会が開催され、一般男子（全県国体出場）を除く３種別は優勝県へ国体出場権が与えられることになる。

昭和34年度

○山口県協会登録料は150円、加盟金は個人200円、団体2,000円となる。

○６月　第９回全日本実業団大会が香川県善通寺市で開催され、宇部興産と山陽パルプ岩国工場が初出場をする。

○７月　宇部市に俵田翁記念体育館が竣工。県下初の大型体育館でバドミントンコート６面取れるもの。

○９月　山口県体育大会が山口市で開催され、高校男子は山口高校、女子は徳山高校が優勝する。一般男女も日本化薬、下関クラブ、宇部チッソ、小郡クラブなど多くの選手が活躍するようになる。

○11月　山口県実業団職域対抗バドミントン大会が宇部市恩田小学校で開催され、男子は宇部チッソ、女子は山陽パルプが優勝する。

○10月　国体が東京都足立体育館で開催される。この年から教員男子が加わり５種別となる。

昭和35年度

○７月　山口市清水に山口県体育館が竣工する。バドミントンコート８面の県下最大のものとなる。
○10月　山口県体育大会が山口市鴻南中学校で開催され、高校男子は山口高校、女子は徳山高校が優勝、一般男女に山陽パルプ岩国工場の選手が活躍するようになる。県体が国体予選を兼ね、大学生と教員を除く、成績優秀選手が国体に参加する。なお、教員は国体教員の部にしか出場できなくなる。
○１月　第11回西日本バドミントン選手権大会が宇部市俵田翁記念体育館で開催される。滋賀、大阪、兵庫、岡山、香川、愛媛、福岡、熊本各県より約140名参加を得るが、西日本大会はこれで最後となる。
○２月　山口国体準備委員会が発足、委員に県協会から藤本菊二会長が就任する。
○２月　山口国体種目別候補地が決まる。バドミントン競技は下関市と決定。下関市では新設の体育館建設を決定している。

昭和36年度

○６月　山口県体育協会主催の山口県バドミントンレクレーション大会が山口市県体育館で開催され、山口県警察、武田薬品、山口県庁、日本石油など新しい参加者も加わり賑わう。
○山口県実業団バドミントン大会が岩国市川下中学校で開催され、男女とも山陽パルプ岩国工場が優勝する。
○９月　山口県体が開催され、個人戦から市と郡の対抗形式の団体戦となる。
○第１回山口県・福岡県対校団体戦を開催する。
○７月　第７回中国５大学学生競技大会バドミントン競技の部が山口市山口大学体育館で開催される。

昭和37年度

○会長に市河八五（山口県議会議員・下関市東和造船株式会社社長）、理事長に植田博宣（大洋漁業下関支社）がそれぞれ就任する。
○事務局を新たに設け担当を大野倍弘と新宅正和（ともに下関市役所）とする。
○７月　山口県バドミントン選手権大会が徳山市岐陽中学校で開催され、宇部窒素、山陽パルプ、徳山ソーダなど実業団選手が上位を占める。
○８月　山口国体強化策の一つとして全九州合同合宿に一般男女・高校男女・教員男子の強化選手が参加する。指導者は日本バドミントン協会常務理事の伊藤基記熊本県理事長（熊本女子大学教授）、熊本県菊地市体育館が会場となる。
○８月　国体中国予選に一般男子を除く４種別が参加。岡山国体なので岡山県不参加の４県で対抗、一般女子、高校男女、教員男子が全て優勝。国体出場権を得る。
○10月　岡山国体へ全５種別参加する。国体中国予選が開催されるようになって初の快挙となる。
○第６回全日本社会人バドミントン選手権大会が下関市で開催される。全日本の大会は初の開催となる。会場は早鞆高校体育館、日新中学校体育館、向山小学校体育館の３会場となる。
○９月　山口県体育大会が下関市早鞆高校で開催され、高校男子山口高校、女子徳山高校、一般男子山口市、女子下関市がそれぞれ優勝する。

昭和38年度

○６月、９月　国体強化合宿を下関で開催する。
○下関市体育館竣工。バドミントンコート８面半間接照明の近代的体育館となる。
○10月　第18回国体バドミントン競技は下関市体育館で開催される。開始式で教員男子津守幸介選手が選手宣誓をする。全種別参加で、一般男子が大活躍、教員男子も香川県に勝ち、天皇杯順位バドミントン総合８位となり、天皇杯得点を初めて獲得する。

昭和40年度

○シャトルは陸鳥球であったが、本年から水鳥球が採用されるようになる。
○４月　第５回山口県・福岡県対抗バドミントン大会が北九州市小倉区小倉高校体育館で開催される。使用球は水鳥球。男子Ａ複５チーム、男子Ｂ複５チーム、女子複５チームの対抗戦となる。
○４月　山口県バドミントン協会規約を４月１日から

実施。

○山口県学生バドミントン連盟規約施行。

○７月　第１回日韓親善バドミントン競技会が全国４箇所で開催される。これに伴い韓国選手団は韓水丸で下関に上陸し夜行列車で東京へ向かうことになる。この下関滞在中を練習や観光等のお世話をする。韓国選手団は役員２名、高校女子選手６名。

○６月　第８回中国高校バドミントン選手権大会が、下関市で開催され、男子団体の部で柳井商工高校が第３位となる。

○５月　中国四国学生バドミントン大会が山口市で開催される。

○８月　国体中国予選大会で一般女子が優勝する。

○10月　岐阜国体に於いて、一般女子が初のベスト８に入賞する。

昭和41年度

○事務局を、下関市彦島江ノ浦江向267－４、下関市立彦島中学校内に変更し、担当者として津守幸介、尾上忠、渡辺恒輔（いずれも同中教諭）の３名を当てる。

○協会登録人数は353名（岩国18、玖珂22、下松107、徳山55、都濃32、宇部17、長門６、下関38、高校48）となる。

○第１回山口県総合選手権大会が開催される。

昭和42年度

○日本バドミントン協会登録者44名、３級公認審判員資格者22名。

○山口県協会登録者、山口大学男子46女子22、山口女子短期大学女子11、宇部女子短期大学女子18、梅光女子短期大学女子24、山口大学医学部男子６女子３、山口大学工学部男子18、下関市立大学男子35、計男子105名女子75名（学生の登録数増加）、宇部22、徳山40、玖珂13、柳井４、岩国12、下松85、新南陽31、山口10、下関40、計257名。

昭和43年度

○日本バドミントン協会登録者数男女計50名となる。

○予算額　255,500円。

○８月　国体中国予選会が下関市で開催される。山口県は一般女子が優勝する。

○各県代表が集まり「中国実業団バドミントン選手権大会」を独立開催することが決定される。第１回大会は次年鳥取県で開催することになる。

昭和44年度

○広報部誕生、初代広報部長渡辺忠（新南陽市会議員東洋ソーダ）となる。

○第１回中国実業団バドミントン選手権大会が鳥取県倉吉市で開催される。参加チームは、宇部興産、岡山市役所、三井造船玉野、国鉄後藤工場の４チームで優勝は、三井造船玉野となる。

○６月　第12回中国高校バドミントン選手権大会が、下関市で開催され、女子団体で下関南高校が第２位、柳井商工高校が第３位となる。なお団体戦は１複２単となる。

昭和45年度

○会長に林義郎（衆議院議員下関市）が就任する。前会長市河八五は顧問となる。

○県協会登録料個人300円、団体人数割①29人以下5,000円　②30～39人6,500円　③40～49人8,000円　④50人以上10,000円、分担金各市郡協会3,000円、高体連・大学連各5,000円。

○日本協会登録料一般・大学生100円、高校生50円。

○県大会参加料１人１種目200円。

○各市町村開催の県大会は、参加者の増加をはかるべく工夫してよいことになる。例えば年齢別、ＡＢＣ級、複のみ、単のみ、混合複等。

○５月　第２回中国実業団バドミントン選手権大会を下関市で開催。女子団体の部が初めて設けられ、山口県山陽パルプ岩国工場チームが初優勝する。

○８月　３級公認審判員認定講習会が開催される。講師に日本バドミントン協会理事和田寿福岡県協会理事長と日本バドミントン協会理事毛利清志岡山県協会理事長の両氏を招く。受講者76名盛況となる。

○８月　第１回全国中学校バドミントン大会山口県予選会を開催する。

昭和46年度

○５月　中国実業団バドミントン選手権大会で宇部興産チームが初優勝をする。
○８月　国体中国予選大会で一般男子が初優勝し選手権を獲得する。また高校男子も優勝する。

昭和47年度

○登録料を改定する。個人300円、団体①20人以下5,000円　②30人以下7,000円　③40人以下9,000円　④50人以下11,000円。
○日本協会登録料、一般200円、高校100円、中学無料。
○日本協会登録者数、一般・大学生計218名（内大学連117名）。
○予算額　413,000円。
○表彰規定案完成。
○中国実業団大会で下関市役所が女子団体で初優勝をする。
○８月　第２回全国中学生バドミントン大会へ初出場をする。名古屋市開催。
○３月　３級公認審判員認定講習会を和木村体育館で開催する。講師は日本バドミントン協会理事毛利清志岡山県理事長。

昭和48年度

○表彰規定６月１日より施行することになる。
○昭和48年度被表彰者、市河八五前会長、田中萬亀太副会長、植田博宣理事長、松村哲幸理事の４名を功労賞とする。５月19日山口県会長杯大会（下関市体育館）の開会式の際表彰式を行う。
○県協会役員会費を拠出してもらうことになる。会長10万円、副会長３万円とする。
○シャトル斡旋価格を、サンバタキング１ダース1,900円、サンバタクィーン１ダース1,750円とする。

昭和49年度

○日本バドミントン協会「公認指導員資格開設特典」が施行される。（３級公認審判員は３級公認指導員に、２級審判員は２級指導員に１級は１級の資格をそれぞれの公認料を拠出すればもらえる。経験年数指導年数は４年以上。昭和49年６月30日で終了する。）
○公認審判員認定講習会の参加者から、会費200円を徴収することに決定する。
○委員会組織発足する。指導委員会委員長　山県保夫、審判委員会委員長　津守幸介、広報委員会委員長　渡辺忠、表彰委員会委員長　植田博宣となる。
○山口県体育大会は郡市対抗を中止し、郡市同一の団体戦とする。男子Ａ級２複１単、女子Ａ級１複２単、男子Ｂ級、40歳以上複１、30歳以上複２、フリー複２の５複対抗、女子Ｂ級、家庭婦人複２、フリー複２、フリー単１の５対抗とする。
○植田博宣理事長が、日本バドミントン協会中国選出理事となる。任期２年間。
○植田理事長は、日本バドミントン協会中国代表、用具委員会委員となる。
○津守幸介理事は中国代表の日本バドミントン協会審判委員会委員となる。
○６月　第17回中国高等学校バドミントン選手権大会が下関市で開催され、男子団体の部で下関商業高校が第２位、下関中央工業高校が第３位、女子団体の部で、徳山高校が第３位、男子複の部で、梅月・瀬戸組（下関中央工業高校）が優勝、男子単の部で、重永光弘（下関商業高校）が第３位となる。
○高校の団体戦が１複２単となる。

昭和50年度

○山口県協会に登録した会員は全員、日本協会にも登録することを原則とすることになる。
○山口県大会の参加料を１人１種目、一般500円、学生400円とする。
○ママさん対策を推進する。担当理事を渡辺忠とし、組織作りや独自の大会等、具体的に考慮実施することになる。
○中国審判委員会発足、初代委員長　島根県（理事長）石原幸雄、副委員長　山口県津守幸介、委員　岡山県毛利清志、柳本尭敏、広島県安倍淳美、鳥取県佐々木義政、山口県渡辺恒輔（1975．11．14決定）
○11月　中国実業団バドミントン連盟が結成される。

沿　革　史

昭和51年度

○山口県バドミントン協会専門委員会規約施行（４月１日）

○県協会に副理事長１名、常務理事10名を設置する。副理事長　津守幸介、常務理事、表彰　岡崎光弘、広報　川岡智、競技　山県保夫、審判　渡辺恒輔、実業団　松村哲幸、教員　三井裕、大学　本広隆之、高校　三浦捷治、中学　山本英彦、家庭婦人　渡辺忠となる。

○役員分担金、会長15万円、副会長５万円、理事長３万円、副理事長１万円、常務理事５千円、理事３千円をそれぞれ拠出することになる。

○Ａ級・Ｂ級のランク分けを一本化する。Ｂ級の複で優勝すれば、両人ともＡ級となる。パートナーを変わってもＢ級には出場できない。

○日本協会登録数、一般男子213名、女子52名、計265名、大学生男子291名、女子130名、計421名、合計686名。

○県内７事業所が加入して、山口県実業団バドミントン連盟が結成された。

○10月　第31回佐賀国体で国体10回出場優秀選手として、河添忠夫（宇部興産）が日本バドミントン協会より表彰される。

昭和52年度

○６月　第20回中国高等学校バドミントン選手権大会が倉吉市で開催される。男子団体の部で、柳井工業高校が初優勝をする。

○８月　第28回全国高等学校体育大会において、男子単の部で、喜良明文（柳井工業高校）が第３位となる。

○８月　第16回全日本教職員バドミントン選手権大会が、下関市体育館ほか３会場で開催された。

○10月　第32回青森国体で国体10回出場優秀選手として、末廣秀樹（宇部興産）が、開会式の際、日本バドミントン協会会長より表彰される。

昭和53年度

○事務局を下関市、山口県立下関中央工業高校内に置く。事務局長に岸野保則、局員に植田久昭（いずれも同高校教諭）が就任する。

○高等学校の団体戦が２複１単となる。

○中国実業団大会女子団体の部で日新製鋼（新南陽市）が初優勝をする。

昭和54年度

○理事長に津守幸介が就任する。前理事長植田博宣は副会長に就任する。

○副理事長３名を選出決定する。東部地区　渡辺忠（新南陽市）、中部地区　松村哲幸（宇部窒素）、西部地区　大野倍弘（下関市役所）が就任する。

○６月　第22回中国高等学校バドミントン選手権大会が、下関市で開催され、男子団体の部で、下関中央工業高校が第３位、男子単の部で、伊藤宏（山口高校）が第３位となる。

○下松市制施行40周年記念招待バドミントン大会が下松市民体育館で開催され、一流選手のプレーを楽しむ。

○第34回国体バドミントン競技が宮崎県で開催される。教員男子は本年で終了することになり、全県参加となる。

○全日本実業団大会が岡山で開かれ川岡智・河野耕司（山パル）が40歳以上複で優勝した。

昭和55年度

○指導委員会が、競技と指導・強化に分離され、指導委員会委員長は前山県委員長から末廣秀樹委員長に中学担当常務理事も前山本常務理事から尾上忠常務理事にバトンタッチされる。

○第２回バドミントン日本リーグ徳山大会を徳山市体育館で開催、山口県協会に初のコートマット１コート分を保有することになる。男子ヨネックス対カワサキ、女子カワサキ対全日本学生が対戦する。

○第35回国体（栃木県開催栃の葉国体）から成年男女・少年男女の４種別の都道府県対抗団体戦となる。全県出場できる種別を輪番制とし、残り３種別を中国ブロック大会の１位と２位がブロック代表として出

場できるようになる。
○山口県教職員バドミントン連盟が結成され、初代会長に植田博宣、初代理事長に三井裕が就任する。
○第１回中国中学校バドミントン選手権大会が開催され、個人戦男子単の部で、沖貞雄（徳山　須々万中学校）が優勝、男子複で、高橋和也・松原康則（須々万中学校）が優勝する。

昭和56年度

○11月　公認審判員指定講習会を岩国市で開催し、２級２名、３級17名の合格となる。
○12月　第３回バドミントン日本リーグ下関大会が下関市体育館で開催される。女子　カワサキ対全日本体育大学、サントリー対三洋電機の２対抗のゲームが行われ、有料の多数の観客が熱戦にわく。

昭和57年度

○日本バドミントン協会が財団法人として発足する。中国地区理事として岡山県理事長岡本武利を選任、本県津守理事長は評議員となる。
○リバーススピンサービスはＩＢＦ総会で７月１日より禁止となる。
○山口県協会支部分担金を１万円とする。
○６月　旅費規定ができる。山口県バドミントン協会専門委員会規約の一部改正をする。
○６月　公認審判員認定講習会を下関市で開催し、２級４名、３級20名の合格者を得る。
○７月　全国私立短期大学体育大会バドミントン競技が山口県体育館、山口高校体育館で開催される。山口市協会を中心に援助協力をする。
○２月　公認審判員認定講習会を山口市で開催する。３級37名合格する。
○３月　第11回全国高等学校選抜バドミントン選手権大会において、男子複で、沖貞雄・高橋和也組（柳井工業高校）が第３位となる。
○３月　県協会常務理事を次のように交代する。実業団　松村より川岡智（岩国市）、表彰　岡崎より蔵成秋次（山口市）、指導を指導と競技に分離し、新たに競技　三井裕（山口市）となる。
○ヤマハ講習会を宇部市俵田翁体育館で、指導委員会主催で開催し、盛況を得る。
○10月　島根国体が大東町で開催され、山口県から国体審判員４名（津守幸介・尾上忠・藏成秋次・渡辺恒輔）が参加する。

昭和58年度

○日本協会・県協会登録者数、一般男子520名、女子396名、計916名、大学生男女計500名、高校生男女計372名、中学生男女計500名、合計2,288名。
○家庭婦人連盟の結成について協議し、実業団連盟、教職員連盟と同様に各市郡協会より代表を出し組織化することになる。
○８月　第34回全国高等学校総合体育大会において、男子団体の部で、柳井工業高校が第３位となる。
○高校の団体戦が２複３単（第１単は複には出場できない）になる。
○３月　山口県バドミントン協会大会運営規定を制定する。

昭和59年度

○第１回中国家庭婦人バドミントン大会を鳥取県で開催する。
○第１回山口県都市対抗バドミントン大会を、改めて開催する。男子フリー複２、35歳以上複１、45歳以上複１、女子フリー複２、30歳以上複１の７複対抗とし、２回以上競技ができる方法とする。
○第６回バドミントン日本リーグ山口大会が、山口県スポーツ文化センターで開催される（11月18日）。男子　電々東京対高岡市役所、女子　ヨネックス対トヨタ自動車となるが、４チームの選手達のすばらしいプレーに県内の愛好者は感動する。
○第１回山口県小学生バドミントン大会が開催される。

昭和60年度

○６月　第28回中国高校選手権大会が山口市で開催され、男子団体の部で、柳井工業高校が優勝、下関中央工業高校が第３位、女子団体

の部で山口中央高校が第３位、男子複の部で、田中・森本組（柳井工業高校）が優勝、河野・広谷組（徳山高校）が第２位、安田・吉田組（下関中央工業高校）が第３位、内富・金子組（柳井工業高校）が第３位、男子単の部で、田中伸幸（柳井工業高校）が第２位、河野強志（徳山高校）が第３位、田内正彦（新南陽高校）が第３位となる。

○山口県体バドミントン競技の実行委員に、山口市重田道正を選任する。

○全日本教職員大会、40歳男子単で杉原哲彦（東亜大学教授）が優勝する。

○10月　第40回鳥取国体が大栄町で開催され、山口県から国体審判員として３名（津守・尾上・渡辺）が参加する。

昭和61年度

○各支部分担金が4,000円となる。

○国体選手の選出方法を変更する。最初に複の試合をし、優勝者２名を決定し、残りの選手で単をし優勝者を国体選手に加えることにする。

○５月　下関市で開催された、公認審判員認定講習会の受講者から受講料として公認料と同額を拠出してもらうことになる。

○８月　第37回全国高等学校バドミントン選手権大会が下関市で開催される。開会式は下関市民会館で、競技主会場は下関市体育館、競技会場は、梅光短期大学、下関南高校、下関商業高校、下関中央工業高校それぞれの体育館６面で合計32コートを使用する。練習会場が50コート以上必要ということで、小・中学校の体育館や市立大学、公共施設の体育館を多数借用する。

○３月　大会運営規定を一部改正する。

昭和62年度

○登録料にオリンピック基金を加え拠出する。一般は1,500円＋200円、大学生1,000円＋200円、高校生500円＋100円、小・中学生０円＋100円。

○ヨネックスカップ大会・ヤマハカップ大会を新設する。

○第42回沖縄国体で、坂本賢二（宇部興産）が、選手国体10回出場で表彰される。

○中国実業団大会の女子団体の部で、下関大丸が初優勝をする。

昭和63年度

○第43回国体中国ブロック大会が、山口市で開催される。

○第９回中国中学校大会が、下関市で開催される。

○８月　第６回全日本家庭婦人バドミントン大会が、立川市民体育館で開催され、本県選手が初参加をする。

○３月　山口県家庭婦人バドミントン連盟が設立総会の後、結成される。初代会長に林万里子（林会長夫人）、初代理事長に松村和美（防府市）が就任する。

○３月　中国地区協会理事長・事務局長会議を岡山市で開催。今後毎年１回開催することになる。

平成元年度

○中国地区指導委員会委員　末廣秀樹、三浦捷治、佐藤純一、同審判委員会委員　津守幸介、渡辺恒輔、同競技委員会員　三井裕、久次優、以上を山口県代表委員とする。

○事務局長に植田博宣が就任する。

○登録を、日本協会700円、県協会1,500円の２本立とする。

○６月　第７回中国家庭婦人大会が下関市で開催され、全４種目１位２位を山口県が独占する。

○８月　第19回全国中学校バドミントン大会が、山口市、山口県スポーツ文化センターで開催され、団体戦18チーム、個人戦男女単複24チームが参加し、熱戦が繰り広げられる。室温の変化に応じてシャトルを変更したり、クーラーも使用する。

○中国実業団大会の男子団体で、山陽国策パルプが、初優勝をする。

○12月　第11回バドミントン日本リーグ下関大会が下関市体育館で開催され、男子　トヨタ自動車対ＮＴＴ北海道、女子　ヨネックス対三洋電機が対戦する。

○３月　第18回全国高等学校選抜バドミントン選手権

大会において、男子単で棟居秀行（柳井工業高校）が第２位となる。

平成２年度

○６月　第33回中国高校選手権大会が、柳井市及び田布施町で開催され、男子団体の部で柳井工業高校が優勝、徳山工業高校が第２位、下関中央工業高校が第３位、女子団体の部で、高森高校が第２位、男子複の部で、棟居・武内組（柳井工業高校）が優勝、秋元・生島組（徳山工業高校）が第２位、男子単の部で、棟居秀行が優勝、武内敏寿が第２位、秋元直幸が第３位、女子単の部で西町由紀（高森高校）が第３位となる。

○第３回中国地区市役所バドミントン大会が、山口市山口県体育館で開催される。

○８月　全日本家庭婦人バドミントン都道府県対抗大会が、金沢市で開催され、山口県は第３位となる。

平成３年度

○日本協会登録者数、一般男女計315人、山口県協会登録者数、一般男女計1,122人。

○７月　第42回中国５大学学生競技大会が、山口市で開催される。

○10月　第34回中国社会人バドミントン選手権大会が、山口市山口県スポーツ文化センターで開催され一般男女単複等11種目に358名が参加、熱戦が展開される。

○１月　全国高校選抜中国予選会が、徳山市体育館で開催される。

○全日本シニア大会で、杉原哲彦（東亜大学教授）が50歳以上単に出場し見事初優勝をする。

平成４年度

○５月　第24回中国実業団選手権大会が、宇部市俵田翁体育館で開催される。

○８月　中国中学校バドミントン選手権大会が、島根県大東町で開催され、男子団体の部で末武中学校が優勝、個人単の部で、増田敏雄（末武中学校）が２年連続優勝する。

○12月　全日本学生東西対抗大会が、徳山市で開催され、西軍メンバーに唯一東亜大学平尾選手が加わり大活躍をする。

○全日本シニア大会で、杉原哲彦（東亜大学教授）が、50歳以上男子単で２年連続優勝をする。

○８月　中国ブロック国体予選大会で、３種別とも第２位になり、山口国体以来全種別国体参加権を獲得する。

平成５年度

○日本バドミントン協会登録者数、一般男女計267名、高校男女計500名、県協会登録者数、市郡最多徳山市150他19市郡で、男女計1,106名。

○第12回中国地区家庭婦人バドミントン大会で、山口県選手が、国体・年齢別個人４種目全部優勝する。

○８月　第14回中国中学校大会が山口市山口県スポーツ文化センターで開催される。

○８月　国体中国地区大会が下関市体育館で開催され、成年男子がブロック制になって初優勝となる。

○12月　第３回中国地区教職員大会で、山口県が、団体優勝他好成績を納める。

平成６年度

○大会運営規定一部改正。

○常務理事競技委員長に松本克芳、常務理事教員に福田光博が就任する。

○６月　第11回中国地区家庭婦人大会兼全国大会予選大会が山口市で開催される。

○７月　第７回中国地区市役所バドミントン大会が徳山市で開催される。

○第12回全日本家庭婦人バドミントンクラブ対抗大会が愛知県で開催され「下松ホワイト」が準優勝をする。

○２月　兵庫県南部地震の災害義援金の募集を行う。

平成７年度

○６月　第38回中国高校選手権大会が徳山市で開催され、女子団体の部で柳井工業高校が第３位、男子単の部で立石恵介（下関中央工業

高校）が第３位、女子単の部で松中満美（柳井工業高校）が第３位となる。

○山口県協会主催県内大会は42大会となる。

平成８年度

○事務局長に久次優（下松市）が就任する。

○山口県ジュニアバドミントン連盟が結成され、同時に、日本ジュニアバドミントン連盟に加盟する。

○10月　中国地区総合バドミントン選手権大会が徳山市総合スポーツセンターで開催され、一般男子複の部で河野強志（下関市下関南高校教諭）・田内正彦（徳山市役所）組は、昨年に続いて連続優勝をする。30代40代複と50代単複共に山口県選手が優勝をする。

平成９年度

○山口県協会規約改正をし組織改革をする。

○会長に林芳正（参議院議員下関市）、理事長に三井裕（山口市）が就任する。前理事長は副会長となる。指導委員会を国体強化部と指導普及部に分割。

○中国実業団大会の男子団体の部で、徳山市役所が初優勝をする。

○第40回全日本社会人バドミントン選手権大会が神奈川県で開催され、本県出身の棟居秀行選手（ベスト電器）が、単・複とも第３位となる。

○全日本シニア大会が福岡市で開催され、松村和美（防府）が50歳以上複で優勝する。

市郡協会の歩み

玖珂郡バドミントン協会の歩み

玖珂郡バドミントン協会　古賀孝博

玖珂郡バドミントン発祥の地は和木町であり、昭和36年頃、日本紙業に藤本という実力者がいて、県内大会に出場し優秀な成績をおさめていたことがきっかけとなっている。

この頃、三井化学が大竹に工場を建てるため買収した旧大竹高校の体育館に日本製紙の選手を招きルール、打ち方等の指導を受けたのが始まりで、何とか格好のついた38年に県協会に登録し、大会に参加するようになった。

その後もいくつかの県内大会に参加したが午前中に帰ることが多く、昭和42年の大会で笹川、田中ペアが初めて優勝した際は祝賀会を開催し大いに喜んだものだった。

また、昭和39年、興亜石油に体育館が完成し、所内の対抗戦を行ったことから、めきめき頭角を表したのが木山、田中ペアであり、県内の大会は勿論のこと県外でもその名が知れ渡るようになった。なお、木山はこの活躍が認められ、玖珂郡第１号の優秀選手賞を受賞した。さらに、木山は全国大会にも参加し、その実力を発揮していたが、病気には勝てず、平成８年３月、62歳でバドミントン人生に終止符を打った。

一方、三井化学では昭和52年に体育館が完成しバドミントン愛好者も徐々に増加して部員も増えたが、その中で交替勤務にも拘わらずとりつかれたようにラケットを振り、シャトルを追ったのが、加藤、古賀ペアだった。２人は30歳になると向かうところ敵なしといった感じで、中国大会では昭和61年、62年と連続優勝し、異例の優秀選手賞を受賞した。その後も２人は県内外の大会で活躍し、優秀な成績を残している。

さらに、昭和53年に柳井工業高校から喜良が興亜石油に入社し、一段とレベルアップにつながったことは言うまでもなく、本人も県内外の大会に参加し、好成績を収めている。

また、興亜石油と三井化学はお互いに技を磨くために交流を図り、ペアを組んで各大会に参加していたが、昭和62年の中国大会40代の部で興亜石油の田中、三井化学の照永ペアが、また平成７年の同大会40代の部で金子、広田ペアが優勝した。

玖珂郡では社会人になってからラケットを握る人が多いため、30代、40代及び50代の選手層が厚く、県体育大会の年齢別では平成元年から５年まで連続優勝した実績がある。その中でも中村、吉田ペアの奮闘が目立っており、このペアは平成９年の中国大会50代の部で優勝するなど、輝かしい成績を残している。

このようなすばらしい選手が玖珂郡で育っていることは、選手本人の努力もさることながら、団体戦等で皆の陰の力になっている人達がいることが大きな要因となっている。興亜石油では加藤、原田、中本、三井化学では広子、三分一、藤田らがこれに該当する。

この30年間玖珂郡バドミントンの発展に多大な成績を残した元理事の古賀孝博（平成４年功労賞受賞）及びプレーイングマネージャーとして活動した中川の存在も忘れられない。

一方、女性軍は県大会でＡ級まで辿り着いた人が何人かいるが、家事等に追われて中途で止める人が多いのが現状である。このような中、家庭婦人では、休萬、長崎、松尾、本田などが現在でも引き続き汗を流している。

現在、玖珂郡にはバドミントン協会はなく、各企業等がそれぞれの町村にある体育協会に所属してクラブ活動的な形式をとっている。

なお、県協会に係る事務は現在、三井化学が行っており、県大会等の書類は三井化学を中継して関係先に配布している。

岩国市バドミントン協会の歩み

岩国市バドミントン協会理事長　川　岡　　智

岩国市バドミントンの発足は昭和25～26年頃であり、一企業の同好会員の熱意により設立された。

当時は、設備はなく、道具も不足しており、練習は倉庫の空き部屋や屋外で行い、コートはチョークで書き、ネットは柱にくくりつけ、シャトルは補修したものを使用していた。

市民大会は、参加者が少なく、一般男女のみの種目で、午前中に大会が終了する状況だった。

また、当時は指導者もなく、トレーニング方法も手探りの状態だったが、岩柳地区大会などを開催していくうちに、現県協会副会長の津守幸介先生に巡り会うことができた。

大学時代に中四国大学選手権大会などで活躍されたパワーとスタイルはシャトラーの憧れの的であり、試合ごとに先生のプレーに釘付けにされ、ラケットワーク、フットワーク、ゲームの進め方などをメモしたり撮影したりして参考にし、会員で技術の研修に努めたものである。

また、先生の指導を受けながら、競技技術の習得と同好者の育成に情熱を注ぎ、今日の岩国地区バドミントンの基礎を築きあげた。

当時のバドミントン競技は、新興スポーツであり、女性のするもの、羽根つきなどと言われ、男性や古来からのスポーツ愛好者からは敬遠されたものだった。

このため、初代会長の半田藤五、理事長の中浜浅吉を中心に同好会員の拡大と選手の育成強化を図り、第18回の山口国体を目標に取り組んだ結果、一般の部で県選手権保持者や国体選手を生み出すようになった。

また、国体を境にして、職場や市民のバドミントンへの認識も変わり、より高度な体育競技へと発展した。

昭和41年には、協会役員も会長が田中重之、理事長が川岡　智に交替し、協会の発展のために次の目標を掲げ、役員一同情熱を持って取り組んできた。

1．組織の充実（専門委員会の結成）
2．Ａ級選手の強化（合同練習の実施）
3．底辺の拡大（スポーツ教室の開催）
4．モデル地区の設定（各地区公民館の活用）

また、県東部のレベルアップのために、山陽国策パルプ（現日本製紙）の川岡、興亜石油の木山（故人）三井石油化学の古賀が中心となって、合同練習を計画し、実施してきた。

現在は、西村栄時会長を中心として、この協会目標の４項目にジュニア、シニアクラブの育成を追加して、市協会のより一層の発展のために、役員一同努力している。

現会員は、約600名（協会登録者）となっているが、未組織の同好者やスポーツ教室修了者等を含めると1,000名以上になると思われる。

今後は、底辺の拡大とＡ級選手の強化を重点に取り組んでいく考えである。

なお、今後は次の理念を持ち、教育委員会と協会が一体となって目標に取り組んでいく所存である。

1．頂上を高めるほど、底辺は広がる。
2．参加したら勝つこと。
3．才能ある選手を伸ばす。

柳井市バドミントン協会の歩み

柳井市バドミントン協会理事長　山　下　新　一

昭和50年頃から、柳井市教育委員会が社会体育振興の目的でバドミントン教室を始め、当時三浦捷治（現柳井市協会長）をはじめ地元の柳井工業高校ＯＢによる指導を受けるようになり、教室の卒業生を中心に柳井中央クラブが結成され、一時は会員数が100名を越えるほどの盛況となった。

また各地区で学校開放事業が進み、日積、伊保庄、新庄、柳東、余田、家庭婦人、トリム、市役所等のクラブや愛好会が誕生した。

年々増加する愛好者とともに協会設立の気運が高まり、昭和58年12月柳井中央クラブが中核となり、柳井市内の各団体と愛好者の総意により規約を制定するとともに、役員を選出し、柳井市バドミントン協会が発足した。

初代の会長に三浦捷治（柳井工業高校バドミントン部顧問）、副会長に山崎伍郎（伊保庄クラブ）、中元正二（日積クラブ）、理事長に西本　修（柳井中央クラブ）が就任し、役員体制がスタートした。

協会の事業として以下の大会等を開催している。

(1)　ビギナーズ大会

底辺の拡大と初心者を対象とした大会で平成10年度から開催している。

(2)　柳井市近郊大会

それまで柳井中央クラブが単独で開催していた大会を本協会が引き継いだもので、最も歴史の古い大会として継続している。

(3)　県東部地区新人大会（後に東部地区大会と改称）

県協会主催大会として開催しており、東部地区のバドミントン愛好者の競技力向上への良い刺激となり、また普及の場としても定着している。

(4)　県小学生大会

小学生にバドミントンへの興味を持たせ、底辺の拡充とレベルアップを図るため、県内に先がけて昭和58年12月に第１回柳井オープン小学生大会を開催した。

この大会は200名を越す参加者数で、選手たちはフロアいっぱいに懸命なプレーを展開し、盛大な大会となった。

翌59年からは「山口県小学生大会」として県協会の主催となり、柳井市協会が主管して開催している。

(5)　山崎杯記念小学生大会

平成４年６月副会長の山崎伍郎氏が突如急死された。長年、小学生の指導に非常に尽力された山崎氏の功績を讃え『山崎杯記念小学生大会』として開催している。この大会には毎年県内各地から多数の参加があり、盛大に開催され、子供たちに大変喜ばれている。

(6)　グループ対抗大会（平成４年度～）

市内の各団体の交流を深めることを目的としており、団体戦ということもあって勝負に拘らないユニークで楽しい大会になっている。

(7)　やないオープン大会（平成９年度～）

国体選手・日本リーグ出場選手を招聘し、競技力向上と底辺の拡大を図ることを目的に、『やないオープン大会』として平成９年４月に開催した。

第１回はベスト電器の選手らを招待し、日本のトップレベルの技量を披露した。今までにない大会として今後の成果を期待している。

○協会の育成、充実、確立

平成４年５月に役員改選を行い、理事長に山下新一（日積クラブ）が就任し、５年４月には副会長に橋本堅司（柳井中央クラブ）、難波文雄（柳井中央クラブ）の両氏が就任した。協会専門委員（競技、指導普及、審判、学童）の充実と連携をはかり、各種大会の運営にあたっては理事長が総括することで組織の確立を図っている。

また、地元の伝統ある柳井工業高校バドミントン部（団体の部に寄稿）には、技術指導、競技、審判に関することまで常に指導助言していただいている。

柳井市協会は、現在バドミントン人口の減少傾向のあるなか、会員数約50名と小さな所帯であるが、役員一同一致団結し微力ながら活動を続けている。

熊毛郡バドミントン協会の歩み

熊毛郡バドミントン協会理事長　山根康夫

熊毛郡には、上関町、平生町、田布施町、大和町、熊毛町の５町があり、従前は、それぞれの町が個々に活動し、年に１度だけ熊毛郡体育大会において各町の対抗戦があるだけだった。

しかし、昭和53年に田布施町に待望の勤労者体育センターが完成し、54年１月に田布施町近郊バドミントン大会が開催されたのを機に、「熊毛郡バドミントン協会」を設立しようという話が持ち上がった。

そこで、当時熊毛郡体育協会のバドミントン部長であった内山勝憲が５町に呼びかけ、昭和54年６月10日に協会設立のための会議が開催され、同年６月20日に熊毛郡バドミントン協会が設立された。

この時の役員は、会長に内山勝憲（平生町）、副会長に山根一美（平生町）、理事長に大木清（平生町）、事務局長に戸村進（田布施町）が当たり、各町からの２名の理事で構成された。

熊毛郡バドミントン協会の行事として、まず、指導者講習会を昭和54年10月に柳井工業高校の三浦捷治先生を講師として開催した。

また、同年11月に第２回田布施町近郷バドミントン大会を150人の参加により開催した。なお、この大会は年々盛会になり、平成９年には節目となる第20回大会を開催した。

また、この後、平生町、熊毛町、上関町にも次々と体育館が完成し、各町主管でそれぞれの町の特色あるバドミントン大会が開催されている。

最後まで体育館を持たなかった大和町にも平成５年に体育館が完成し、現在までにすべての町に活動の場が整備されたことから、今後益々バドミントン人口が拡大されるとともに、技術のレベルアップが望まれるところである。

熊毛郡バドミントン協会の特色の一つは、家庭婦人であり、毎年全国大会に石井伸子、松村美千代、俵山美子が出場し、好成績を収めている。そして、この３人に熊毛郡全体の家庭婦人が引っ張られ、家庭婦人全体の技術向上は言うまでもなく、バドミントン人口の拡大も図られ、組織も強化されている。

また、もう一つの特色は、団体戦の強さであり、熊毛郡協会が設立されるまでは、熊毛郡体育大会の優勝チームが県体育大会に参加していたが、結成後は、熊毛郡協会で選手を選抜して参加するようになり、５町の力が一つになったことから強力なチームづくりができるようになった。

この結果、昭和59年、平成６年には年齢別の部で男女アベック優勝し、これ以外にも男子が準優勝４回、女子が優勝１回、準優勝１回という好成績を残している。

また、都市対抗においても準優勝１回、３位が２回と、個人戦ではとても残せないような好成績を団体戦で残してきた。このことから見ても、熊毛郡協会が昭和54年に結成されてから現在まで順調に発展してきたと言える。

協会の会長は２代目の白石晃徳、３代目の大江正一（現会長）に引き継がれ、現在の役員は副会長に内山信博、理事長に山根康夫、家庭婦人理事長に松村美千代、事務局長に石井伸子が就任し、各町から３名ずつ15名（家庭婦人理事を１名増加）の理事で構成している。

今後も、役員一同、熊毛郡バドミントン協会の発展だけでなく県協会の発展にも微力ながら寄与できるよう努力していく所存である。



平成６年のアベック優勝の時のメンバー

光市バドミントン協会の歩み

光市バドミントン連盟顧問　吉　川　慶　一

昭和21年、光市体育協会が体育愛好の有志によって発足し、22年には市民体育祭を開催するなど体育振興に乗り出した。

バドミントン競技としては、昭和25年に連盟組織として新発足したのに合わせ、27年にバドミントン連盟として光市体育協会に加盟した。この時の会長は国本重一、副会長は田村敏郎だった。

昭和27年９月には第１回市民バドミントン大会を開催し、29年には県大会として第２回山口県バドミントン選手権大会を開催し、さらに、32年には県行事として、バドミントン普及講習会を開催した。

その後、しばらく活動を休止していたが、昭和38年の山口国体にも刺激され、39年４月に武田薬品工業㈱光工場バドミントン部を主体として光市バドミントン連盟を再発足させた。

この時の会長は北口幸一、副会長は松隈亮、理事長は吉谷武、理事は片岡銕生だった。

昭和40年からは県体育大会に参加し、42年からは周南四市バドミントン大会にも参加している。

その後、昭和52年３月、新日鐵光製鐵所にバドミントン同好会が発足し、これを契機として市内の各企業、各地区公民館所属のバドミントン愛好者他一般市民の有志を広く吸収し、従来武田薬品バドミントン部のみであった連盟を改組し、現在に至っているが、この時の会員は８グループ89名だった。

また、光市スポーツ館の竣工を受けて毎週計10回のバドミントン教室を教育委員会の主催で連盟が協力して、家庭婦人を主に対象として実施し、以後平成８年まで継続している。なお、これが家庭婦人グループ結成の母体となっている。さらに、この年から市民バドミントン大会を開催し、以後今日まで継続して実施している。

昭和55年から市民バドミントン初心者大会を開催し、56年からは家庭婦人グループが分離、独立して協会に加盟している。また、市長杯争奪市民バドミントン大会の開催を開始した。

昭和57年には武田薬品記念体育館が竣工し、58年には家庭婦人大会、63年には光市連盟会長杯市民バドミントン大会の開催を開始した。

平成２年には、会長を兼清悦子とし光市家庭婦人連盟が結成され、山口県家庭婦人連盟に加盟している。

平成５年度からは、光市総合体育館の竣工を受けて毎週水曜日をバドミントンの日として市民に開放し、連盟で運営している。また、光市制50周年を記念して光市近郷バドミントン大会の開催を開始している。なお、平成９年度現在、協会に登録している会員は20グループ、518名となっている。

〔役員〕

昭和53年度～会長－佐田政郎、副会長－橘和　醇、片山忠義、理事長－吉川慶一

昭和56年度～会長－橘和　醇、副会長－吉川慶一、中嶋洋治、理事長－安部文明

昭和60年度～会長－武藤光明、副会長－吉川慶一、中嶋洋治、理事長－安部文明

昭和61年度～会長－武藤光明、副会長－安部文明、中嶋洋治、理事長－吉川慶一

昭和62年度～会長－渡辺省吾、副会長－末岡健助、理事長－吉川慶一

平成９年度～会長－渡辺省吾、副会長－末岡健助、理事長－吉川慶一

なお、吉川慶一、三牧実夫、渡辺省吾、安部文明、福田隆登、村井資朗が、山口県体育協会功労賞、光市体育協会功労賞等を受賞している。



市民大会の模様

下松市バドミントン協会の歩み

下松市バドミントン協会理事長　大段　宏

昭和36年秋に下松市民体育館が完成し練習の場が確保できたことにより、バドミントン競技が一層盛んになり、日本石油精製、東洋鋼鈑、下松市役所を中心に協会結成の気運も高まり、昭和37年７月８日、渡辺浮人を会長とする下松市バドミントン協会が誕生し、記念大会を開催した。

その後、山口大学、九州産業大学、甲南大学、武庫川女子大学などの合宿練習を受入れ、競技力の向上を図るとともに、教育委員会の主催するバドミントン教室の指導者として協会傘下の役員、選手を派遣し、競技人口の増大に取り組んだ。

二代会長の岩崎重男は組織の強化拡大を図るため団体戦を提唱し、昭和40年、当時下松市体育協会の会長でもあった山中健三市長から優勝杯を拝領して下松市長杯争奪大会（団体戦）を創設し、一年の総決算として総合選手権大会を昭和41年から開始した。

昭和43年、下松市子供会連合会の会長として長年にわたり子供会対抗親子バドミントン大会を主催してきた椎山昭二が三代会長に就任し、持ち前の実行力で協会の財政基盤を確立するとともに、クラブチームの結成に尽力した。昭和45年３月に柳井商工高等学校を卒業した利行好男と、下松工業高等学校を卒業した平川宏（現姓：大段）の情熱と努力により下松バドミントンが形作られ、46年に男子４複１単、女子３複の会長杯争奪の団体戦を創設し、五つの実業団チームと三つのクラブチームが覇を競いあった。

昭和40年代中頃から50年代にかけてカワサキラケットと特別の関係を持っていた久行　勉の尽力で堺栄一、湯木博恵をはじめ、日本を代表する選手の指導を受ける機会を数多く持つことができ、競技人口・競技力とも飛躍的に拡充し、特に家庭婦人を中心とする女性の活躍は目覚ましく、質量とも山口県一を誇っていた。現在副会長の職にある安田悦子、婦人部長の香井晴江をはじめ、新出秀子、八谷朝美、難波民子、綿貫ひろみ、渡辺安代等が草分けとして思い起こされる。なお、近年の家庭婦人は平成元年から９年連続して全国大会に出場し、長嶺恵子、河村美千代、本竹ちず子、柳橋ひとみ、松村峰子、河村友子などの活躍により優秀な成績を収めている。

昭和54年には湯木杯争奪の女子オープン大会を開始し、日本女子体育大学や山陽女子高等学校の選手を招待するなどして山口県女子のレベルアップを図ってきたが、短大卒業後バドミントンを始めた守田育代が青森国体に出場するまでになった。この時代、協会の中枢として尽力した田中　伸、武内恵弐の存在を忘れることはできない。

昭和52年、中央大学出身の久次　優が加わり、社会体育の立場で小中学生の指導を積極的に行い、優秀な選手を数多く輩出している。内富　進、近藤正俊、内富　浩、柳　宏幸、吉岡哲夫、池上　敬、棟居秀行、武内敏寿、谷　克典、柳　孝三、米川真司など柳井工業高等学校の主力を担った後、大学や実業団で活躍している。彼らのほか鬼武賢正、増田敏雄、長嶺　宙、石田剛史が県外の高校から大学へと進んでいる。昭和57年に小学生大会、昭和60年に山口県中学生大会を、平成２年には山口県小学生大会を開催し現在に至っている。

協会設立以来２年毎に実業団チームで持ち回っていた理事長職と事務局を固定することとし、昭和57年から水摩勝美理事長、昭和61年から久次　優事務局長、日野真知子事務局をスタートさせた。平成４年に24年間会長を勤めた椎山に替わり、四代会長として河村尚男が就任し、大段理事長も誕生した。

平成５年から下松の地名に縁の深い百済の都のあった韓国忠清南道扶餘郡のバドミントン協会との交流を開始し、平成７年から国際交流部を設置して積極的な国際交流に取り組んでいる。

平成８年11月には日本リーグ'96を開催し、ベスト電器で活躍している棟居秀行を激励するとともに、市民にトップレベルの試合を観戦させた。

現在、男子５チーム、女子８チームと個人を合わせ190人が協会に登録しているが、日本石油精製、日立笠戸、笠戸船渠の実業団男子チームが解散したことは、時代の流れとは言え寂しさを感じている。

徳山市バドミントン協会の歩み

徳山市バドミントン協会理事長　内　山　正　也

徳山市バドミントン協会は、昭和24年頃浜岡静（当時徳山曹達社員）によって徳山曹達（現トクヤマ）にバドミントンが紹介されたのを機会に、26年には徳山曹達バドミントン同好会、徳山鉄板（現日新製鋼）バドミントン部、日本精蝋バドミントンクラブが設立されるとともに、徳山市バドミントン協会が発足した。その後、昭和29年に徳山高校バドミントン部、41年に出光興産バドミントン部、44年に徳山工業高校バドミントン部が設立され、学校や企業および各地区に同好会やクラブが誕生し、現在に至っている。

平成９年11月現在の徳山市バドミントン協会加盟登録団体は学生５、企業７、地域・同好会16の合計28団体、登録人員は500名をこえている。

〔歴代会長〕

初代	坂井　猛	（徳山鉄板）
2代	高原正光	（徳山曹達）
3代	有馬　晋	（同　上）
4代	斎藤敦彦	（同　上）
5代	浜岡　静	（同　上）
6代	山本　昂	（出光興産）
7代	生田喜夫	（同　上）
8代	福田修三	（山口放送）

（所属は就任当時）

〔活動のあゆみ〕

徳山市におけるバドミントンは、当初企業中心であったが、徳山市体育課や協会関係者によるスポーツ教室の開催などによって一般市民にも愛好者が増加していくとともに、小、中、高校生の指導者諸氏の努力で優秀な選手の育成が進められ、昭和51年には全日本家庭婦人大会に藤川ヤス子、笹部ヒロ子、藤山和子が山口県代表として出場し優勝した。

また、昭和55年には徳山市市政45周年行事として山口県で最初に日本リーグ徳山大会を大成功のうちに開催した。

最近では、徳山市総合スポーツセンターの完成によって多くの大会が開催されるようになっている。

〔主な大会実績〕

平成３年度	平成３年度全国高等学校選抜バドミントン大会（中国地区大会）
平成４年度	第41回全日本学生バドミントン東西対抗競技大会
平成７年度	第38回中国高等学校バドミントン選手権大会
〃	第31回中国地区高等専門学校体育大会
平成８年度	第39回中国地区総合バドミントン選手権大会

徳山市バドミントン協会設立以来今日まで、関係者の技術向上はめざましいものがあり、中学生・高校生チーム、一般男女チーム、家庭婦人チームも全国大会や中国地区大会に積極的に出場し、優秀な成績をおさめている。

また年間を通して各種大会・合同練習などを開催して、選手の育成、技術の向上、会員の親睦を図り、ますますの発展を期している。

〔年間行事〕

徳山市協会結成記念大会
徳山市ダブルス夏季大会
徳山市ダブルス秋季大会
徳山市民大会
徳山市会長杯大会
徳山市選手権大会
山口県夏季選手権大会
県体育大会、都市対抗戦、周南四市大会への参加強化練習（１回／月）

新南陽市バドミントン協会の歩み

新南陽市バドミントン協会理事　吉　田　節　夫

当協会の発足は定かではないが、県協会結成記念大会を主管し開催してきた経緯から推察するとかなり前であると思われる。

当協会の発起人は、元県協会副理事長の渡辺　忠であり、当時は大会のドローの作成から運営まで全て渡辺の尽力で遂行されていた。

渡辺が東洋曹達工業㈱（現：東ソー）に勤務されていた関係で、1970年（昭和45年）以前の活動は東ソーの部員を中心に、日新製鋼㈱の部員の協力を得て実施されていた。

当時の当協会の技術水準は高く、中でも東ソーは全国セメント協会主催の大会で毎年優勝という好成績を納めるほどの実力選手の集合体であったと聞き及んでいる。

1970年代は当協会が県体、協会結成記念大会、都市対抗大会、家庭婦人大会等、数多くの県協会主催大会の主管を務めた年代だった。

また、この年代は家庭婦人の活動が盛んになった時期でもあり、現在の当協会の家庭婦人を中心とした活動の始まりでもあった。

当協会が組織的な体制として第一歩を踏み出したのは1980年（昭和55年）であり、その４年後に規約の設定を行った。この時の提案者は、日新製鋼㈱女子部員の連続国体出場に大きく貢献され、国体女子の監督も務められた善本公志と東ソー㈱のまとめ役である木戸土瓏である。

新南陽市は周南コンビナートの一角に位置するが、バドミントン部を有する企業は少なく、組織発足時の構成は会長：渡辺忠で、他の役員は日新製鋼から善本公志、山本修、家庭婦人から本村綾子、光森幸江、東ソーから木戸土瓏、村井正信、吉田節夫の３団体の世話人があたり、協会と言えども組織とはまだ程遠い状態だった。

役割は日新製鋼と東ソーが２年周期で事務局を持ち回り、家庭婦人が会計を担当する特殊組織で、事業運営の推進を図っていた。

この時期は、県協会主催事業が分散化したことにより、市民大会を年４回に設定し、参加者の声を反映してＡ、Ｂ、Ｃ級の単、複、混合の種目を設定し、市民への門を広げることに力を注いだ。

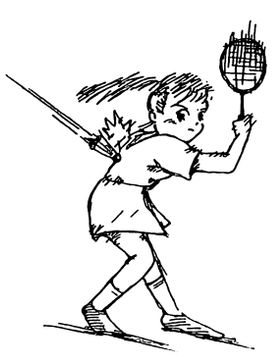
また、交流の拡大と活性化を目的に市民大会参加枠を新南陽市の隣接地域まで拡張した。

1990年前半まで当協会登録者数は約250名であり、市民大会参加者も毎回130名以上の盛会な大会だったが、近年参加者は残念な事に減少傾向となっている。

長年お世話いただいた渡辺会長に代わり、1996年（平成８年）から新体制で事業活動を行っている。

現組織は会長：友村和之（山九㈱）、副会長：網野義人（ＫＹＣ㈱）、理事長：坂井　晶（東ソー㈱）、並びに加盟10団体の代表理事及び事務局で構成され、年５回の市民大会と県協会結成記念大会を輪番制で運営している。

現登録者は約200名程度であり、県協会登録者も横這い状態ですが、今後とも家庭的でより参加しやすい、楽しい協会づくりを目指していく心構えである。



山口市バドミントン協会の歩み

山口市バドミントン協会理事長　重田道正

山口市でのバドミントンは、田中萬亀太、藤井豊秋、友沢毅一郎、佐久間貫弌の四氏が用具一式を購入して見様見真似で始めたのがきっかけで、山口市協会は、昭和25年に、山口市議会議長長井秋穂氏を初代会長に上記四氏が理事となり発足した。

当時は、まず、ルールの研究、技術の研修から初め、小学校の講堂を借りてシャトルを打ち続け、練習に励みながら徐々に会員も増えていった。そして、2代目会長坂本巨式氏を迎える頃には会員数も100名となり、山口県立女子短大（現山口県立大学）、山口高校にもバドミントン部が創設された。その後、鴻城高校、山口大学においても部活動が始まり、これらの卒業生に同好者が加わりクラブが結成され、社会人愛好者も増えていった。

昭和27年から県体種目にバドミントン競技が採用されたが、山口大学、山口女子短大の若い人を中心に山口市チームが多くの栄冠を握っており、この頃活躍した選手で現在、山口市在住の者は津守幸介、玉木康彦、蔵成秋次、尾上　忠、松永正敏、山田重信、林　道彦、斉藤嘉子らの諸氏がいる。

山口市バドミントン協会事務局は、上記2名が会長を努めた後は、三代目田中清人から山口　一、丘　幾司、田中萬亀太と続き、昭和63年から岩本達夫、平成10年から現藤井豊秋となっている。

特に、故田中萬亀太氏は、協会創設時から約40年間役員としてバドミントンの発展、普及に尽力され、数々の功績を残されており、改めてこの労に感謝したいと思う。

また、理事長も佐久間貫弌（山口高校）、藤井豊秋（郵便局）、松永正敏（市役所）、横田允亨（市町村共済）、蔵成秋次（市役所）、尾上　忠（教員）、斉藤　繁（県庁）、鳥居和彦（県庁）、杉山　昇（市役所）、三井　裕（教員）から現在の重田道正（県庁）と引き継がれている。

協会では、底辺拡大のため、市民へのバドミントンの普及にも力を注いでおり、昭和45年から山口市主催のバドミントン教室を山口県体育館で夜間10回程度開催し、ラケットの握り方、フライトの種類、シャトルの打ち方等を初歩から教えていった。なお、昭和59年に山口県スポーツ文化センターが完成した後は、同センターで毎年、昼間に10回程度教室を開催しており、家庭婦人を中心に新たな愛好者を増やし、多数の家庭婦人グループを生んでいる。

また、昭和54年から小・中学校施設の夜間開放が始まり、公民館活動の中でクラブ組織が生まれており、仁保、大内、宮野、大殿、湯田、大歳、平川、吉敷等の地区で多くの同好者が楽しんでいる。中でも、大歳、湯田地区は同好者が多く、山口市の重要な活動拠点となっている。

この他、山口県庁、山口市役所等の職域クラブや山口レデイスクラブ、クリアーズ等を中心とした家庭婦人グループで多くの同好者が活動しており、その数も300名を超えている。

次に学校関係のうち、中学校では大殿、宮野、鴻南、大内、潟上、平川、二島にクラブがあり、県内でも高いレベルを維持しているが、これは、前県中体連専門委員長尾上　忠の尽力に負うところが多いと言える。

高校では、山口高校、山口中央高校、中村女子高校、野田学園高校、西京高校にクラブがあり、最近では全国大会に出場するなど優秀な成績をあげている。

なお、山口市協会では小郡町、阿知須町、阿東町などの山口市周辺の同好者を含め、年間6回の市民大会を開催している。



市民大会参加者と協会役員
（山口県体育館前）

吉敷郡バドミントン協会の歩み

吉敷郡バドミントン協会理事長　末永文男

昭和23年、旧制山口県鴻城中学校の友澤毅一郎（初代山口県バドミントン協会理事長）の指導のもと、小郡町にバドミントン同好会の小郡クラブが設立された。当時の旧制山口県鴻城中学校の藤井豊秋（現在の山口市協会会長）、末廣吉郎（昭和26年一般男子国体選手）、田中芳男（初代吉敷郡協会会長）なども、小郡クラブに参加していた。当時の練習場所は山口県鴻城中学校（現在の山口県鴻城高等学校）と小郡小学校であった。また、友澤毅一郎はバドミントンの普及に情熱を注ぎ、中学生であった藤井豊秋、末廣吉郎、田中芳男も県下各地（武田薬品、下関商業高校、萩、下松など）に指導の手伝いに行ったそうである。巻末の国体選手名簿によると、昭和26年広島国体一般男子に監督として友澤毅一郎、選手として末廣吉郎、高校男子に選手として林登（山口県鴻城高等学校）が出場している。また、昭和26年５月に第１回山口県バドミントン協会結成記念大会が小郡小学校講堂で開催されるなど、山口県バドミントン協会発祥の地小郡町が中心的役割を担っていたことがうかがえる。

小郡町では、昭和49年、小郡町教育委員会小田正己の提案により、社会体育の一環としてバドミントン教室が開催されることとなった。指導者として、当時小郡町の体育指導員であり、小郡クラブでバドミントンを経験していた田中芳男が選任された。田中芳男は小郡町教育委員会の小田正己や藤井清孝の協力を得ながらバドミントン教室を定期的なクラブに発展させていった。その後、町民大会などを開催するなどバドミントンの普及に努めた。昭和54年にバドミントン教室を発展的に解消し、小郡バドミントンクラブとして再出発をした。

一方、阿知須町では、昭和50年、阿知須町の教育委員会長尾建樹の提案により、阿知須小学校の保護者を対象にしたバドミントン教室が開催された。教室の指導には、阿知須小学校の林道彦が当たった。教室が、阿知須バドミントン同好会となり、その後、阿知須バドミントンクラブとなった。吹上義男を中心として、町民大会、地区対抗、近郷大会などを開催するなどバドミントンの普及に努めた。また、秋穂町では、松田治登、砂田節子らを中心に、活動した。

昭和56年４月、小郡町公民館にて、田中芳男、藤井清孝、谷野芳男、藤井博人、松本克芳、吹上義男らが集い、吉敷郡バドミントン協会が設立された。初代会長には田中芳男、事務局には藤井博人が就任した。

また、協会の設立と同時に、吉敷郡体育協会、山口県バドミントン協会にも加盟した（県協会の理事会には、前年の55年から初代会長の田中芳男が吉敷郡の代表として参加している）。昭和56年５月には協会の初めての事業として秋穂町の大海小学校でバドミントン教室を開催した。また、昭和56年６月に第１回吉敷郡バドミントン大会を開催した。なお、この大会は昭和60年からは吉敷郡オープンバドミントン大会に名称を変更して、近隣の市町村との交流の場にもなっている。最近では、毎年４月に開催し、山口市、防府市、宇部市、美祢郡などから多数の参加を得ている。

また、山口県体育大会には昭和56年から吉敷郡として参加している。また、阿知須町においては、平成２年に、阿知須町教育委員会の主催により、防府市の松村和美を講師に迎え、家庭婦人の教室が開催された。

平成８年４月、末貞伴治郎が２代目会長として就任した。また、平成９年より、全日本ジュニアバドミントン選手権大会山口県予選会を、吉敷郡バドミントン協会で引き受け、高体連、中体連と協力して運営している。

これからも、阿知須町、秋穂町、小郡町の３町が協力し、吉敷郡バドミントン協会をますます発展させたいと願っている。

吉敷郡バドミントン協会役員

会　長	末貞伴治郎			
副会長	山根　孝司			
理事長	末永　文男			
理　事	松下　健二	吹上　義男	冨田　正朗	
監　事	松本　克芳	西村　和孝		
事務局	藤井　博人			
支部事務局	平山　　剛	河谷　正也	国重　雅子	

宇部市バドミントン協会の歩み

宇部市バドミントン協会理事長　山縣保夫

昭和31年６月、原田俊幸先生（当時新川小学校教諭）の指導で松岡　宏、松村哲幸（宇部興産宇部窒素工場）が中心となりバドミントン同好会が発足した。

練習会場は新川小学校の講堂を使用し、原田先生の指導のもと練習したものである。

翌年から県大会等あらゆる大会に参加し、各自が試合の中から技術を見いだし、持ち帰っては練習に取り入れ、お互いの技量アップに努め、協会発足の気運が持ち上がった。

そこで昭和35年に宇部市バドミントン協会が誕生し、宇部市体育協会にも加盟した。当初はバドミントン人口も少なく、「底辺の拡張」を合言葉に、役員・選手が一体となって活動し、36年には当市から国体選手（山縣保夫・現理事長）を出し、バドミントン熱が一段と盛り上がり、各工場、地域にバドミントンクラブが誕生した。

昭和49年には勤労者、家庭婦人及びミニバドミントン教室を開講し、さらに翌年には松崎ツヤ子、吉田美萩、小池美智江さんが中心となり宇部シャトルズ家庭婦人クラブが誕生した。

また、平成５年には、河野敬三（現・副理事長）が念願の宇部ジュニアバドミントンクラブ（小・中学生対象）を結成し、平成９年には、常盤中学校にバドミントンクラブが誕生し、各指導者のお陰で山口県大会で優勝、全国大会に出場するなど実績を積み重ねていった。

協会の今後の課題は数多くあるが、役員・関係者が一丸となって、親しまれるスポーツとしてバドミントンに取り組んでいく所存である。

○歴代会長

初　代　岩　沢　　栄（昭和35年～昭和37年）
二　代　東　谷　正　三（昭和38年～平成３年）
三　代　広　重　市　郎（平成４年～現　　在）

○歴代理事長

初　代　松　岡　　宏（昭和35年～昭和44年）
二　代　松　村　哲　幸（昭和45年～昭和59年）
三　代　山　縣　保　夫（昭和60年～現　　在）

○登録クラブ数　20（平成９年度）

（一般11、家庭婦人 3、学生 5、ジュニア 1）

登録人員　　402（平成９年度）

一般男子146、一般女子 49、家庭婦人 79
学生男子 42、学生女子 41、ジュニア 45

○主催年次大会

市民バドミントン大会　　４回／年
クラブ対抗バドミントン大会　　１回／年
プリンスカップバドミントン大会　１回／年
近郷家庭婦人バドミントン大会　　１回／年

○バドミントン教室（主催　宇部市体育協会）

勤労者バドミントン教室　（２教室、週２回）
家庭婦人バドミントン教室（２教室、週２回）
ミニバドミントン教室　　（年20回／月２回）

○今後の課題

登録クラブ数の増加
ジュニアの育成、拡充
年次大会の充実
ランキング制度の導入
指導者の養成及び組織の強化

小野田市バドミントン協会の歩み

小野田市バドミントン協会会長　笹　尾　克　之

小野田市バドミントン協会は、昭和51年10月に小野田市役所に同好会が結成され、親睦大会を開催したのをきっかけに、市内の同好者が集まり、54年３月に104名が小野田市体育協会にバドミントン部の設置申請をしたのが始まりである。

昭和54年４月１日から小野田市体育協会にバドミントン部が発足し、同年８月には第１回市民バドミントン大会を開催した。

昭和62年３月には小野田市市民体育館が落成し、63年からは山口県ヨネックスカップ大会を引き受けた。また、平成３年度からは山口県都市対抗大会を引き受けて開催している。

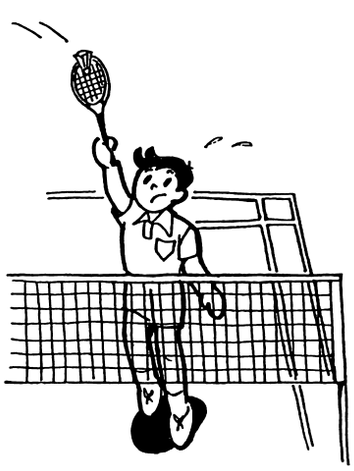
さらに、昭和63年２月５日には、会員の増加と、技術の向上を目指して、元ナショナルチームメンバーの飯野裕子先生を講師としてバドミントン教室を40名が参加のもとに開催した。

また、平成８年度からは、各小学校校区（７校区）においてバドミントン教室を開催している。

なお、平成４年４月１日には小野田市バドミントン協会を設立し、会長に笹尾克之、副会長に三輪初代と羽迫幸博、事務局を稲津孝秋、他に16名の理事等で運営している。

また、年間行事としては、年４回の市民バドミントン大会の開催と、校区対抗大会、ミックスダブルス大会、近郷大会等を開催している。

今はまだ小さい組織体であるが、役員全員が力を合わせてその振興発展に努めていく所存です。



萩市バドミントン協会の歩み

萩市バドミントン協会事務局　小　原　浩　二

萩市バドミントン協会は、昭和35年10月に設立されたが、設立当時は、萩市に製紙会社があり技術習得に来萩していたインドネシアの人との交流もあり、愛好者の間で盛んに行われていたようである。

初代会長には松井孝一が就任し、今日まで会長の職を務めており、事務局は萩市役所バドミントン部が受け持ち、沢田勇が事務局長を担当していた。

その後、事務局をしばらくの間オリンピア運動具店が引き継いだため、この時の記録がなく活動内容は不詳だが、昭和48年までの何年間は大会を開催していなかった。

昭和49年にしばらく途絶えていた大会が再開され、秋季バドミントン大会を明倫小学校体育館に於いて開催している。その後、この大会は萩市長杯争奪バドミントン大会と名称を改めている。

昭和54年に萩市民体育館が開館してからは、誰もが気軽に体育館を利用して屋内競技を楽しむことができるようになり、また、教育委員会主催による初心者を対象としたバドミントン教室が開催され、協会からも講師を派遣し、競技の普及に努めたことにより市内のバドミントン人口が次第に増加していった。

これらを機に事務局を萩市役所バドミントン部が再び担当し、協会の体制を整備し、各種大会を開催、運営してきた。

昭和54年に第１回職域団体大会、55年にはオリンピア運動具店主催によるバドミントン大会、さらに56年には、第１回の会長杯争奪バドミントン大会を開催している。

その後、昭和58年に萩市教育委員会主催で市民体育館の開館を記念した第１回コミュニティースポーツ大会（バドミントン・卓球）が開催され、昭和61年にはＮＴＴ萩支店主催の中・初級者を対象としたバドミントン大会が開催されている。これにより萩市では、県協会の西部地区大会を含め年８回の大会が開催されることとなった。

協会の規約は、昭和57年に制定し、協会員は登録制とし１人年間500円の登録料を徴収することとしたが、その後、昭和59年、平成３年及び平成４年に一部を改正し、現在は登録料１人700円であり、組織は会長以下事務局までの役員と理事によって構成し、理事会を最高決議機関としている。

登録人員は、昭和57年当時130人程度だったが、市内のバドミントン愛好者の参加に加え市外からの大会参加申込者も増え、現在は会員数280余名となり飛躍的に拡大している。

役員は総会時に会員より選出されるが、会長の職には、昭和35年の協会設立当初から現在に至るまで松井孝一がその職に就いており、この間の功績は多大なものがある。

松井孝一は、その長年にわたる活動が認められ、昭和61年に萩市体育協会体育功労賞を、62年には萩市教育文化奨励賞を、平成元年には山口県体育協会体育功労賞と山口県バドミントン協会から功労賞をそれぞれ受賞されている。

平成２年には、会長の功労賞受賞に合わせ萩市バドミントン協会30周年記念式典を開催した。

記念式典では、まず最初に市民体育館に於いて記念大会を行った後、市内の会場にてレセプションを盛大に開催した。

次に県体及び都市対抗の対戦成績であるが、今はまだ他市に大きく差をあけられており、今後の選手強化が大きな課題となっている。

萩市内には、バドミントン部のある企業や学校が少ないことや、指導者や経験者が不足していることから技術の習得、向上にはかなりの年数を要するのが現状である。協会としても今後は、技術講習会等を数多く開催するなどして、選手の強化を図っていきたいと考えている。

現在、女子については、萩光塩学院の中・高等部にバドミントン部があり、歴史は浅いもののこれからの活躍を期待している。

長門市バドミントン協会の歩み

長門市バドミントン協会会長　大藤之典

長門市バドミントン協会は昭和37年に誕生し、今年で36年目を迎えた。

設立当初はバドミントン人口も少なく、小・中学校の教職員が中心で、昼休み時間や放課後を利用して練習したと聞いている。指導には県協会理事であり、当協会の会長である大藤之典があたり、長門市でのバドミントン競技の普及に貢献した。

当協会は「バドミントンを愛するすべての人は仲間である」「もっとたくさんの人にバドミントンの楽しさを味わってもらおう」を合い言葉に、家庭や職場・グループでいろんな方にバドミントンを勧めてきた。その成果が上がり、平成９年度は18団体250人の皆さんが当協会に登録されている。

今後は、当協会主催の大会に出場されていない団体・グループの皆さんや、体力づくりにバドミントンを取り入れているサークル等の皆さんに、是非一度「長門市バドミントン協会結成記念大会／初心者の部」へ参加するように呼びかけるとともに、大会に出場することによって、さらにバドミントンを好きになっていただこうと思っている。

現在の役員は、会長が大藤之典、副会長が草場睦弘、理事長が萩原義久、事務局が重原敏男で、各グループの代表11名が理事となっている。なお、９年度の協会登録者は18団体250人となっている。

市民大会は、現在５月に会長杯大会、７月に結成記念大会、１月にバドミントン大会、２月に団体戦を開催しており、萩市、美祢市、美祢郡等の周辺市町からの参加もあり、各大会とも約100人の参加を得ている。

また、県協会主催大会として秋季西部地区大会を開催し、県体育大会にも参加している。



防府市バドミントン協会の歩み

防府市バドミントン協会理事長　嘉　村　悦　男

（沿革）

防府市におけるバドミントンは、小・中・高等学校でのクラブ活動がなく、また、市内に体育館施設もなかったため、非常に低調であった。

昭和47年、防府市文化福祉会館（軽運動室）が完成したことにより、サークル「文バド」が結成され、中司正昭（甲南大卒）の指導で、その萌芽を見たのである。次に、防府市古浜に防府スポーツセンター体育館が建設されたのを機会に、既に県協会にネットワークを有していた嘉村悦男（岡山大卒）の発声で、長野嘉久（九州大卒）を発起人代表として、中司正昭・嘉村悦男・福田一夫・吉本雄幸・石見　一・山野正勝の諸氏が発起人となって昭和50年３月12日に喫茶店エトワールにおいて防府市バドミントン協会を設立し、理事長に長野嘉久を選任し、同月18日に防府市体育協会及び山口県バドミントン協会への加盟を申請した。

昭和50年５月、第１回防府市民バドミントン大会を開催したところ、松村和美（下関市より防府市へ転居）が参加し、以来今日まで防府市協会の運営・選手指導に尽力を戴いている。

同年９月には、防府スポーツセンター体育館でバドミントン教室を開始し、この修了者の受け皿としての防府同好会（古賀久美男会長）も結成され、10月には、県体に（男子には年齢制限があり、10名の選手をやっと揃えて）出場した。

以後、発足当初の苦労も一段落し、当協会最大の目的であったバドミントンの普及拡大に取り組むこととなった。

昭和50年９月から春季・秋季のバドミントン教室
（以来23年間、年２回の教室を開催し、これまで約３千人受講修了者をみている。）

昭和51年３月からの防府市民選手権大会

昭和51年12月からの団体戦

昭和52年10月からの新人戦大会（ダブルス）

昭和58年７月からの小中学生大会

上記の如く協会の事業も順調に推移し、昭和59年10月には韓国春川市へ遠征（選手団長：長野、選手：嘉村・藤田・山本・青木）、翌60年には、春川市から準国際級の女子選手団を迎えて国際交流大会を挙行した。

昭和60年８月には、防府市協会結成10周年記念式典を山陽楼において開催し、平成７年12月には、ウインスター21において結成20周年記念大会を開催した。

平成10年度現在、登録者数約150名の防府市協会である。

（平成10年度役員）

会　　長	長　野　嘉　久	
副 会 長	松　村　和　美	
理 事 長	嘉　村　悦　男	
副理事長	中　司　正　昭	
同　上	園　田　良　一	
理事・会計	山　本　則　雄	
理事・審判	藤　田　　進	
理事・競技	三　好　信　治	
理　　事	尾　中　慶　輝	・　高　嶋　郁　子
	原　田　重　広	・　原　田　正　徹
	楢　崎　悦　夫	・　青　木　一　郎
	安　村　忠　雄	・　青　木　　正
	久良知　　巧	・　工　藤　俊　子
	林　　真由美	・　弘　中　美智子
	小　田　きみ子	

（加盟団体）

防府クラブ、防府同好会、防府文バドサークル、協和発酵、ＪＴ防府、防府市役所、ＭＢＢＣ、松崎同好会、向島クラブ、華城クラブ、玉祖クラブ、富海クラブ、新田クラブ、ブルーエンジェル、サタディスマッシュ、ハッピーレディース、サンシャトルズ、Ｔスマッシュ、なかよしクラブ、華陽中学校バドミントン部

下関市バドミントン協会の50年

下関市バドミントン協会副会長　植田博宣

下関市協会は、昭和26年４月に交野盛賢（長門産業社長）を会長として始まった。昭和32年から36年までは亀井再平（市会議員）、昭和37年から39年までは角定雄（水上署長）が会長を担当した。昭和40年から宮崎伊三郎（医師）、平成に入ってから岩田整（山口合同ガス社長）、加藤滋夫（同）、以後現在の会長林芳正（参議院議員）に至る。

協会設立から平成９年までの約50年間、下関市協会理事長・事務局長等の役員として、影になり日向になり協会を支えてきたのは、植田博宣、岡崎光弘、滝本幸子、大野倍弘、新宅正和、岸野保則、三原一郎の各氏である。

この中でも、昭和38年の第18回国民体育大会開催時には下関市役所の大野、新宅両氏が大会運営等に大変尽力された。

国体終了後頃から、彦島中学校等市内の中学校で、クラブが誕生し、以後県内では常に上位を維持し、中国地区でも活躍した。

高校では、下関中央工業高校、早鞆高校、下関南高校等で盛んに選手を強化し、県下、中国地区でも屈指の強さを誇った。

大学も以前より下関市立大学、梅光女子短期大学がクラブを持ち、最近では東亜大学にクラブが設立され中国四国地区を制すなど、その名を轟かせている。

一般でも三菱造船、下関大丸等が企業クラブを持ち国体選手や有名な選手を多数生み出している。県民体育大会でも各種目で常に上位を占めている。

家庭婦人は、下関マンディーズを中心にして、地道な練習により力をつけ、県内大会や中国大会で活躍中である。

海外との交流としては、平成３年８月及び５年８月に、中国青島市に日中友好の船で遠征を行った。

また、平成８年から、韓国釜山市に遠征し、交流試合を行い、平成９年には下関市に招いて交流試合を行った。以後交流試合を継続している。

下関で行われた全国大会は、次のとおりである。

- 昭和37年

  国体の前哨戦として、全日本社会人大会を早鞆高校他で行った。

- 昭和38年10月27日～11月１日

  第18回国民体育大会がこの年建てられた下関体育館で開催された。

- 昭和52年８月

  第16回全日本教職員大会を下関体育館他４会場で開催した。

- 昭和56年12月

  第３回日本リーグを下関体育館で行った。

- 昭和61年８月

  全国高校総合体育大会が下関体育館その他で開催された。

- 平成元年12月

  第11回日本リーグを下関体育館で行った。

平成９年度の主な役員

会　長	林	芳　正（参議院議員）
顧　問	林	義　郎（衆議院議員）
副会長	植　田	博　宣
	岡　崎	光　弘
理事長	大　野	倍　弘
事務局長	新　宅	正　和

専門部等の歩み

功労者31人優秀選手79人表彰

山口県バドミントン協会表彰部長　藏成秋次

山口県バドミントン協会表彰規定ができたのが昭和48年６月１日。初代の表彰委員長は植田博宣（下関）、昭和51年から岡崎光弘（下関）。以来平成９年度まで功労者31人、優秀選手賞個人79人団体２団体の県バドミントン協会長表彰を行っている。詳細は末尾被表彰一覧による。

設立当初の表彰規定の内規はその選考基準を次のように定めている。

◦功労賞　役員として10年以上、会長、副会長は無条件該当。

◦優秀選手賞　国体５回以上出場、中国大会以上で優勝、県内同一大会・同一種目に３年以上連続優勝となっている。

その後　昭和54年11月24日内規の一部改正が行われ、功労賞に年令満40才以上とすること、会長・副会長は無条件該当を削除、さらに、まず表彰委員会で審査し、選考した結果を理事会で決定することとなった。

昭和57年４月表彰委員長が藏成秋次（山口）に変わった。委員会構成が被表彰者からなるべきとの意見があって、渡辺忠（新南陽）松村哲幸（宇部）大野倍弘（下関）川岡智（岩国）尾上忠（山口）山縣保夫（宇部）７人が務めることとなった。以来平成５年度まで各市郡協会、各専門部等からの推せんされた事案を審査、選考し、理事会に推挙している。

昭和63年頃から選考基準に色々問題が提起されてきた。これを列挙すると、

①功労賞の年令40歳以上は若すぎる。

②市郡協会の役員を長く務めれば、県協会表彰を対象とすべきではないか。

③指導、普及等の分野で功績がある人を功労賞として表彰すべきではないか。

④優秀選手賞は内規に定める成績をあげれば何度でもだすのか。

２、３年理事会等で協議された結果、現在の内規で運用されることになった。

上記の課題毎に内規にもられた内容を要約すると

1　功労者の対象年令を50歳以上とした。

2　市郡協会役員のみの場合20年以上顕著な業績があれば被表彰としたこと。

3　功労者の条件に「指導普及等の分野で特に顕著な業績が認められるもの」を明記したこと。

4　優秀選手賞は、学生時代・社会人時代生涯２回に限定したこと。

5　「年令別・教職員・家庭婦人等の特殊種目では中国大会以上の大会で３年連続あるいはそれに相当すると認められる成績を残したもの」と明記したこと。

とかく優秀選手の選考に混乱が生じていたため、表彰委員会で優秀選手賞に限り予備審査を行い、その後支部・専門部等に推薦を求めて表彰を行うこととされた。

なお、平成６年度から従来の表彰委員会の構成が改組され、委員長、理事長、競技委員長、指導委員長、事務局長のほかに必要に応じ中体連・高体連・学生の各専門委員長で構成されることになっている。

なお、平成９年の県協会の大巾な組織改組により従来の表彰委員会は表彰部として位置付されている。

このほか、日本バドミントン協会功労賞（理事長職以上の役職が対象）及び顕讃賞（競技の育成振興に10年以上功績のあった50歳以上が対象）は次のとおり。

□ 功 労 賞

昭和54年以前　◦田中萬亀太(山口)◦植田博宣(下関)

平成９年度　◦津守幸介(山口)

□ 顕 讃 賞

昭和54年度　◦渡辺　忠(新南陽)◦昭和55年度　岡崎光弘(下関)◦昭和57年度　松村哲幸◦平成８年度　尾上忠(山口)藏成秋次(山口)◦平成９年度　岸野保則(下関)

また、県体育功労者表彰（15年以上役員功績）の受賞者は次のとおりである。

昭和54年度岡崎光弘(下関)　昭和55年度渡辺忠(新南陽)　昭和56年度松村哲幸(宇部)　平成５年度津守幸介(山口)　平成６年度藏成秋次(山口)　平成７年度尾上忠(山口)　平成８年度渡辺恒輔(下関)

審　判　部　の　歩　み

山口県バドミントン協会審判部長　　利　行　好　男

県協会、審判委員会は、昭和51年４月１日に発足、初代委員長には、渡辺恒輔が就任され、平成９年３月までの20年間当協会発展のため貢献されました。(財)日本バドミントン協会の公認審判認定委員として、津守幸介・渡辺恒輔があたっている。

平成９年４月、当協会専門部の組織変更により審判委員会は、審判部と改め今日に至っている。

私は、平成９年４月より審判部の部長として、諸先輩方のご指導の基、当協会会員の皆様の中から出来るだけ多くの方に、公認審判員資格を取得していただくことを主な目標とし活動している。

現在の審判部の活動状況は、第１に、当協会家庭婦人連盟の松村理事長と、当協会理事である三井さんの協力を得、一年に数回各地で審判講習会を開催している。

第２に、毎年、国民体育大会中国地区予選会会場に於いて開催されている中国地区「公認審判員資格検定会」への受験案内を行っており、平成９年度は、本県から、末岡（日本紙業)、三井（家庭婦人)、松村（家庭婦人）の３名が受験し、各々公認審判員資格の１種Ｂ級に２名、２種Ａ級に１名が合格している。

第３に、現公認審判員有資格者の更新登録手続きを行っており、平成９年度は更新該当者33名のうち、17名が更新登録をしている。

平成10年４月１日現在、山口県バドミントン協会の公認審判員資格登録者は、１種Ａ級　９名、１種Ｂ級　３名、２種Ａ級　２名、２種Ｂ級　該当者なし、３種Ａ級　25名の総数39名となっている。

以上、当協会の公認審判員有資格者は他県と比べ少ないのが現状です。

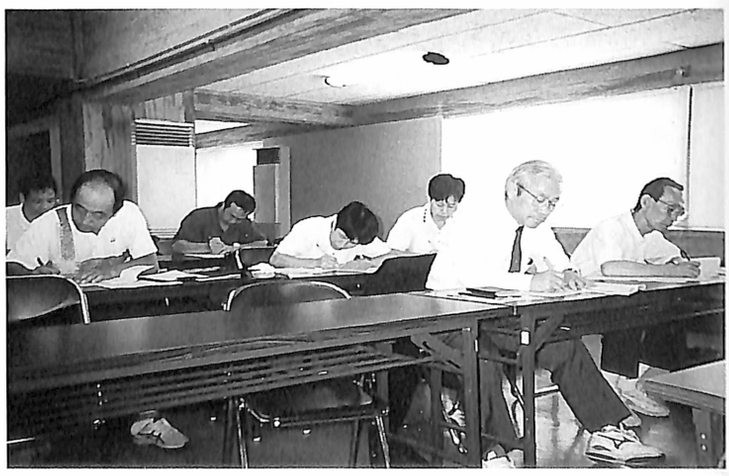
第４に、平成９年度版（財）日本バドミントン協会発行の競技規則集を、同協会より240冊買入、185冊を県協会会員に購入して頂きました、この競技規則集の日バよりの買入冊数は、平成９年度中全国都道府県内で17番目と上位の方となっており、当協会会員の皆様の関心の深さには感銘を受けました。

第５に、競技規則規定の抜粋、公認審判員規定の抜粋、審判用紙の記入要領を作成し各市郡協会理事に配布、また、審判講習会に配布し説明資料とした。以上により当協会会員の皆様に現行ルールの徹底、審判用紙記入の統一を計りたく、ご協力をお願いしたいと考えている。


第 1 種 A 級
No. 0911000781
氏名 川岡 智
財団法人日本バドミントン協会の
上記の公認審判員資格者である。
財団法人 日本バドミントン協会

日本バドミントン協会公認審判員資格者証・手帳になっている

最後に、当協会の公認審判員資格者育成のため、各地区で審判講習会を開催し、各種大会での競技運営において、競技規則規定並びに公認審判員規定の現行規定を、出来るだけ多くの方に把握していただきまして各大会がスムースに運営出来ますよう今後も当協会各専門部と、連携を取りながら協力して行く所存です。



平成10年公認審判員資格検定会の模様

競技委員会の歩み

山口県バドミントン協会競技部長　松本克芳

昭和51年に、山口県バドミントン協会専門委員会規約が制定され、表彰委員会、広報委員会、指導委員会、審判委員会の４委員会が設置された。当時、競技に関することは指導委員会（山縣保夫委員長以下木山、宮岡、林、岡村、野口、叶井、澤田、木戸、嘉村、蔵成、末廣、坂本、三井、三原の各委員）が担当した。

昭和55年に、委員長は山縣保夫から末廣秀樹に交替した。

昭和57年に、山口県バドミントン協会専門委員会規約が一部改正され、今までの表彰委員会、広報委員会、指導委員会、審判委員会の４委員会に加えて競技委員会が設置された。初代競技委員長として三井裕（三井競技委員長以下末岡、水摩、河添、杉山の各委員）が就任した。三井競技委員長は意欲的に色々な改革に着手した。第１に、昭和59年に大会運営規定を作成し、総会に提出し、承認された。第２に、新人大会という名称で運営されていた大会を東部、中部、西部の３地区で春と秋に開催することとした。（種目はＢ級単複、Ｃ級複とし、開催地区によってはＡ級複も実施できることとした）ねらいとしては、県内北部を中心とした競技の普及、競技人口の増加、大会への参加をしやすくするためだった。第３に、各大会の組合せ作成の基準とするとともに、広報活動の一貫として総合大会の結果を参考にして、ランキングを決定することとした。第４に、申込み先を大会開催協会から競技委員会とし、参加料を郵便振替とした。そうすることによって、申込みの漏れを防いだり、参加申込みのチェックができるようになった。

平成６年に、２代目競技委員長として松本克芳が就任した。第１に、登録業務を競技委員会ですることとした。大会参加者の登録が確認できることにより、登録料が確実に入るようになった。第２に、年間ランキングの決め方を決定した。第３に、各大会のシードを決め方の原則を、前年度同一大会の成績で１、２シードを決め前年度ランキングで３、４シードを決めることとした。

平成９年に、山口県バドミントン協会規約の全面改定により委員会制度は廃止され、各称が競技部に変更された。平成10年度より総合選手権大会を東部、中部、西部の持ち回りとし、シャトルを協会で補助することとした。また、登録事務については、平成10年度より、総務部の山下新一部長が担当することとなった。

参考：昭和57年度山口県ランキング（抜粋）

男子単　１位　重永　光弘（重永石油）
　　２位　坂本　賢二（宇部興産）
　　３位　末廣　秀樹（宇部興産）
　　４位　永冨　正史（林兼造船）
　　５位　喜良　明文（興亜石油）
女子単　１位　井上　雅美（下関大丸）
　　２位　中岡　宏子（下関大丸）
　　３位　三井　房子（小郡クラブ）
　　４位　田中　和枝（日新製鋼）
　　５位　浜田　真澄（日新製鋼）
男子複　１位　重永・渡辺（重永石油・林兼造船）
　　２位　沖　・高橋（柳井工高）
　　３位　増永・松永（山口大学）
　　４位　末廣・河添（宇部興産）
　　５位　辻中・高橋（山陽国策パルプ）
女子複　１位　井上・中岡（下関大丸）
　　２位　山本・菊池（下関大丸）
　　３位　三井・三井（小郡クラブ）
　　４位　笠井・藤中（岩国クラブ）
　　５位　浜田・山口（日新製鋼）

参考：ランキング決定のためのポイント制

県内大会を、次のランクに分けて、成績によって以下のようなポイントを与え、合計ポイントでランキングを決定する。

Ａ．総合選手権大会

１位(24)　２位(12)　ベスト４（６）　ベスト８（３）

Ｂ．会長杯争奪大会、夏季選手権大会

協会結成記念大会、ヨネックスカップ大会

１位（８）　２位（４）　ベスト４（２）　ベスト８（１）

指導委員会の歩み

山口県バドミントン協会指導部長　末廣秀樹

昭和43年当時、指導委員会の役割は指導と競技の両面を持ち合わせており活動といえば、国体強化が中心であった。当時の国体は一般男子が全県出場、残り4種別は国体中国予選の1位チームが中国地区代表として本国体へ出場していた。

この頃、岡山県が全種別で他県を寄せつけない無類の強さを発揮し、揺るぎないバドミントン王国を築いていた。このような状況から、打倒岡山県という目標を掲げ、毎年8月の国体中国予選・中国選手権大会を前に選抜された高校男女・一般男女が宇部市俵田翁記念体育館に於いて、4泊5日の強化合宿を行っていた。この合宿は、大会前にもかかわらず早朝のランニングに始まり、フットワーク・2対1フリーといった基礎体力養成を主体としたハードな練習内容であった。

高校男女の指導育成も加味され調整といった思いは全くなく、合宿の勢いをそのまま国体中国予選突破に向けていくといった合宿で、徐々にではあるが確かな手答えが感じられるようになった10年間であった。

国体中国予選の戦績は一般女子が43年・45年・49年優勝、高校男子が45年・46年・52年優勝、一般男子が46年から4年連続と51年優勝の栄光に輝いたが、本大会では大きな力の差を感じさせられた。

昭和55年、山縣前委員長よりバトンタッチされ、宇部興産の末廣が委員長に就任した。同時に指導委員会から競技が分離され、指導委員会は指導・強化を担当することになった。更に、国体参加基準も大幅に見直され、全県出場の種別が成年女子、少年男子、少年女子、成年男子の順番となり、国体中国地区大会の各種別1・2位の県が中国ブロック代表として本大会へ出場できる方式に変更された。

今までの強化方針を改め、もっと視野を広げることとし、トッププレーヤーやコーチを招聘する中から対戦・技術指導・意見交換等から強い刺激や何らかのものを掴みとり強化に生かしていきたいと考えた。

この年から新南陽市の東洋曹達・日新製鋼体育館に於いて、国体選手トッププレーヤーやコーチを招聘し、ゲーム練習主体の中国地区大会向け強化合宿を6年間にわたり開催した。この頃、競技年齢低下に伴い中学校や社会体育から競技を始めるところが多くなってきた。多数の指導者のご尽力によりジュニア層の時代から一貫した指導育成の取組がなされてきた結果、中国大会や全国大会で活躍する選手が目立つようになってきた。なかでも、少年男子の充実は目を見張るものがあり昭和56年～平成5年までの間、地区大会3連覇やブロック代表6回による国体連続出場を記録した。このような状況から国体強化合宿へ福岡県や鳥取県の少年男子等といった他県選手団も参加して来るようになり、ジュニア層の競技力が飛躍的な進歩をとげてきたことが証明された。

昭和62年から俵田翁記念体育館でさらなる競技力向上を目指し、参加枠を広げ国体選手や強化指定選手と招聘したトッププレーヤーがゲーム練習主体の中国地区大会向け強化合宿を再スタートさせた。少年男子は引き続き好成績を維持、平成4年の山形国体に昭和38年山口国体以来の全種別出場を達成、平成5年には成年男子が久しぶりの地区大会優勝に輝いた。

平成5年7月から、今や九州地区のバドミントン王国である福岡県協会のご好意により国体強化合宿に全種別が参加できるようになり、県選手団の一体感の醸成等、大きな成果が期待できる合宿となってきた。

更に、11月から3月まで5ヵ月間にわたり全種別のレベルアップを目標にした、中・高・大学生・社会人の強化指定選手が一体となった強化練習会を定着させてきた。活動を振り返ると、強化のみにひた走った17年間であったが、試行錯誤の中、ある程度の方向は見出せ軌道に乗せることができたと思う。しかし、指導については手付かずのままであったと深く反省している。平成9年、組織の見直しにより指導委員会を国体強化部と指導普及部に分割して、各々が活動を展開することになった。これから、全国区で活躍する選手の育成、指導者の養成、ジュニア層から一貫した指導・育成体制の確立等の課題に向かって、国体強化部・指導普及部がタイアップして地道な活動を展開されるよう期待したいと思う。

実業団連盟の歩み

山口県実業団バドミントン連盟理事　吉川直樹

昭和51年４月、宇部興産松村哲幸が発起人となり山陽国策パルプ・興亜石油・日新製鋼・宇部興産・下関大丸・下関市役所・林兼造船の７事業所の賛同を得て、初代会長に永岡得三（宇部興産）・理事長に松村哲幸を選出して、山口県実業団バドミントン連盟が設立された。主催する大会は全日本実業団選手権大会県予選会（団体戦）・山口県実業団選手権大会（個人戦）であり、毎年中国実業団大会（団体戦）・全日本実業団大会へ出場し好成績を挙げると共に、山口県全体の競技力向上に多大な貢献をしてきた。中国実業団第８回・９回大会宇部興産２位、第10回大会宇部興産優勝、第10回・第11回大会日新製鋼優勝、第13回下関大丸Ａ２位となった。

昭和57年～会長西村栄時（山陽国策パルプ）・理事長末岡通典、山陽国策パルプ・興亜石油・日新製鋼・宇部興産・下関大丸・林兼造船・下関市役所の７事業所、第14回大会宇部興産２位、日新製鋼優勝、下関大丸Ａ２位となった。

昭和58年～会長升守一典（日新製鋼）・理事長善本公志、山陽国策パルプ・興亜石油・日新製鋼・宇部興産・下関大丸・林兼造船・下関市役所の７事業所、第15回・第16回大会日新製鋼２位。第34回全日本実業団大会宇部興産16強（シード権獲得）。

昭和61年～会長岩田聖（山口合同ガス）・理事長三原一郎（下関市役所）、山陽国策パルプ・興亜石油・日新製鋼・宇部興産・下関大丸・林兼造船・下関市役所の７事業所、第18回大会山陽国策パルプ２位・日新製鋼２位、第19回大会宇部興産２位・下関大丸Ａ優勝・下関大丸Ｂ２位となった。

昭和63年～会長笠井　明（宇部興産）・理事長末廣秀樹、山陽国策パルプ・日立笠戸・セントラル硝子・宇部興産・下関大丸・下関市役所・山口市役所の７事業所、第20回大会宇部興産２位・下関大丸Ａ２位、第21回大会・第22回大会２年連続優勝・宇部興産２位、第38回・第39回全日本実業団大会宇部興産16強・第40回大会宇部興産・山陽国策パルプ16強（シード権獲得）、山陽国策パルプが日本リーグ（２部）へ参戦決定した。

平成３年～会長広重市郎（宇部興産）・理事長末廣秀樹、日本製紙岩国・日立笠戸・徳山市役所・トクヤマ・山口県庁・宇部興産・下関大丸・三菱重工業下関造船所の８事業所、全日本実業団第41回大会・第42回宇部興産16強で５年連続シード権を獲得した。



全日本実業団大会５年連続シード権(16強)を獲得した宇部興産チームの末廣・大内・犬塚・沖・秋元・安田の皆さん

第24回・第25回・第26回大会宇部興産２位、第28回大会徳山市役所２位、第29回・第30回大会徳山市役所２年連続優勝した。

第30回記念大会に於いて宇部興産末廣秀樹が第１回中国実業団大会から唯一人の30回連続出場を達成し、特別功労賞を受賞した。

実業団連盟の実態は大変厳しい状況にあるが、加盟登録の新規開拓や選手育成などの組織強化に努め、県全体の競技力アップへ向けた取組に対し一翼を担うと共に、実業団連盟の益々の発展と確固たる基盤を確立させていきたい。

実業団連盟発足以前の中国実業団大会栄光の記録

第２回大会宇部興産２位、山陽国策パルプ優勝・東洋曹達２位、第３回・第４回大会宇部興産２年連続優勝・第４回下関市役所優勝、第５回・第６回大会宇部興産２位、第６回大会東洋曹達２位、第７回大会宇部興産優勝・東洋曹達２位。

教職員連盟の歩み

山口県教職員バドミントン連盟理事長　福田光博

昭和55年、初代県教職員連盟会長、植田博宣及び理事長、三井裕、その他多くの先生方のご尽力により、教職員連盟が発足した。年に１度の教職員大会もこの年に始まり、平成９年度で18回を数えることとなった。県内の教職員を対象に、Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｓ級に分かれ、単・複で行なわれる。毎年、夏期休業中に開催されるのが常となっている。記念すべき第１回大会が小郡町立小郡中学校で催され、男子Ａ級単は三井裕、複は杉原・松本組、女子の部は複のみで、林・伊賀組がそれぞれ優勝を飾っている。参加人数を見てみると男子27人、女子10人、計37人であった。しかし、参加者も年々増え、平成９年度の大会では70人を越える程となってきた。技術的進歩は無論のこと、親睦の輪も広がり、和気あいあいの中で行なわれている。最近では初心者の参加も増え、バドミントンが広く普及されつつあることが嬉しい限りである。

次に、中国教職員バドミントン選手権大会について記することにする。この大会は、中国地方５県の教職員が一同に会し、団体戦・個人戦で競い合う。戦績は別稿の通りで、本県勢の活躍は素晴らしいものがある。

全日本教職員バドミントン選手権大会は、国内においても第１種の大会として認められており、多くの選手がこの大会を目指し努力してきた。しかし、上位入賞は難しいものがあった。その厚い壁を打ち破ったのが杉原哲彦（東亜大）であった。過去の戦績を紐解いてみると、昭和57年、第21回佐賀大会より上位入賞が始まっている。40歳男子単で３年連続、３位入賞を果たし、昭和60年の福井大会においてはみごと優勝に輝いた。また、昭和63年奈良大会でも、杉原・三井組が40歳複を制している。平成３年愛知大会より３年連続、50歳男子単の頂点に立ち、50歳男子複でも澤田恭治と共に３年連続入賞という快挙を成し遂げた。次に矢野潤（東亜大）の戦跡に触れたい。平成６年の石川大会において、激戦の30歳男子単を制した。この年は例年にない猛暑で、しかも参加人数が多い中での優勝は称賛に価するものであった。その他、平成４年熊本大会で40歳男子単２位に松本克芳、平成５年神奈川大会で福永正一が40単で３位と活躍した。団体戦においても、成壮年の部で上位に顔を出すようになった。団体戦で勝ち上がるには、選手層の厚さがものを言う。各県ともに精鋭選手を出す中、平成元年坂出大会で３位、平成９年和歌山大会でも３位と入賞を果たした。このように、全国大会には数多くの教職員の参加があり、技術面・精神面ともに向上を図ることができた。そのことが、ひいては児童・生徒及び後進への指導に役立ち、レベルの向上に貢献してきている。今後、益々この大会を目指し、精進してもらいたい。

現在、教職員連盟がこのように活躍できているのもこれまで多くの諸先輩方の尽力に他ならない。



平成九年度　和歌山全国教職員大会の帰途
那智の滝にて

家庭婦人連盟の歩み

山口県家庭婦人バドミントン連盟理事長　松村和美

県協会50周年と共に、家庭婦人連盟もやっと10周年を迎えます。私が家庭婦人連盟に関わる以前には新南陽市在住の渡辺忠先生がいろいろご苦労され、お世話されていました。

渡辺先生には、島根県での中国地区家庭婦人大会でご一緒しその折、次回の山口県大会についてのご指導をいただきました。お陰様で平成元年、下関市において山口県家庭婦人連盟初事業としての中国大会が開催できました。当時、書類関係はほとんど県協会事務局の岸野先生に、大会運営は下関市の大野理事長はじめ、上野富江さんを頭に家婦連の皆様に大変なご心痛をおかけして、私は総務委員長というおいしい任務での大会でした。無事閉会式を終えて「これをもちまして、すべての大会行事を終了いたします。」と言い終えた時、胸がいっぱいになって涙があふれたのを昨日のことの様に思い出します。

河村副理事長と共に五里霧中での連盟発足だったので盛会裡に終えられた事に対して、本当に感謝しておりました。おまけに成績の方は、全種目優勝というすばらしい結果でした。その後、今日まで中国地区ではトップの座を守っている事は、我が家庭婦人連盟の誇りです。

全国的にも上位レベルであると自負していたのですが、最近は他県の選手がどんどん力をつけており10年前の選手が未だに上位である山口県には多少の不安もあります。県内各地で講習会など開いて、これからは若いお母さんを中心としたクラブ作りを考えていこうと頑張っているところです。

各地に新しい体育館ができ、バドミントン人口も随分増えました。それに伴い近郊大会も多くなり、初心者からベテランまで、多くの家庭婦人が試合を楽しめるようになりました。県内6箇所でヨネックスインストラクターの河本小織先生（岡山）を招いての講習会も毎回盛況で、楽しみな集いです。2月には、100余りのクラブ代表者が一同に会して、リーダー講習会を開催します。クラブ運営についての感想や悩みなど意見が活発に飛びかいます。

家庭婦人の国体とも言われる全日本家庭婦人大会は経験者による都道府県対抗戦と、クラブ対抗戦があります。クラブ対抗戦でも山口県勢は平成3年下松ホワイト3位、平成5年下松ミラクル3位、平成6年下松ホワイト2位と、全国的にも活躍しています。

林裕子連盟会長を頂点に連盟会員（愛好者を含め）1,193名“楽しくバドミントンして、いつも輝いていきいきしている”のモットーは十分達成していると思います。これから先、実力を持った選手が後に続いてくれれば連盟もますます発展して行くに違いありません。そのためにもレベルの高い試合を見る機会をできるだけ多く作り、指導者の育成にももっと力を入れようと思っている昨今です。

県協会50周年の影には、ご熱心な協会役員の方々にまじって、数えきれない程の、家庭婦人の縁の下の力もあったと思います。これからも県協会の一員として、山口県バドミントン界のためにお役に立ちたいと思っております。

山口県家庭婦人バドミントン連盟役員名簿

会　長	林　裕子	副会長	植田　博宣
理事長	松村　和美	副理事長	三井　房子
理　事	松村美千代	休萬ひとみ	矢田部佳子
	香井　晴江	古城　周子	嶋田　文江
	岡崎　君江	国重真由美	中野　光子
	吉屋　順子	日高　龍子	武田世津子
事務局	吉野　良子		



現連盟役員

専門部等の歩み

高体連バドミントンの歩み

山口県高体連バドミントン専門委員長　永　茂　勝　弘

バドミントン競技が高体連に加入したのは昭和27年である。昭和30年代は、下関西高・下関南高・山口県鴻城高・山口高・徳山高・聖光高・柳井商工高・高森高等の参加で淋しい限りであったが、現在、高体連バドミントン競技は、男子19校・女子24校が加盟し、県協会登録者数は、男子217人、女子300人と次第に競技人口も増加している。

それでは、最近の県高校バドミントン競技の全国大会・中国大会の活躍の様子と活動状況の概要を記していきたい。

まず、全国大会では、男子の柳井工高が、輝かしい成績を残し、山口県代表として全国にその名を轟かせた。幾つかの成績をあげると、昭和58年全国高校総体において、団体第3位。昭和59年全国高校選抜において、同第3位。また個人戦では、昭和52年全国高校総体シングルスで、喜良明文が第3位。昭和57年全国高校選抜ダブルスにおいて、沖　貞雄・高橋和也組が第3位。平成元年全国高校選抜シングルスにおいて、棟居秀行が準優勝している。

中国大会においては、当然のごとく柳井工高が団体・個人共に優秀な成績をあげ、中国地区の〝雄〟として活躍した。この柳井工高に続き、最近では、下関中央工高や山口高・西京高などが活躍している。

女子に目を向けると、全国大会では上位での活躍が見られないが、中国大会では、岡山県勢に続き、最近では互角以上に活躍する選手も見られるようになってきた。例えば、平成9年全国選抜中国予選会では、女子ダブルスにおいて、三好紗也香・川田弘美組（山口中央高）が優勝しており、また平成9年度国体ブロック予選会においても、中国で2位となり、本大会へのキップを手にした。〔平成9年度少年女子国体選手、三好紗也香・川田弘美（山口中央高）・稲子田朝美（中村女子高）〕

ここ最近の上位を見ると、柳井工高・山口中央高そして中村女子高が強く、互いにしのぎを削り、いわゆる「三強の時代」が到来し、しばらくは、この状況が続くと思われる。

次に、近年の活動状況を見ると、県内で年間大きな大会を4回実施しており、各々の選手が、全国総体・全国選抜・中国大会へのキップを手に入れようと頑張っている。

また、専門部では、県内の選手のレベル・アップを図ることを目標に、中学生・高校生合同の夏季ジュニア強化合宿や、中国選抜へ向けての冬季強化合宿に取り組んでいる。この二つの合宿を通して、飛躍的に向上し、山口県全体のレベル・アップに貢献した生徒も少なくない。また、選手にとっては、他の学校の選手との語らいや顧問の先生方からのアドバイスなど、合宿や合同練習会を通して得たものは、数限りなくある。

さらに専門部では、平成7年に山口県内の中学校へ県内高校バドミントン部への進学を促進するためのパンフレットを作成し配布した。このパンフレットは、中学・高校そして大学・社会人へと一環してバドミントンに打ち込めることを主旨として、作成されたもので、これにより、底辺の視野が広がり、県全体のレベルの向上に役立った。

しかし、現在の山口県の高校レベルでは、全国に出場しても上位進出は実現できない。他県とは、何が違うのかを考え比較すると、やはり年少の内からバドミントンに接し、継続してバドミントンを続けることのできる環境づくりが一番大切です。ジュニアからの養成、そして目標への的確なアプローチが何よりも必要なことです。

以上を念頭におき、高校専門部としては、協会をはじめ、諸先輩方の御指導・御鞭撻により、さらに精進し、良い成績を残したいと念じております。

中学校専門部の歩み

山口県中体連バドミントン専門委員長　野　村　義　徳



平成８年度全国大会で活躍の鴻南中学校ペア

県下で最初のバドミントン部は中尾淳子（佐藤）が下関市の日新中学校で創部したものだった。

昭和37年に津守、尾上が、山口国体のため彦島中へ転勤、部活が誕生、日新中より遅れること２年であった。38年には渡辺も勤務するようになった。

その後、３人が転勤をするたびに新しく部を創っていき、参加校や参加数が増えていった。

下関市中体連へ加入したのは、日新中、彦島中、安岡中、玄洋中の４校になった頃で、中国中学生交歓会や全国選抜大会も全部下関勢が参加していた。

県体種目にぜひ加えてほしいと、以前から県中体連へ何度も働きかけていたが、４支部の参加がなければと絶対にだめだとのことであった。

そこで、県下の中学校、バドミントン部ＯＢ、関心のある教員へ手紙や電話で呼びかけをした。

しかし、４支部の参加は簡単なようでなかなか大変であった。部を創りたいと思っても『県体種目にもないそんな部を創ってどうするのか』という一言で一蹴され、自分に向いてない部活を担当させられるのが常であった。その他練習場確保や予算面等問題点もあり困難を極めた。やっとの思いで創った部も、転勤で廃部になったりして、県体種目に加えられないまま20年を経過していった。

それがある日突然に、県中体連のほうからバドミントンを県体種目にしてほしいとの要望があり、４支部ないままに県中体連加入となった。

第１回目の大会は55年の春季県体で、宇部中央高校体育館で行われ日新・彦島・玄洋・安岡（下関）大殿（山口）須々万（徳山）の３支部６校だった。

この年、第１回目の中国大会も岡山で開催され、単で沖（須々万）複で高橋・松原組（須々万）が優勝し全国大会への出場権を得た。３回大会は単で田中伸幸（須々万）複で河野・広谷組（須々万）、４回大会では単で田内（須々万）が優勝し、全国大会ではベスト８に進出した。村田浩子（須々万）も２位となり、女子では中国大会初の入賞を果たした。

５回大会は、単で金子（川中）が優勝した。そのほか日新・彦島等下関勢の活躍で、山口県が常に上位を占めていた。８回大会で浅江中男子が団体戦に初優勝し、複では秋元・山東組（須々万）が優勝した。

平成元年山口市で全国大会が開かれ、複１位の陸田森広組を軸に中国大会優勝の須々万中が、男子団体で初のベスト８進出をした。これまでの須々万中の栄光の数々は、佐藤純一氏の指導のお陰である。

女子単では、中国初のチャンピオン村田みつえ（串）が全国ベスト８に入った。また今回、中国２位となって全国大会出場を果たした大殿中女子が、これを契機に中国大会入賞に毎回顔を出すこととなる。

11回大会で垢田中が団体戦と金山・波田組が複優勝。

第12・13回大会で増田（末武）が単で２連覇、末武中が団体優勝、14回大会は、単で米川（下松）、複で石田・長嶺組（末武）が優勝した。最近では16回大会で森永・川田組（鴻南中）17回大会で三輪・大西組（大殿）と女子複に２連覇している。さらに、17回大会では、鴻南中が女子団体で県勢初の優勝を果たしている。

須々万、太華、堀、串、日新、川中と過去栄光に輝いた学校が、現在廃部になっているのは残念であるが、全県的には、岩国、光、熊毛、下松、徳山、防府、山口、萩、宇部、下関の10支部29校と発展している。

専門委員長は、昭和55年から尾上忠、平成５年から津守真治、平成９年から野村義徳が務めている。また、副委員長として津守幸介、渡辺恒輔、川崎健治、杉山覚、塩谷安宣、伊藤宏朋が就任した。

専門部等の歩み

ジュニア連盟の歩み

山口県前ジュニアバドミントン連盟委員長　山　下　新　一

昭和53年頃から各市町村、各地域で少しずつ少年スポーツ教室（バドミントン）が取り上げられるようになった。その中でも特に下松木曜会と玖珂スポーツ少年団の歴史は古く、かなり前から活動を始めていた。その後柳井市、宇部市、新南陽市、山口市などの小学生にバドミントンが普及し、県内各地にジュニアクラブが誕生してきた。

昭和58年12月には柳井市で、小学生におけるバドミントン競技の伸展及び普及をはかることを目的に県協会の後援のもと、第１回柳井オープン小学生大会が開催された。この大会は県規模の初めての大会となり、参加選手も200名を越す盛大な大会となった。

第１回柳井オープン小学生大会成績（１位のみ）

５年男子複	棟居秀行・武内敏寿	（下松木曜会）
６年男子複	木村雄一・高井　賢	（柳井日積）
男　子　単	木村雄一	（柳井日積）
５年女子複	山内映美・重枝奈美江	（柳井日積）
６年女子複	河村真由美・西村和美	（柳井日積）
女　子　単	河村真由美	（柳井日積）

この柳井オープン大会を引き金に山口県小学生バドミントン大会が開催されたのは翌年（昭和59年）の12月からである。県協会の組織にも小学生の部が設置され、本格的な活動へ踏み出した。

平成４年度からは、県民総参加運動の一環として県体育大会スポーツ少年団の部が開催され、また各地域でも小学生大会が盛んに行われるようになりジュニア層の競技レベルの向上がはかられるようになった。

全国的にジュニア連盟組織の気運が高まるなか、山口県においても平成８年12月、名実ともに山口県ジュニアバドミントン連盟が発足することになった。そして、同時に山口県バドミントン協会及び日本ジュニアバドミントン連盟の加盟団体として傘下に入った。

事業としては、ジュニア大会の開催、中国大会・全国大会への選手派遣、合同練習会等を行い、今後のジュニア層における普及、強化をすることとしている。

全国小学生大会（個人戦）出場者

第４回（平成７年）　会場　石川県金沢市

６年男子複　広中良章・好村正輝(柳井日積)５位入賞

第５回（平成８年）　会場　東京都葛飾区

６年男子複　久次雄一・利行謙一（下松木曜会）

河本智典・山平康太（柳井日積）

第６回（平成９年）　会場　香川県高松市

６年男子複　山平康太・河野亮輔（日積・宇部）

全国小学生大会（団体戦）出場者

第１回（平成９年）　会場　神奈川県横浜市（日体大）

男子　竹光唯志・山縣圭太・久次雄一

利行謙一・河野亮輔

女子　松尾杏澄・窓原　梓・福田絵理子

相本真紀・実近愛子

第２回（平成10年）　会場　神奈川県横浜市（日体大）

男子　山平康太・河野亮輔・松尾光平・山本直輝

女子　末長　南・窓原　梓・実近愛子・青見知英

栄光の記録　中国地区小学生大会（１・２位のみ）

第１回　男子単②高井(日積)　女子単②山内(日積)

男子複①生島・川崎(久米)

男子複②政元・石川(下松)

第２回　男子単②沖山(日積)

第３回　男子単①柳　(下松)　女子単①山内(日積)

男子複①中山・叶井(下松)

女子複①木村・山野井(日積)

女子複②松中・西村(日積)

第４回　男子単①河村(下松)　男子単②松中(日積)

女子単①山内(日積)　女子単②中島(久米)

男子複②大田・山野井(日積)

第５回　男子単①山野井(日積)

女子単②吉村(伊保庄)

第６回　男子単①増田(下松)　女子単①松中(日積)

男子複①浜田・日塚(下松)

第７回　男子単②長嶺(下松)

男子複②米川・石田(下松)

第10回　男子複①高橋・水津(久米)

第11回　男子複②山平・河野（日積・宇部）

寄稿・団体

築き、受け継がれる伝統、大殿中女子バドミントン部

大殿中学校バドミントン部顧問　徳　本　法　子



58年県選手権優勝の高山優子、鹿本敬子組

大殿中に正式（正課クラブでない）のバドミントン部ができたのは、昭和54年春のことです。翌55年に県中体連に加盟され県体と県選手権が始まります。

創設当時はバドミントンの普及に重点を置いており男女80名の部員がいて、体育館の中はいもの子を洗うような状態で、練習内容も楽しければと、片面ゲームばかりやって遊んでいました。

それでも、正課クラブに属していた伊藤、田原、中島、部員では内田、堀らが卒業後よく活躍しました。

練習場もなかなか確保できず、朝練を５時から頑張って、なんとか中国大会に参加できる状態でした。

58年になって徳本教諭を監督に迎え、少し練習が厳しくなり、徳本・堀、鹿本姉・藤本、鹿本妹・高山、矢野姉・江本、古里・原田と県内のダブルスはトップの時代がずっと続きます。

特に６回大会の矢野・江本・塩見・茨木・武田は県内大会楽勝の強力メンバーで、今年こそはと中国大会にのぞんだが、３位入賞も果たせませんでした。

①試合が終わるまで走り続けられる脚力不足
②シャトルを打ち続けられる総合的なパワー不足
③強化練習や練習試合、県外遠征を殆どしない

上記のことに加え、キャリアや伝統の力もないことがびびりの原因となって、大会で実力が発揮できないと考えられました。（以上　尾上）

本格的にトレーニングを開始したのは、石井時代、品川教諭を男子顧問に迎えてからです。校舎のまわりを『大殿中ファイト』とかけ声をかけながら走っていました。練習は本校、大殿小講堂、身障者センター体育館とジプシーさながらです。この頃社会体育との交流も行われるようになります。

第10回中国大会から成果が現れ、女子団体第２位となり、全国大会出場という快挙を成し遂げました。

熊本、福岡の県外遠征も大きく貢献しました。

第11回大会では、前田、小野を主軸にパワフルな攻撃を展開、またソフトなタッチも加え、全国大会団体戦出場を目指しました。しかし、この年全中第３位に入賞の西大寺中に接戦の末、準決勝で敗れました。

また、個人戦出場の前田・小野組は全国大会入賞をと試合に臨みましたが、晴れの舞台で１ゲームは先取したものの、勝ちを意識して堅くなり、２・３ゲームを失い、夢を逃してしまいました。

この頃から生徒の目は全国に向きます。中国大会団体戦入賞は常連となり、中国大会ではマークされる存在にもなりました。このことを印象づけたのが米澤、三好率いる第15回大会です。団体戦・個人戦とも準決勝が事実上の決勝戦で会場が盛り上がりました。

あの接戦のとき１本スマッシュを打っていたら勝てたのにと今でも残念でなりません。

13回大会以降、属・中邑・末永とシングルスでも活躍するようになります。宮原・脇組が全国大会で１回戦を勝ち抜いたり、三輪・大西組が中国大会で優勝するなど、大殿中の記録は次々とぬりかえられます。

これからも築き上げられた夢と精神は、伝統という名の元に受け継がれ、発展していくことと思います。



全国大会団体戦で活躍の矢野和子・小野妙子組

柳井工高バドミントン部の歩み

柳井工業高校バドミントン部顧問　三　浦　捷　治

昭和28年頃より始められたと思われる柳井商工高等学校バドミントン部は、昭和47年に商業科と工業科の分離に伴い、バドミントン部は柳井工業高校に引き継がれた。しかし、体育館は無く、校舎の空き地や、日曜日に小学校の講堂を借用して、シャトルを打つ練習をした。コートのラインはチョークで引き、ネットは、ロープで張って使う状況であった。こんな状況下で大会に参加しても、練習不足のため成績は上がらなかった。昭和49年に体育館も完成し、正式な部として部員を募集し、再スタートした。

以下、大きな流れを述べる。

《昭和50年度》

春季県体の男子団体で初優勝した。

県新人大会の男子団体、単、複の3種目に優勝した。

《昭和51年度》

春季県体でも3種目に優勝し、初の全国大会へ出場した。また、全国高校選抜中国予選の男子団体で優勝し、全国大会へ出場した。団体、単、複の3種目が行われ、複で喜良・川原組がベスト4に残ったが、3位決定戦で敗れ4位と頑張った。

《昭和52年度》

中国大会の団体で初優勝し、さらに、全国高校総体の単で、喜良明文が3位に入賞した。

また、ただ一人の女子部員の浜田真澄は、春季県体の単で優勝し、中国大会、全国総体へ出場した。

《昭和56年度》

中学時代からバドミントンを経験し、全国大会でも活躍した沖　貞雄・高橋和也の二人が入部した。心・技・体ともに優れ、1年次より活躍し、本校のレベルが一段と上がって来た。県総体に優勝し、11年連続優勝がはじまった。後に10年連続全国高校総体出場を記念して、全国高体連より表彰を受けた。

《昭和57年度》

中国大会では、団体決勝で惜敗したが、単で沖　貞雄が、複で沖・高橋組が優勝した。さらに、全国高校選抜大会では、単で沖　貞雄が5位、複で沖・高橋組が3位に入賞した。また、国体でも5位と頑張った。

《昭和58年度》

1年生に元気のよい田中伸幸が加わり、一段とチームは充実し、中国大会では3種目に優勝した。また、単・複共に、昨年に続いて、沖・高橋が連覇した。さらに、全国高校総体の団体で金沢市工高を破り、3位に入賞。単で高橋和也が5位になった。

《昭和59年度》

全国高校選抜大会の団体で3位、単で田中伸幸が5位に入った。

《昭和60年度》

全国高校総体の団体で5位に入り、全国高校選抜大会の複で内冨・金子組が5位に入った。

《平成元年度》

全国高校選抜大会の単で、棟居秀行が2位となり、さらに、複で棟居・武内組が5位に入った。女子部は、平成2年度より続いて活躍している。

本校の記録を表にまとめたものは、次のとおりです。

各種大会のまとめ

（昭和47年～平成8年）

大会名	種目	優勝回数	備考
県高校総体	男子学校対抗戦	15回	12年連続優勝を含む
	〃 個人戦・単	16回	11年　〃
	〃 複	15回	13年　〃
	女子学校対抗戦	5回	
	〃 個人戦・単	5回	
	〃 複	5回	
中国大会	男子学校対抗戦	10回	8年連続優勝を含む
	〃 個人戦・単	9回	5年　〃
	〃 複	11回	11年　〃
全国高校総体	男子個人戦・単	喜良明文	3位（昭和52年度）
	〃 学校対抗戦	（メンバー）	3位（昭和58年度）
		沖・高橋・高橋・内山・河田・田中・和田	
	〃 個人戦・単	高橋和也	ベスト8（昭和58年度）
	〃 学校対抗戦	（メンバー）	ベスト8（昭和60年度）
		田中・森本・岸村・内山・内富・金子・高橋	
国民体育大会	山口県少年男子	沖　貞雄 高橋和也 松原康則	ベスト8（昭和57年度） （徳山北高校）

山口高校で活躍した選手達

山口高校バドミントン部顧問　谷口　明

昭和25年４月山口高校バドミントン部が誕生した。主将上俊明を中心に２、３年生が多数参加したが、指導者・器具用具等何もない出発であった。

活動の場は西校舎（現山大附小）の講堂、体操部と共用で、天井が低く、ハイクリアーが打てない状態であった。26年になると交流試合が行われるようになり第１回バドミントン協会結成記念大会で、玉木・津守組が優勝した。

この頑張りが翌27年の全日本高等学校選手権大会への男女揃っての出場という快挙となった。

30年代は黄金時代である。10年間に７回の中国大会・ＩＨ（インターハイ以下同じ）への出場した。

その後、練習会場は糸米の校舎の一角の体育館に移り、その後校舎改築により本格的な体育館が整備され、共用ながら練習できるようになった。

40年代は中国大会へは出場するがＩＨへの道は厳しく、個人戦にボツボツ出場する位であった。

50年代は30年代に続く活躍で、10年間に９回の中国大会出場、２回のＩＨ出場、加えて女子の国弘・横山組の活躍は特筆される。

続く60年代は最も沈滞した時代で、中国大会も遠い存在であった。

そして現在は復活の道を歩いている。まず個人戦単で藤井の中国大会優勝の快挙があり、９年度選抜中国地区予選会に男子団体、単３人、複２組、女子単１人、複１組の出場した。

総合すると創部以来、団体戦ＩＨ10回、中国大会26回出場している。県内で最も歴史がある高校であり、この歴史・伝統を伸ばしていきたいと練習に励んでいる昨今である。

以下、ＩＨ出場記録と顧問を拾ってその記録とする。

- 27年Ｔ、男子ＩＨ、女子ＩＨ
- 30年Ｔ男子ＩＨ、Ｓ山本、長峰、Ｄ山本・森近、松永・栗崎。顧問武田）～31年)。
- 32年Ｔ男子ＩＨ、Ｓ宮内、Ｄ宮内・泉
- 33年Ｔ男子ＩＨ
- 34年男子ＩＨ、Ｓ小原、Ｄ山崎・松岡。顧問吉本謙吾（～35年）
- 35年Ｔ男子ＩＨ、Ｓ右田、三島、Ｄ右田・三島、横田・倉橋
- 36年Ｔ男子ＩＨ、Ｓ山田、大内、Ｄ大内、吉岡、山田・田中
- 37年Ｔ男子ＩＨ、Ｓ吉岡・林、Ｄ末廣・右田、吉岡・林。顧問中村勇夫（～44年）
- 38年男子ＩＨ、Ｓ右田、Ｄ右田・原田
- 39年Ｔ男子ＩＨ、Ｄ末広・野村、熊丸・松下
- 40年男子ＩＨ、Ｓ松下、前田、Ｔ女子徳本、浜本、安部、平岡
- 41年男子ＩＨ、Ｓ秋本
- 45年男子ＩＨ、Ｄ辻中、河村。顧問川崎（～53年）
- 48年顧問吉本侃司（～57年）
- 49年男子ＩＨ、Ｓ小林
- 52年男子ＩＨ、Ｄ内田、山村。女子ＩＨ、国弘・横山
- 53年Ｔ男子ＩＨ、Ｓ岸田、藤井、Ｄ岸田・吉村、藤井・西村
- 54年男子ＩＨ、Ｓ伊藤、Ｄ伊藤・原田
- 55年Ｔ男子ＩＨ、Ｄ松木・本間
- 56年男子ＩＨ、Ｓ杉山、田原
- 57年男子ＩＨ、Ｓ田原、Ｄ田原・三戸
- 60年顧問大川（～61年）
- 62年顧問河村（～平成３年）
- 63年顧問谷口（～元、６年～現在）
- ２年顧問亦野（～５年）
- ８年男子ＩＨ、Ｓ藤井、Ｄ藤井・中原。顧問田中功（女子）
- ９年男子ＩＨ、Ｓ中原

中村女子高バドミントン部14年

中村女子高校バドミントン部顧問　大　塚　功　司

本校バドミントン部は昭和59年４月の創部より、平成10年４月をもって14年の歴史を数える。この14年間を３つに区切り、部の歩みを振り返ってみたい。

（１）第１期（昭和59年～昭和63年）

昭和59年４月に創部したバドミントン部ではあったが、部員も少なく、加えて体育館の使用ができない状況の中で部活動が続けられていた。（前顧問堀　立子教諭談）昭和60年９月の体育館拡張に伴い、フロアにコートラインがかかれ、週３回の体育館使用が可能になり、11月の新人大会では団体戦ベスト８、昭和61年２月の山防戦女子シングルス１年の部優勝など、次第に各大会で好成績を収められるようになっていった。当時の部活の様子は次のように伝えられている。「１年生だった現部長を中心にして今日まで一年余。試合に出場できなくても練習を欠かさない者、黙々とスコアをとる者達に支えられ、全員が苦労を共にして成し得たことだと思っています。」（昭和61年３月１日発行『中村親師会だより』から）

（２）第２期（平成元年～平成５年）

第２期は念願の中国大会出場を果たした時期でもある。平成元年６月第32回中国高校選手権に団体、個人で初出場を果たし、平成５年11月には新南陽市体育館で行なわれた秋季県体において山口中央高を破って優勝し、平成６年１月の全国選抜中国地区予選会に団体初出場、中国地区第３位の栄冠に輝いた。

（３）第３期（平成６年～平成10年）

悲願であったインターハイ出場を果たしたのがこの第３期である。平成７年６月、下関市体育館で行なわれた県総体個人女子複決勝で敗れはしたものの、谷川真由美・諏佐百栄組が島根県松江市で開催されたインターハイに出場した。

平成９年６月１日、下関南高体育館で行われた県総体決勝戦で山口中央高を下し、優勝、創部14年目にして初めてインターハイ団体出場を成し遂げた。加えて同年６月下旬、岡山市で開催された第40回中国高校バドミントン選手権大会では、決勝戦で山陽女子高（岡山）に敗れはしたが見事、準優勝となり、インターハイ出場に花を添えた。保護者、学校関係者は勿論、地域の方々を含め、多くの方々の御支援の賜物と感謝し、チーム一丸となって、更に努力を重ねていきたい。

年　度	顧問教諭	主　将	部員数	主な出来事
昭和59年度	堀　立子　棟久　房枝	川上　昭子	14（４）	４月創部
昭和60年度	堀　立子　棟久　房枝	石田　敦子	18（０）	秋季県体学校対抗戦ベスト８進出
昭和61年度	堀　立子	石田　敦子	27（10）	全国高校総体（インターハイ）山口開催
昭和62年度	堀　立子　奥野　裕子	山本美和子	30（８）	
昭和63年度	堀　立子　奥野　裕子	石田　早苗	31（９）	山口県高校新人大会学校対抗戦第３位
平成元年度	堀　立子　奥野　裕子	古里ひろ子	30（13）	第32回中国高校選手権団体・個人初出場
平成２年度	堀　立子　吉武　則夫	徳本美紀世	23（９）	
平成３年度	堀　立子　吉武　則夫	光成　幸子	23（８）	山防地区大会学校対抗戦第２位
平成４年度	堀　立子　吉武　則夫	河口美也子	25（６）	第43回山口県高校総体学校対抗戦第３位
平成５年度	堀　立子　大塚　功司	入屋　忍	24（９）	
平成６年度	堀　立子　大塚　功司	宮原　妙子	21（10）	秋季県体学校対抗戦第３位
平成７年度	堀　立子　大塚　功司	谷川真由美	22（５）	鳥取インターハイ、個人複初出場
平成８年度	堀　立子　大塚　功司	藤井　朋美	20（６）	
平成９年度	大塚　功司　神足　章	稲子田朝美	22（11）	京都インターハイ、団体初出場
平成10年度	大塚　功司　神足　章	森永　裕美	17（５）	

山口中央高バドミントン部の歩み

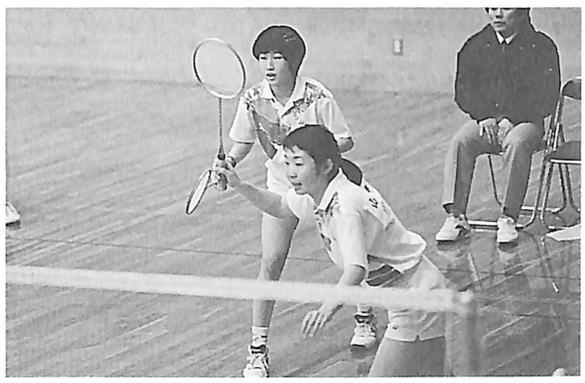
山口中央高校バドミントン部
前顧問　松本克芳

昭和30年、県立山口中央高等学校発足と同時にバドミントン部も発足したが、翌31年には部員不足で廃部となった。正課クラブ初年度46年に、同好会として復活、２年後の48年に部に昇格した。

昭和54年、春季県体で坂口裕紀子が女子単で、内田敬子・藤本洋子組が女子複で初めてベスト８に入った。昭和56年清水如子、宗像久美子の活躍により春季県体学校対抗で初めてベスト４に入った。

昭和60年、堀悦子・磯部優子組が中国選抜に出場した。また、同年、中国大会学校対抗（堀部長以下磯部、鹿本、須崎、藤本、鈴木、三牧）に初出場し、３位に入賞した。女子単に堀が出場した。昭和63年、中国大会学校対抗（田中菜穂部長以下伊藤、津田、吉田、池田、弥政、松島）に２度目の出場を果たした。平成元年、中国大会女子単に弥政由季子が出場し、１回戦を突破、平成２年、中国大会学校対抗（石川部長以下有田、杉山、中村、本行、田中、三井）に出場し、ベスト８、女子単に田中真由美が出場した。

平成３年、中国選抜、同年、中国選抜学校対抗（三井部長以下橋本、長尾、小野、杉山、前田、宮原）に出場した。女子単には三井寛子、小野妙子が出場し、三井が強豪を押さえて２位となった。女子複には三井・橋本綾乃組、小野・前田奈美組が出場し、三井・橋本組がベスト８に入った。平成４年、全国選抜学校対抗（三井部長以下７名）に初出場した。平成４年６月、中国大会学校対抗（三井部長以下７名）に出場し、ベスト８に入った。女子複には三井・橋本組、小野・前田組が出場した。平成５年、中国選抜学校対抗（宮原麻美部長以下小野、杉山、前田、阿部、蔵成、松永）に出場し３位に入賞した。女子単には小野、杉山裕美、宮原が出場し、小野、宮原がベスト８に入った。女子複には小野・前田組が出場し、ベスト８に入った。平成５年、中国大会学校対抗（宮原部長以下７名）に出場し、３位に入賞した。女子複には小野・前田組が出場した。平成５年、全国総体学校対抗（宮原部長以下７名）に初出場した。女子単には小野、女子複には小野・前田組が出場した。平成６年、中国選抜女子単には蔵成路恵、女子複には阿部優子・蔵成組が出場した。平成６年、中国大会学校対抗（蔵成部長以下阿部、岩城、小川、属、武波、冨川、吉岡）に出場し、ベスト８に入った。女子単には蔵成、女子複には阿部・蔵成組が出場した。平成６年、全国総体女子単には蔵成が、出場した。女子複には阿部・蔵成組が出場し、３回戦に進出、ベスト32に入った。平成７年、中国選抜女子複には小川由美子・冨川香織組、属一枝・林弘美組が出場した。平成７年、中国大会女子複には岩城奈央子・吉岡万智子組が出場した。



中国高校選抜で活躍する三好・川田組

平成９年、中国選抜学校対抗（三好部長以下伊藤、金子、兼村、大村、金澤、川田）に出場し、３位に入賞した。女子単では川田弘美が３位、三好紗也香がベスト８に入った。女子複では三好・川田組が地元開催の利を生かして優勝を飾った。平成９年、全国選抜学校対抗（三好部長以下７名）に出場し、予選リーグで全国大会初勝利をあげた。平成９年、中国大会学校対抗（三好部長以下金子、大村、金澤、川田、河上、川副）に出場し、ベスト８に入った。女子単に三好、川田が出場した。女子複では三好・川田組が２位に入賞した。平成９年、全国総体女子単に三好、川田、女子複に三好・川田組が出場し、いずれも１回戦を突破した。平成10年、中国選抜学校対抗（川田部長以下和泉、大村、金澤、河上、川副、中原）に出場し、３位に入賞した。女子単には川田、女子複には川田・川副良子組が出場し、ともにベスト８に入った。

下関南高バドミントン部の歩み

前下関南高校バドミントン部顧問　佐々木　辰　博

下関南高校バドミントン部は高体連での大会が始まった当初より大会に出場し、数々の好成績をあげている。中でも、団体でのインターハイ出場回数10回、中国大会出場回数31回は県内でトップの成績であり特筆すべきものがある。

数多い記録の中で特に優れたものをいくつか上げてみる。監督中西禎二の指導の下、昭和41、42年の中国大会団体３位、この大会での主力選手は渡辺、風間佐知子であり、県体ではダブルスにおいて優勝している。昭和44年中国大会団体準優勝、この大会ではシングルスにおいて永田美登利が優勝、ダブルスにおいても永田美登利・浜田理恵子組が優勝と下関南高の歴史の中でも輝かしい成績を上げている。昭和46年県体優勝、ダブルス渡部悦子・中村組県体２位、昭和47年中国大会団体３位、昭和49年シングルス田上裕子インターハイ出場、監督岩根達夫の指導の下、昭和50年～昭和54年まで団体はインターハイに連続出場しており、個人では昭和51年ダブルス林・河野八重子組が、昭和53年ダブルス中岡宏子・須田良子組、井上雅美・平井幸恵組、シングルス井上雅美、平井幸恵がインターハイ出場。この昭和53年は県内の大会完全制覇で、中国大会においても団体３位の好成績を上げている。昭和54年シングルス小林登世子がインターハイに出場。昭和55年ダブルス中村・乾千鶴組インターハイ出場。中国大会３位、昭和58年～60年団体インターハイ連続出場、個人では昭和59年ダブルス俵まり・渡辺真理子組、シングルス俵まり、渡辺真理子がインターハイに出場しており、この年の中国大会においても団体３位、ダブルス俵まり・渡辺真理子組準優勝、インターハイにおいてもベスト16と輝かしい成績を上げている。昭和60年中国大会団体３位、この年の主力選手は坂口、鶴田、木村、井上であり、県体ではダブルス３位である。



（昭和53年のメンバー）



（昭和59年のメンバー）

昭和61年中国大会３位、この年の主力選手は田中友子、鶴田恵美であり県体ではダブルス３位である。昭和62年ダブルス内田加代・槙杢佳代組インターハイ出場。この年の前後より監督岩根達夫の転勤による指導者の不在、地域での中学生のレベル低下が重なり県内大会においても団体、個人ともにベスト８にも入れない状態が平成５年まで続く。

監督佐々木辰博の指導の下、平成６年中国大会に団体で出場、平成７年ダブルス平岡恵・宮崎万実組県内大会優勝、中国大会ベスト８、平成８年シングルス宮崎彩子インターハイ出場、中国大会団体戦３位この年の主力選手は宮崎彩子・宮下瑠美で県体ではダブルス３位になっている。

下関南高校において、バドミントン部は伝統のあるクラブの１つではあるが、練習場所についてはそれほど恵まれていたわけではない。コートは体育館に変則的に２面ほどしかなく、体育館を使用できる曜日も日曜日も入れて週に４、５回であった。部員も年度当初は多いが、夏休みを過ぎると１学年４、５人程度になるのが普通であった。しかし、選手はそのような練習環境において、常に前向きに能率良く練習をこなし日々切磋琢磨してきた。また、最初にも述べたが、地域でのバドミントン競技に対する取り組みがすばらしく、小学生の頃から熱心に指導してくれる人が多く、また中学校での取り組み、指導者ともに優れたものがあり、下関南高校での好成績が得られてきたと思われる。

最近では、下関市内の中学校のクラブ数も減少し、それにともないレベル低下が大きく影響し、高校の段階で好成績を残すことが大変難しくなっている。

下関中央工高バドミントン部の足跡

下関中央工業高校バドミントン部顧問　渡　辺　光　男

昭和42年に松田仁、中川逸雄、浅原秀雄、樋口茂雄らが中心となり、村上進先生の指導のもとで同好会が発足した。昭和44年には部に昇格し、本格的な活動が始まった。以来、団体戦では、全国高校総体7回出場、全国高校選抜大会出場、中国高等学校選手権大会21回出場など輝かしい成績を残している。

以下、同好会発足から現在までの主な成績を年毎にまとめてみた。

S42年　下関中央工高バドミントン同好会が発足。

S44年　下関中央工高バドミントン部に昇格。全国高校総体に複が初出場。

S45年　全国高校総体に単が初出場。国民体育大会に富田正四郎が初出場。

S46年　中国高等学校選手権大会に団体出場。和歌山国体に竹中信行が出場。

S47年　全国高校総体に複が出場。中国高等学校選手権大会に団体・複・単が出場。竹中信行・渡辺光男が複準優勝、竹中信行が単3位。

S48年　全国高校総体に団体・複・単が出場。中国高等学校選手権大会に団体・複・単が出場。永冨正史、山本昭生が複3位、永冨正史、上利保彦が単3位。

S49年　中国高等学校選手権大会に団体・複・単が出場。梅月隆・瀬戸清志が複優勝。

S50年　全国高校総体に団体・複が出場。中国高等学校選手権大会に団体・複・単が出場。

S51年　全国高校総体に複・単が出場。中国高等学校選手権大会に複・単が出場。

S53年　中国高等学校選手権大会に団体・複が出場。

S54年　全国高校総体に団体・複・単が出場。中国高等学校選手権大会に団体・複・単が出場。団体3位。

S59年　中国高等学校選手権大会に団体・複が出場。高瑞稔・安田耕司が複3位。

S60年　中国高等学校選手権大会に団体・複・単が出場。団体3位。安田耕司、吉田努が複3位。

S61年　全国高校総体に団体・複・単が出場。中国高等学校選手権大会に団体・複・単が出場。平上満義、金子義信が複3位。平上満義が単準優勝。

S62年　中国高等学校選手権大会に団体・複が出場。金子義信、河原靖雄が複3位。

H元年　中国高等学校選手権大会に団体・複が出場。

H2年　全日本ジュニア選手権大会に複初出場。中国高等学校選手権大会に団体・複・単が出場。団体3位。

H3年　全国高校総体に複が出場。中国高等学校選手権大会に団体・複が出場。山根睦、森野浩史が複3位。

H4年　全国高校総体に団体・複が出場。全日本ジュニア選手権大会に単が出場。中国高等学校選手権大会に団体・複が出場。団体3位。全国選抜大会中国地区予選会に団体・複・単が出場。団体優勝。中村淳一、内田英樹が複優勝。国民体育大会に中村淳一が出場。

H5年　全国高校総体に団体・複・単が出場。中国高等学校選手権大会に団体・複・単が出場。団体準優勝、中村淳一、内田英樹が複準優勝、中村淳一が単3位。国民体育大会に中村淳一が出場。

H6年　全国高校総体に複が出場。中国高等学校選手権大会に団体・複が出場。全国選抜大会中国地区予選会に複・単が出場。

H7年　全国高校総体に団体・複・単が出場。中国高等学校選手権大会に団体・複・単が出場。立石恵介が単3位。中国大会団体戦出場20回の表彰を受ける。全国選抜大会中国地区予選会に複が出場。

H8年　全国選抜大会中国地区予選会に複が出場。

高森高校バドミントン部の歩み

高森高校バドミントン部顧問　山　本　一　夫

昭和29年、佐久間貫弌先生の尽力により部が創設された。以来45年、幾多の変遷を繰り返しながら、活動してきた。現在、山本一夫監督のもと部員一丸となり中国大会や全国大会を目指し、名門復活に向けた取組みが展開中である。

主な成績

昭和60年　県高校選手権　団体２位、単２位　叶井
　　複１位　田辺佳代・松原久美子
　新人戦兼県体　団体１位、単２位　松原
　　複１位　田辺・松原
　中国高校選手権　団体ベスト８
昭和61年　県総体　団体１位、単２位　田辺
　　複１位　田辺・松原　２位　叶井・藤井
　県高校選手権　団体１位、
　　単１位　藤井孝子
　新人戦兼県体　団体２位、単１位　藤井
　　複１位　藤井・寺島典子
　中国高校選手権　団体３位
　全国高校総体　団体戦・個人戦出場
　中国ブロック大会　田辺・松原　出場
　山梨国体　田代佳代・松原久美子　出場
　全国高校選抜　複　藤井・寺島　出場
昭和62年　県総体　団体１位、単１位　藤井
　　複１位　藤井・寺島
　県高校選手権　団体１位、単１位　藤井
　　複１位　福谷・福谷
　中国高校選手権　団体３位
　全国高校総体　団体戦・個人戦出場
　中国ブロック大会　藤井・寺島　出場
昭和63年　県総体　団体１位、単１位藤井美佐子
　　複１位　藤井・西町由紀
　県高校選手権　団体１位、単１位藤井
　　２位　西町、複１位　藤井・西町
　新人戦兼県体　団体１位、単１位　藤井
　　２位　西町、複１位　藤井・西町
　中国高校選手権　団体３位
　　単２位　藤井美佐子
　全国高校総体　団体戦・個人戦出場
　中国ブロック大会　藤井・村田出場
平成元年　県総体　団体１位、単１位　藤井
　　２位　西町、複１位　藤井・西町
　県高校選手権　団体１位、単１位　藤井
　　２位　村田悦子、複１位　藤井・西町
　新人戦兼県体　団体１位、単１位　西町
　　２位　村田、複１位　西町・村田
　　２位　笹本・増田
　中国高校選手権　単３位　西町由紀
　全国高校総体　団体戦・個人戦出場
　中国ブロック大会　藤井・西町・村田出場
平成２年　県総体　団体１位
　　単１位　西町　２位　村田ぇ
　　複１位　西町・村田
　　２位　村田・増田
　県高校選手権　団体１位
　　単１位　村田みつえ
　　複１位　西町・増田
　新人戦兼県体　団体２位、単１位　村田
　　複１位　村田・西村
　中国高校選手権　団体２位
　　単３位　西町由紀
　全国高校総体　団体戦・個人戦出場
　中国ブロック大会　西町・村田・村田出場
平成３年　県総体　単１位　村田、複１位　村田・桂
　県高校選手権　単１位　村田みつえ
　中国高校選手権　団体戦・個人戦出場
　全国高校総体　個人戦出場
　中国ブロック大会　村田みつえ　出場
平成４年　県総体　単１位　村田みつえ
　中国高校選手権　団体戦・個人戦出場
　全国高校総体　個人戦出場
　中国ブロック大会　村田みつえ　出場
　山県国体　村田みつえ　出場

早鞆高女子部バドミントン部の歩み

早鞆高校バドミントン部顧問　岡　村　昭　二

昭和46年、岡村昭生先生により部を創設、部長に就任した。練習会場が手狭なため、練習内容に工夫を凝らしながら、部員一同は毎日頑張っている。

先輩達は30年近い歴史の中で全国大会や中国大会の団体戦・個人戦に出場し活躍した。

現在の部員は２年３名・１年３名で先輩達に続けと全国大会出場を目標に励んでいる。

社会人では長野光子・引地朱美（下関大丸）が国体選手として活躍、現役選手の土坂康子（下関大丸）は国体・実業団大会等に参加し活躍中である。

主　成　績

昭和50年６月　春季県大会
シングルス２位（柿本道代）
中国大会、全国大会出場

昭和51年６月　春季県大会
シングルス２位（楠　幸恵）
中国大会、全国大会出場
ダブルス１位（楠　幸恵、山村寛子）
中国大会、全国大会出場

昭和51年10月　秋季県大会　学校対抗戦１位
楠　幸恵、山村寛子、加生典子
引地朱美、長野光子、伊藤優子

昭和52年６月　秋季県大会　学校対抗戦２位
引地朱美、長野光子、伊藤優子
広瀬恵美子、景由まゆみ
福嶋君子、金丸富士美

昭和54年10月　秋季県大会　学校対抗戦２位
福嶋君子、金丸富士美、岡村可奈江
安村直美、江本久美子、藤井真砂子
内山尚子

昭和54年11月　県新人大会　学校対抗戦２位
岡村可奈江、安村直美、江本久美子
藤井真砂子、内山尚子、小沢京子

昭和55年６月　春季県大会　学校対抗戦１位
岡村可奈江、安村直美、江本久美子
藤井真砂子、内山尚子、小沢京子
中国大会２位　全国大会出場
シングルス２位　岡村可奈江
中国大会、全国大会出場

昭和56年６月　春季県大会　学校対抗戦２位
山本節子、菊池信子、小早川静枝
新久保洋子、木内妙子、松中弘美
中国大会出場

昭和56年10月　秋季県大会　学校対抗戦２位
山本節子、菊池信子、小早川静枝
新久保洋子、木内妙子、松中弘美

昭和58年６月　春季県大会　学校対抗戦３位
森口裕子、杉本登志枝、渡辺秀代
横山美和、木内亜由美、安田瑠美子
菅原千恵子
中国大会出場

昭和60年６月　春季県大会　学校対抗戦３位
追崎真由美、桑原裕子、近藤典子
山口陽子、川尻孝子、小林千秋
中国大会出場

昭和63年６月　春季県大会　学校対抗戦３位
中住裕子、藤原昌枝、浦木敏子
月俣香理、木戸夕貴、原　真澄
中国大会出場

平成２年11月　選抜県大会
ダブルス３位（内田玲子、渡辺真理）
中国大会出場

平成４年９月　秋季県大会３位
土坂康子、瀧まゆみ、竹添奈美江
宇山昌子、岡崎絵理奈
ダブルス３位（土坂康子、瀧まゆみ）

平成４年11月　選抜県大会
ダブルス３位（土坂康子、瀧まゆみ）

平成５年４月　中国大会県予選会
ダブルス３位（土坂康子、瀧まゆみ）
シングルス３位（土坂康子）
中国大会出場

平成５年９月　秋季県大会　ダブルス２位
土坂康子、竹添奈美江

山口大学－往年の名選手たち

山口大学バドミントン部ＯＢ　藏　成　秋　次

山口大学にバドミントン部ができたのは、昭和26年、県協会創立とほぼ同時期である。以来今日まで、400名のＯＢを送り出し、少なくとも昭和40年代までは、県バドミントン界をリードし、技術向上の中心的な役割を果たしてきた。具体的に言えば、男子は宇部興産・山陽パルプ、女子は下関大丸等の実業団が力をつけるまでは、県下のトップ選手は常に山口大学生が占めていたといえる。

以下、往年の名選手達を中国五大学の戦跡から追って、その記録としたい。

大学の試合は２複３単で争われる。従って、いくら突出した選手が１人いても勝てない。４人同レベルで粒がそろっていた時勝っている。

初めて五大学で山大が優勝したのは、昭和29年。津守幸介・松田光夫・名越久雄（27年入学以下同じ）、山崎基之（28年）の時代である。次いで昭和33年、河本清・桜井昭生（30年）、藏成秋次・梅本晃太郎（31年）の時代で、第２期黄金時代といえる。

第３期黄金時代は、渡辺恒輔、三嶋俊輔（33年）村上恵一（34年）小原重信（35年）を中心とするメンバーで35年・36年と五大を制している。以後今日まで男子で五大学大会での団体優勝はない。

野見山弘次・五丁竜一（38年）林道彦（39年）三井裕（40年）吉岡博美（41年）など個人では優秀な成績を残し、後に教員団選手として活躍した人も輩出している。

一方女子は五大優勝は昭和37年。兼重瑞枝・原川貞子（35年）桑原日出子・飯田公子（36年）らが中心、宿敵岡大を倒している。次いで昭和40年・41年と連覇、金子淳子・岡智恵子・渋谷幸子（37年）が36年組に加わって勝ち取っている。

さらに、昭和46年、藤山房子・吉川優子・横見邦子（43年）らの活躍により勝利している。これが女子第２期黄金時代である。

第３期黄金時代は五大とともに中・四国を制している。中野比佐枝（48年）、神崎久美子・伊賀恭子・上廣文恵（49年）が主力メンバー、攻守兼備の２つのペアは、出色であった。

女子にはもう１度中・四国を制した記録がある。斉藤光江・山下貴子（55年）鳥居慶子・増田章子（56年）の時代で、昭和58年に中四で団体優勝している。

男子では、その後、森重朗（48年）、水津信彦（49年）、松村省三（50年）、増永哲也（54年）、津守真治（56年）、杉山覚・中島博志（58年）、田原暢也（59年）、岡健一、尾上晃一（61年）らがおり、女子では泉田康子（51年）らの活躍があげられる。個人戦では優秀な成績を残し、現在も活躍している人も多い。

現在、県協会、市郡協会のお世話をしている人も多く、さらには教職にある人は、その普及と技術の向上に寄与しており、文字通り、県協会の引張る力となっている。

特筆すべきは、尾上忠（31年）沢田恭治（36年）であり、中学・高校のバドミントン普及の力となった人で、さらに、佐藤純一（42年）は、須々万クラブなどの選手を中心に数多くの優秀な選手を育てている。

山口大学は、昭和31年に北九州大との定期戦を始め、更に、昭和34年から長崎大との定期戦を始めている。昭和37年から、五大学、中・四国大学の外に中・四・九学生バドミントン大会が行われるようになっている。昭和45年から、北九州大学定期戦を廃し、広大との定期戦が行われるようになり、現在に至っている。

県学生バドミントン連盟が昭和49年に結成され、春・秋その選手権大会が開かれている。

現山口大学バドミントン部は、部員、男子30人、女子15人、昨年中・四リーグ戦２部、五大、男女共５位、まさに“低空飛行”である。県学の中でも東亜大の突出さもあって、８位に入るのがやっとである。

昭和42年、梅本晃太郎（31年）野見山弘次（38年）の尽力でＯＢ会羽翼会（はねのやから）が結成された。

以来今日まで、毎年１回例会を開き、現役との対抗戦、部活動費援助を続けている。

山口大学ＯＢにとっても、バドミントンは－山口は－甘い青春の味とともに、誰れの胸にも、いつまでも息づいているようである。㊟姓は旧姓のまま。

東亜大学バドミントン部の歩み

東亜大学バドミントン部監督　杉　原　哲　彦

昭和49年東亜大学経営学部の開学と同時に赴任した私は、開学初年度で、しかも学生が60人であったために、学生達に何かクラブ活動をさせようと、昼休みに学生と羽根打ちを始めたことが、東亜大学バドミントン部の出発点となった。９月になり男子５人女子１人でバドミントン部を結成した。経験者は全くいなかったが、高校時代何かのスポーツをしており、運動能力の高い学生達だった。私は、彼等と毎日ダブルス３試合シングルス５～７ゲームつき合うことになった。一年ほどで私の体力と技術は、大学生の頃に追いつき追い越した。２年目には２人の経験者が入部したが、２人ともやめ、結局初年度の５人中心のチーム作りとなり、２年目の10月の北九州・下関地区インカレで二位までこぎつけた。体育館はなく、電燈もない講堂での練習場しかなく、強くすることはなかなか難しいことだった。４年目に再び５人の学生が入部した。その中に熊本でベスト８だった宇土高校出身の野口がいた。彼は北九州・下関地区インカレで２度ほどシングルスでは優勝したが、団体戦では勝つことができなかった。その後、東亜大学は学生数が減り、定員割れを起し、スポーツ選手、ましてバドミントン選手はほとんど入学してこなかった。高知商業のインターハイ選手だった、掛橋、北村と入部してきたが、団体戦も組めない状態であった。

ところが昭和62年から出生率の上昇により、受験生が増加し始めたのを期に、スポーツ強化を始めることになった。バレー、バドミントン、２年後にはゴルフ、その３年後には野球とそれぞれ監督を体育教員として招請し、東亜大学のスポーツ強化が始まった。バドミントンは昭和62年松谷、63年鹿島、森下、森田、64年平尾と中国地区のトップレベルの選手が入部した。まず、中・四国制覇に向け指導を開始した。私は私のレベルの選手が３～４人いれば中・四国には勝てると信じていたので、そのレベルに達するのを待っていた訳だ。平成３年に中・四国学生選手権で団体初優勝し、インカレにも出場するようになった。平成４年に１回２位になっているが、平成９年まで中・四国は優勝している。平成元年入学の平尾、２年の柳田、生田、４年の馬場、横井、青木、相本、磯貝、５年の渡辺、松本、６年の宮田、古賀、７年の田上、田崎、吉岡、中島、霜村、８年の永松、これらの選手達が各々のチームで中心選手となり、中・四国でトップを維持し、かつレベルアップをしてきている。平成９年、２年前から当然勝てるはずであった中・四・九学生選手権で、団体、個人シングル、ダブルスと完全優勝をなしとげ、十数年続いた福岡大学の制覇をストップすることができた。今後、中・四・九学生選手権は東亜大学の連覇が続くだろう。

しかし、目標はさらに先にある。西日本学生選手権では平成７年ベスト８、平成８年ベスト４、平成９年ベスト８、まだトップにまで少し差があるようだ。西日本を制覇して始めてインカレでベスト８入りが出来るだろう。インターハイでトップレベルの選手が入部してくれば、インカレをとることもそう難しいことではないと思うが、そのような選手はまだ東亜大学には入ってこない。一つの方法として、選手が在学中に、先年青木が卒業後やったように、台北の合作金庫に数ヶ月間いかせて、一緒に練習させれば、かなり強くなって帰ってくることは間違いないので、今後毎年１人は送りこもうと考えている。そして、何よりも私が大切にしていることは、部員１人１人が本当にバドミントン好きで、バドミントン中心に自分の毎日毎日の生活がコントロール出来る選手を育てることだ。馬場、青木、磯貝、宮田などは、ほぼそのことが出来るようになった選手達であった。在学生で彼等に続く選手が何人でるかが最も私の気になることだ。そのことが出来て始めて、社会人になっても馬場・青木（東海興業）磯貝（ネグロス電工）のように仕事とバドミントンが共に生活の一部となるのだろうと思う。

東海興業は平成９年６月に全日本実業団でベスト16に入った。私の目標は、東亜大学バドミントン部卒業生が中心メンバーのチームが、日本リーグ入りを果たし活躍することだ。

㈱日本製紙バドミントン部の歩み

日本製紙㈱　貴船博己

当バドミントン部は、昭和24年頃、職場の同好者が熱心に会社に申し入れ、部として認めてもらったのが活動の始まりである。

当時は物不足で、シャトルは使用不能になったもの５～６ケを１つにまとめて羽根を植え替え使用した。

幸いコートは天井が低いながら一面専用使用が可能で週３回、全員参加の練習ができ、女性部員も多く活気に満ちていた。

しかし、指導者はなく、中浜・中野・山県・岡崎等の熱意と情熱と若さで、部活動はギラギラしていた。

そんな中で、初代部長半田藤五、監督中浜浅吉を中心に部員拡大と強化を計り、取り組んだ結果、16回国体から21回国体まで、当社より選手を派遣するまでの実績をあげることができた。

この頃の男子部員は、中浜・山下・畠山・王木・川岡・田原(敏)・室井・河野・山本・岩本等で、女子部員は沖・佐伯・王木等であった。

この頃一面コートに15～16人が集まり、初心者はコートに入れず、コート外でランニング、縄跳び等の体力トレーニング等をすることが多く、練習時間も午後10時をすぎることもたびたびであった。

しかし、練習後の四畳半での一杯や、夏のキャンプ秋の登山･ハイキング等々楽しい仲間との交流も多く強いチームワークも醸成されていった。

実業団界では、これまで宇部興産とともに牽引役を担い、全日本実業団大会も20回以上出場、男女アベック出場も３回ある。

個人戦では51年30歳以上Ｄ林・宮岡組が準優勝、54年40歳以上Ｄ川岡・河野組が優勝、平成２年団体戦でベスト16入りを果たした。この結果、日本リーグ２部に参加、いきなり５位入賞、その後２年間参加した。その時のメンバーは高橋(良)監督、高橋(和)主将、村上・室井・柳・木村・中山等20代が中心の心技共にピークの時期の選手達であった。



昭和五十九年全日本実業団大会男女アベック出場（藤沢市）

それ以外の全国大会規模では、53年に林・辻中組が長野国体に出場し、天覧試合をした話題もあり、その外に高橋(良)、森本も国体出場している。

昭和40年～50年代の部員は、田中・金子・山本・林・宮岡・田原(英)・大和田・長藤・末岡・吉田・兼森・市橋・下村・貴船・西村・辻中・寺岡・後藤等で、実業団県予選では、ＡＢ２チーム編成できた。

中国実業団大会では、三井造船（岡山）と宇部興産が強く63年まで川崎製鉄が10連勝していたが、平成元年、当社が悲願の初優勝、翌年も制し、この頃が第３期の黄金時代であった。

なお、女子の部が発足した45年、当時の山陽パルプの橘・渡辺等が中心で優勝したが、これが最初で最後の優勝である。

また、昭和33年に始まった中国社会人大会（現中国地区総合バドミントン選手権大会）でも数々の好成績を残し（別稿参照）存在感をアピールするとともに、若手の刺激剤となっている。

一方競技面以外では、岩国市バドミントン協会発足と同時に川岡が理事長に就任、県協会理事も兼任、以後末岡、中本に引き継がれている。

現在の日本製紙は、平成７年旧十條製紙と合併、全国12工場となり、このスポーツでメジャーな伏木工場を始め、旭川、石巻、八代、江津工場との交流試合も多く、競技色を薄めての活動が主流になってきている。

今後の希望はやはり、かつての活気と情熱が蘇るよう若手の育成を目指したいと念じている。

宇部興産バドミントン部の歩み

宇部興産㈱　河　野　敬　三

昭和31年、松岡　宏や松村哲幸らが中心となり、宇部窒素工場バドミントン同好会が発足した。

練習は新川小学校講堂を借用して週４日シャトルコックの打ち合いに興じていた。全員が入社後競技を開始した者ばかりで、何をするにも手探りの状況で、各地の練習会に参加し、アドバイスを受けては、即実践といったなかから独自の練習方法や技術の習得に努め、競技力の向上を目指していた。

昭和34年、部に昇格、松岡部長・松村監督が就任して本格的な活動を展開することになった。第９回全日本実業団選手権大会へ瀧口善信・山縣保夫・義永　保・浦島匡宏・国弘　宏を派遣、初戦の三菱長崎造船所に完敗、第11回大会は、瀧口・山縣・義永・伊藤淳司・木曽新一郎を派遣、初戦対丸善石油松山に快勝したが、２回戦の対電電東京は完敗であった。

昭和38年永岡得三が部長に就任し、宇部興産体育連盟に正式加盟した。この頃、山縣は、昭和36・37年・39年の国体へ出場、第１期黄金時代のエースとして大車輪の活躍があった。

昭和41年、チーム力アップのため即戦力選手の採用を始め、その第１号として、柳井商工高から河添忠夫・石川好夫の２名と味村恭二、昭和42年末廣秀樹、下ノ村　満・雨包憲二・吉村正則、昭和43年木村富美夫、河野敬三、昭和46年坂本賢二、昭和48年中村俊和、昭和49年藤原　薫・渡辺　宏、昭和50年田坂義則、昭和51年川原哲夫らが入部した。

昭和43年、俵田体育館へ練習会場を移し監督の夢である「中国制覇」に向けた毎週５日（３時間半）の猛練習がスタートした。第24回全日本実業団大会（松阪市）は伊藤監督・末廣・河添・石川・坂本で団体戦初のベスト16強。個人戦は、第19回大会複で末廣・河添組、第21回大会単で坂本がベスト16強。

中国実業団大会は昭和44年から第１回がスタート、第２回大会準優勝、第３回大会は山縣監督・末廣・河添・石川・坂本で初優勝、以後10回大会までに優勝３回・準優勝４回を挙げた。中国社会人大会の複は、昭和44年の末廣・河添組が初優勝以後、昭和46年・昭和48年から51年までの４連続を含み６回優勝、昭和46年河添が単初優勝、昭和49年末廣、昭和50年・55年坂本が優勝、「中国制覇」という金字塔を打ち建てた。国体成年男子は昭和41年から河添・石川・末廣・坂本で国体12年連続出場を達成、正に第２期黄金時代であった。



石川　坂本　川原　藤原　田中　吉村　末廣　渡辺　伊藤
木曽　中村　下ノ村　河添　河野
山縣　雨包　永岡　松岡　松村　松永

主力選手の高齢化が叫ばれる中、部長が松田　博・田中実雄・山切睦彦へと交代、末廣がプレーイングマネージャーとして監督へ就任した。昭和55年屋吹真一、56年吉川直樹、58年峯石俊幸、59年沖　貞雄、61年安田耕司、平成元年大内淳宏、２年犬塚佐智雄、３年秋元直幸・日下部潤、７年長尾圭吾・山本和義、９年中本直良、10年松村真司が入部、新人類世代部員の誕生であった。第34回全日本実業団大会（大阪市）は２度目の16強、第38回大会（金沢市）から第42回大会（広島市）まで５年連続のシード権獲得の偉業を達成した。５年間、数々のドラマが生まれた。金沢大会で安田の全身痙攣、神戸大会で対松下電器大阪戦に於いて複２敗後、単３勝の大逆転勝ち、監督のクジ運やオーダー運の良さ等、粘りに粘ってをモットーに難関をくぐり抜け美酒に浸っていた。

中国実業団大会は昭和55年以降、平成６年の大会まで、準優勝は７回、中国社会人大会単は沖の準優勝、複は沖・安田組準優勝２回、国体は沖６回・安田２回の出場を決めた。この時期が新人類世代による第３期黄金時代であった。

実業団として県バドミントン界の発展に貢献すると共に、次期黄金時代の到来を追求していきたい。

本県初の外部講師を招いての指導者講習会

昭和26年３月



受講生の集合写真

昭和26年３月、第１回山口県バドミントン指導者講習会が開かれた。主催は山口県バドミントン協会・山口県教育委員会・山口市。会場は山口大学教育学部講堂（現山口市役所敷地内）。講師は日本バドミントン協会理事・岡山県バドミントン協会理事長　斉藤實氏。本県初の外部講師を招いての指導者講習会で、当時の高校生を含む殆どのプレイヤーが参加したという。前列左から２人目、２代目理事長　佐久間貫弌氏。

寄稿・個人

ニュースポーツ普及を目指して

山口市バドミントン協会
会　長　藤　井　豊　秋

第二次大戦の戦後の荒廃した時代に、若者はそれまでの軍事思想一辺倒の教育から民主主義の教育へと180度の転換を迫られた。

兵役、学徒動員の若者は、次々と元の職場や学校に帰っていきましたが、世相は厳しく、まず、日々の食べ物に苦労する有様であった。

そんな中でも若者は、今迄の生活を払拭しきれないまでも、体を動かすこと、運動に精を出すことに心がけ、スポーツが徐々に生活に定着していった。

戦後一番先に普及していったのは、野球、蹴球、陸上競技であり、中でも野球、陸上競技の中の駅伝は人気のあるスポーツであったと思う。

次にニュースポーツといわれたバドミントンの話にうつろう。

昭和22年の秋、小郡町大正下に友澤毅一郎が友澤運動具店を開店した。この店長の友澤は立教大学ラグビー部の出身で、度々運動用具の仕入れのため上京し、そこでバドミントンに興味を持った。

当時のニュースポーツ、バドミントンの用具を横浜ＹＭＣＡより仕入れ、これを周囲の人に紹介した。

興味を持ちはじめた同好の士10人程度が集まって小郡クラブが誕生した。昭和23年秋のことであった。

この小郡クラブの練習会場が山口県鴻城中学校であったため、中学校の生徒が習いはじめ、練習試合をしたものであった。創始の時代、鴻城の名がでてくるのはこのためである。

さらにこのニュースポーツを普及させたいと考え、クラブの人が県下各市町村に呼びかけ同好者を募ったところ、玖珂郡、下関市で競技を楽しんでいる人がいると伺い、昭和25年５月第１回バドミントン大会を小郡小学校講堂で実施した。

参加チームは、玖珂郡・河山鉱山、下関市・大洋漁業、地元の小郡クラブ、山口県鴻城中学校の４チームで今から考えると淋しい限りであった。

この時の参加選手の中から異口同音に他の市郡にも呼びかけて、このスポーツの普及発展に努めようと誓い合ったものであった。

この時代、初代県協会理事長友澤毅一郎はその普及に情熱を傾注され、他の市町村に出向いて度々講習会を開いている。その間に随分と身銭を出していたのではないかと思っている。県協会創始の時代の功労者の１人として忘れてはならない人である。

これらの人の努力によって翌年昭和26年５月、山口県バドミントン協会結成記念第１回バドミントン大会を小郡町小郡小学校講堂で開催した。

この時の参加チームは、河山鉱山、山陽パルプ、宇部窒素、日本石油彦島製油所、大洋漁業、小郡クラブ、山口大学、山口高校、鴻城高校の９チームであった。

以後、いつ頃まで続いたかさだかでないが、山口県協会結成記念大会はいつも小郡小講堂で行われるのが慣例になっていった。主催は、山口県バドミントン協会、小郡町、防長新聞社（当時の県紙・現在廃刊）であり、優勝者には当時防長新聞社のメダルが授与されていた。

ちなみに、昭和29年５月に行われた第４回の結成記念大会の表彰状には、山口県バドミントン協会長野村幸裕、小郡町長安永宗直、防長新聞社長佐々木健児の名が記されている。思えば、もう40余年の前の話となった。

当時の関係者ももう殆んど故人となられた。山口県バドミントン界の創始の時代を記憶辿って記してみました。故人達も、今の隆盛をみて、きっと慶んでおられると思っています。

㊟　筆者は鴻城中学校出身、山口県バドミントン第一回大会に出場した人。

ジャンケンからのスタート…48年

山口県バドミントン協会副会長　津守幸介

「ジャンケンをしなさい！勝った人は残り、負けた人は西校舎へ！」昭和25年３月下旬のある日、当時私は山口東高校１年生。担任の先生から言われ、すぐ隣に居た級友とジャンケンをして負けたので、当時山口県立山口西高校（前身県高女）の校舎に行く破目になってしまった。学制改革が頻繁に行われた時代で校名も昭和25年度から山口県立山口高校（前身山中を東校舎、高女を西校舎と呼ぶ）となった。

２年生（男女共学となる）になった４月のある日、級友が面白いものをやっているので見に行こうと誘われて、講堂（天井までの高さ約６ｍ）に。横一っぱい何張かつなぎ合わせて張ったネットを境に向かい合って大勢の男女が入り混じって羽根を打っているではないか。中学時代に先生からバドミントンという競技があると名前だけは聞いて知っていたが、見るのは最初。級友の強い勧誘に入部をした。当時キャップテン（山高初代主将）は上俊明、３年生も女性を含め沢山、２年生も30名近くであった。私のバドミントンは、ジャンケンに負けたから始まったということになる。

昭和26年４月山口県最初のバドミントン大会、男女複単の４種目であった。山高２代目主将玉木康彦（テニス部出身）と卓球を少しかじっていた小生で複に出場した。前年夏休みに１日も欠かさず練習した成果が出、初優勝となった。山高同級生には、隅和照、山崎浩正、小島一夫、井上儀達等、女子主将は中村由美子、豊福久恵、前原旬子、山本裕子等。その年の第６回国民体育大会バドミントン競技の部へ高校男女として山高主体のメンバーが参加、男子に鴻城高校林選手が加わった。広大東雲分校体育館が会場。初の対外試合に出場、天井の高いのに空振りをし、そのせいか益々あがって、ネットが前へ後へ移動する錯覚も体験、何をしたやら不明のまま負けてしまった思い出がある。

昭和27年３月山大教育学部講堂で県下初のバドミントン指導者講習会が開催、講師は当時岡山県斉藤理事長。試合開始をラブオールと誤解していた小生、０対０でラブオールというコールが何回も続いて、説明を受けてやっと納得した事を思い出す。

昭和27年山口大学入学、故原田俊宏先輩から再三の勧誘に、他を断念し、入部したのが今日を決定づけた事になる。

練習に参加するようになって、天井の低い講堂であったが、講義をさぼってはやったもの。当時の県下のライバルは小郡第一病院の末広や郵便局の藤井、大洋漁業の堀田・黒本等であった。しかし、山高時代から、家に帰って軟式テニスのラケットの素振りと石段昇降だけは密かに毎日実践していた事は誰も知らない。

当時の主将は福田修三（初代）梅田部長（４年生）先輩に吉中修、岩田憲道、前述の原田俊宏等、同級生に松田光夫、名越久雄、梶原通坤、熊野六郎等、中国大学選手権大会に初参加、団体戦最下位。だが全て２対３の負け、リーグ戦で小生の単と原田先輩と組んだ複は全勝だった。１年経て皆上達したし、後輩にも人を得、勝てるようになり、３年目には優勝した。その時のメンバーには原田先輩、松田光夫、名越久雄、藤田孝治、山崎基之と小生第３代主将であった。２年生の時、福山市で開催された大会個人戦で単複共に第２シードにランクされ、共に決勝まで進み、岡山大内藤選手に負け共に２位になった。最初の試合は昼からで終了したのが午後８時過ぎ、単と複と連続21ゲームさせられた。今では考えられない事だ。

当時のシャトルは陸鳥ニワトリの羽根、５分も本気で打てば羽根が折れダメになってしまう。折れた羽根を除いて使い古しのいい羽根をさし替え、セメダインで固めて又使っていた。ラケットは全て木製、何十本となく折った覚えがある。

国体初出場は広島、そして仙台、善通寺、神戸、富士、高岡、東京、岡山、下関が最後で９回も出場させてもらった。事務局を41年から52年度まで、理事長は54年度から平成８年度まで、バドミントンに携わって本年で48年、思えばいろんな事があり、沢山の人に出会った。そしてその人達のお陰で今日の私がある。

全国中学校バドミントン大会開催記

元山口県中体連バドミントン部専門委員長　尾　上　　忠



選手宣誓　村田みつえ（串中）

全国大会開催が山口市に決定されたのは大殿中に勤務していた昭和59～60年頃でした。

当時市内は正式の部活が大殿中１校だけで、あとは正課クラブで附属中、早朝練習のみの鴻南中の３校が市協会主催の大会に参加していました。

全国大会なんて岡山県開催になるか、山口県に決まっても、バドミントン部が多く、盛んに活動している下関市になるものとばかりに考えて、のんびりしていた私は驚いてしまいました。

このような状況下で、全国から選手を迎え大会運営が無事にできるのであろうか、選手強化はどうしたらよいのかと本当に不安でした。

県下のバドミントン部の先生方全員に大会運営への協力をお願いし、また全国的なレベルで戦える選手の養成をめざして、取り組んでいただきました。

指導者を招き強化練習に取り組んだり、全国のトップレベルにある熊本、福岡、香川等県外へたびたび遠征をしました。

監督の先生方の献身的な努力もあって、広島で開催された第10回中国大会で男女とも、かってない良い成績を挙げることができました。

男子団体で須々万中が優勝、女子団体で大殿中が準優勝、個人戦男子複で須々万の陸田・森広組が第１位女子単では串中の村田が第１位に輝きました。

緑に囲まれた美しい会場山口県スポーツ文化センターに、全国の精鋭を迎え、第19回全国中学校バドミントン選手権大会が平成元年８月23日開会され、盛会のうちに26日無事終了することができました。

その結果、男子団体の部では須々万中がベスト８、またシングルスでは串中の村田みつえ選手がベスト８に進出しました。この成績は県の中学生としては最高のものでした。

男子団体は地元代表の堀中が、また女子団体では大殿中が勝ちあがることはできませんでしたが、全国のブロック代表選手を相手によく健闘しました。

本大会は弘前一中が６種目中３種目を制覇したことと、女子選手のレベルの高いことは驚異でした。

それにしても全校女子生徒がたった７名の北海道代表、神居古潭中の活躍は本当に素晴らしいものでした。

現在ナショナルチームや日本リーグで活躍している宮村亜希子、水井泰子、ダブルスで優勝した増茂、中山組等のそうそうたるメンバーがいて非常にハイレベルの大会でした。その中で山口県の選手は期待に応え、よく頑張ってくれたと感心しています。

大会運営が整然となされ、審判上のトラブルもなく本当によい大会であったと他県の方からもお褒めの手紙をいただきました。これも選手や監督の先生方の努力はもとより教育関係機関、県・市バドミントン協会、競技役員、その他精神的にも経済的にもいろいろと御支援くださった方々のお陰だと感謝しています。

忙しい思いはしましたが、バドミントンが何よりも好きな全国の方々や県内の皆さんと、楽しく話ができ本当に幸せであったなあと実感しています。



平成元年男子団体戦中国代表　須々万中選手団

中学校で活躍した選手達

元須々万クラブ指導者　佐藤純一

中学生の全国大会出場を目標に、当時私が勤務していた徳山市立沼城小学校６年の沖貞雄、松下高信の二人の教え子と共に練習を開始したのが昭和52年の秋であった。

中学校に進むと、松下（その後、山口高校で活躍）が転校し、代わりに高橋和也と松原康則が加わる。

54年県大会で、沖・高橋組が優勝し、単で出場した松原が推薦され、３人とも念願の全国大会出場を果たす。翌年から、中体連主催の全国大会となり、中国大会優勝者が全国大会出場権を得ることとなる。単で沖、複で高橋・松原組が県大会、更に団体出場をということで新たに、小山浩平を加えて中国大会に望む。惜しくも団体は優勝できず、個人戦単複優勝し、第１回全国熊本大会に出場する。

２期生として、河野強志、広谷勲、田中伸幸、岸村の４人。57年、単は田中が、複は河野・広谷組が県大会・中国大会で優勝し、第３回全国新潟大会に出場する。女子は、初めての県大会出場で、末政真由美、遠藤真紀、藤本朋子、村田浩子、松原久美子の５人で団体戦・個人戦の３冠を得て、中国大会に出場する。

団体出場を祈願に３度目の挑戦で望んだ３期生は、田内正彦、村田英範、岸村智紀、嘉津宏治、津村剛志、二家本誠の期待の粒揃いの選手であったが、中国大会では熱戦の末、団体・複は優勝できず、単で田内が優勝。第４回全国山形大会に出場し、３位入賞を目前に惜敗しベスト８に終わる。女子では、村田浩子が県大会で２年連続優勝。中国大会は山口県初のベスト４入りで単２位の成績。

58年は、山口県大会で、男子は田中貴光が単で優勝、複は田村陽司、田村泰一が活躍。女子は藤井孝子・末政由美子組が優勝し、中国大会に出場する。

59年は、男子は藤井謙治・佐藤圭治組が優勝し、中国大会に出場するが、惜しくも決勝で破れ全国大会出場を逃す。女子は、山東美穂が秋の県体で念願の優勝を果たす。

60年は、男子は遠藤正徳が、女子は藤井美佐子が単で優勝し、中国大会に望むが惜敗。

61年は、山東寿・秋元直幸組が中国大会で優勝し、第７回全国愛知大会に出場を果たす。杉村匡徳が単で活躍。女子は、村田悦子が中国大会３位と健闘する。

その後、男子では永尾忠の県大会優勝。女子では佐藤純子が県大会優勝、中国大会２位の成績で全国盛岡大会に出場する。

平成元年、須々万中学校として中国大会念願の団体（睦田健二、森広浩二、河村和幸、山片啓嗣、藤井宏紀、藤本誠、工藤賢二）優勝を果たし、山口市での第10回全国大会に団体、単で河村和幸、複で睦田健二、森広浩二組が出場する。男子団体で初のベスト８進出を果たし、大殊勲。平成２年、久保田奈美そして平成３年、杉村紀子が単で県大会優勝。

平成６年、田中操が活躍したのを最後に須々万中学校バドミントン部は廃部となり、ここに、須々万バドミントンクラブとしての歴史も閉じる。

この間、県大会優勝経験者は30名、そのうち中国大会優勝者は11名、全国大会出場の感激を味わった者は15名。このようなよい成績を残せたのも、高校生となっても一緒に練習し、後輩の指導に当たった先輩たちの協力があったからである。

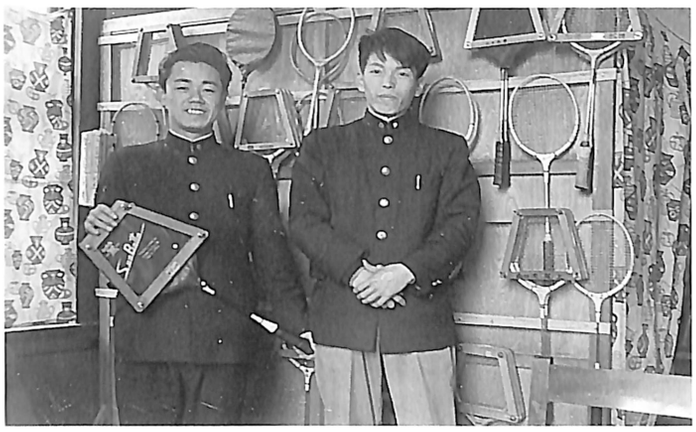
そして、柳井工業高校の全国高校総体３位、山口県バドミントン界に貢献した沖貞雄（徳山市役所）、高橋和也（日本製紙）。そして筑波大学阿部一佳教授に師事し、選手育成のために教鞭をとっている柳井工業教諭松原康則、下関南高校教諭河野強志、徳山市役所職員田内正彦の３名の貢献度は多大なものがあり、村田浩子は貴重な存在であった。



村田浩子の試合を見守る筆者（58年県選手権大会）

バドミントン用具の変遷

元山口県中体連バドミントン部専門委員長　尾上　忠



34年山大部室で中国学生単複覇者梅本晃太郎と筆者　ほとんどスチールシャフト製になっている

●ラケット

昭和32年、大学でバドミントンを始めた時は、シャフト、フレーム共木製（オールウッド）でした。

アッシュ、ヒッコリーを材料として作られ、価格は500～900円、重量は130～155グラムでした。

津守氏や蔵成氏の話によると、それ以前の28年頃は竹製（バンブー）ラケットもかなり使用されていたようです。フレームの接着剤も弱く、ガットを強く張ると、変形したり、折れたりしました。それでもいつも木製のプレスにはさんだまま持ち歩いたものです。

当時広島市在住の、自称全日本学生第２位だったという、中村氏所有のラケット（外国製8000円）は、すでにスチールシャフトになっていました。それに4000円のシープガットが張ってあり、アンダーハンドでラケットを振り降ろすと、楽々クリヤーがバックラインまで飛んでゆくという代物でした。

38年山口国体開催時に、ダンロップとスラレンジャー（英国製１本4000円）の２本を購入しました。

１ヶ月の給料が１万と少しの時代でしたから、かなり高価だったと思います。

特にダンロップは、145グラムも重量がありましたが手に馴染んで、本当に素晴らしいものでした。

その後、シャフトにテーパーをつけたり偏平にしたり、段付きシャフトやスリムステンレス等しなりにいろいろ工夫がなされました。

フレームもアルミやスチールに変わってきました。

カーボンシャフトになったのは20年ぐらい前でしょうか。現在はオールカーボン全盛となり、重量も昔の半分に近くなってしまいました。

●シャトル

昭和37年の岡山国体前までは、国内での大会はすべて陸鳥球が使用されていました。

陸鳥と言ってもにわとりの羽のことですが、腰が弱く当時、世界一スピードが速いといわれた小宮選手にスマッシュを打たれると１発でつぶれました。

陸鳥球はクリヤーが楽に飛んでくれ、体力のない私にとって本当に有り難いものでした。

中学生は現在合成球を使用していますが、平成12年度からは、全国大会が水鳥球となります。

●ウエアー

昔から白単１色が原則ですが、38年の山口国体は茶色のパンツをあつらえて出場、上衣もＴシャツで何のお咎めもありませんでした。現在の公認ユニホームは、随分カラフルで、これも全く理屈にあっていません。

女子中学生は、長い間スコートで大会に参加していましたが、最近はほとんどお目にかかれません。

練習時のブルマも、中途半端なパンツに替わってしまい、かっこ悪いのです。男子生徒は髪が長く一緒に練習をしていると、どれが男やら、どれが女やらさっぱりわからず、どうも面白くありません。

東京オリンピック金メダル『東洋の魔女』の提灯ブルマが懐かしいのは年のせいでしょうか。



中学生練習時主流のユニホーム、現在はもう見られないブルマ姿　　平成８年10月５日撮影

広報紙づくり奮戦記

元山口県バドミントン協会広報委員長　岡崎光弘

昭和23年シベリアから復員して９年間の軍衣を脱いだ時から私の第２の人生がスタートした。

爾来職場のスポーツ特に野球に熱中していた私が植田（当時大洋漁業）に誘われてバドミントンに足をふみ入れたのは10年後のことである。

昭和40年下関市協会の理事長に推され、その後更に県協会の役員にも名を列ねることになった。

初めは表彰委員長として次いで、10年間広報委員長の役務を担当した。市協会理事長その他の役職に追われながら県協会常任理事を受けるのは少々辛い感じはあったが、広報業務は割と自分の性に合った仕事なので何とかスムーズに取り組むことが出来た。

委員長就任当初の構想としては大会記録を集録編集して皆さんに競技結果を知らせることに着意した。

私が以前から不満に思っていたことは県大会の競技成績が殆んど公開されていないことだった。

競技の最終まで残って居ればともかく、初戦もしくは早い段階で終わったプレーヤーは殆んど早く帰ってしまうので大会の全容を知るべくもない。だから大会の結果については新聞記事の範囲しか分らない。

皆さんは県大会の戦績を知りたいだろうし、又役員としては大会の全容は勿論その他の県協会の情報をすべて公開する義務があるのではないかと思ったからだ。

私は役員会で広報紙の必要性を力説し、「バドミントン・ニュース」を発行することとなった。

バドミントンニュース作成の過程を説明すると、先ず送られてきた原稿の清書から始まるが、当初難儀したのが氏名やスコアの不明瞭な字体やトーナメント勝抜きラインの誤記誤脱であった。

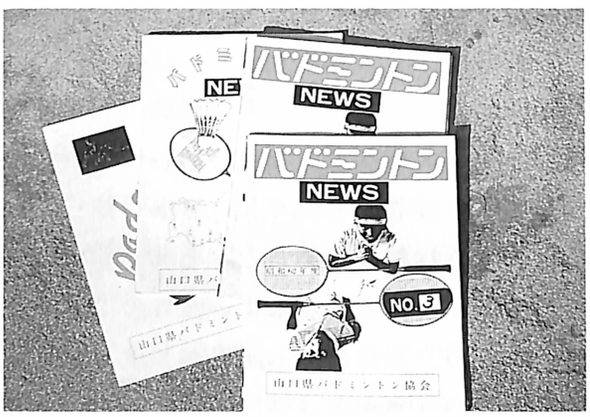
またＢ５版の枠内に納まるように配列にも苦心した。

原稿の清書が済むと一応コピーしてうつりの悪い部分を補修してから印刷にとりかかった。

次に各ページ毎に揃えて整理した後20部ずつ糊付けした。ホッチキスで綴るよりも糊付けで製本する方が本らしいと思ったからである。

その後厚い書籍などでおもしをして一晩おいてから糊付けなど点検補修して完了、そして郵送の運びとなるのである。当時、約200部作成、協会役員、支部協会に配布していた。

私は何年先か分らないけれどゆくゆくは県協会の機関誌として発展させたいという夢と希望を抱きながら県大会の競技記録のほか新聞雑誌参考書からも引用したり地方大会の記録を「地方ニュース」として収録するなど努力したつもりだったが、いろいろ困難な事情もあってなかなか充実を見るに至らなかったのは大変心残りである。そのうちに県協会の合理化の気運が生じて広報部門も淘汰の対象になった。資金面から見れば已むを得ないとは思ったけれどバドニュースに強い愛着を持っていた私は相談があれば経費面について或る程度の節減方策は考えていたつもりだったのに十分な話し合いがなされなかったのは残念である。



発行されていたバドミントンニュース。大会記録・トピックス等が克明に記録として残された。

「バドニュース」に関しては何人かの方々から「編集や製本は大へんですね」「ご苦労様ですね」という言葉を嬉しく受けとめ協賛者も少なからず居ることを心強く思っていた。

しかしアンケートをとったわけではないので明確ではないけれど役員会の雰囲気は静かで無関心が多いように判断したので私は未練を残しながらも退任し平成５年約10年間続いたバドミントンニュースは廃刊となった。

現在私は、地域の体育振興会のお世話をする旁スポーツクラブの中に交じって膝の故障を庇いながら適度に動きつつ週２回健康づくりと友好のために「楽しいバドミントン」に興ずる今日このごろである。

全国教職員大会奮戦記

東亜大学　杉原哲彦

私が全国教職員大会に出場し始めて、平成９年新宮大会で20回出場になった。18回福岡大会からシングルスは19回連続出場し、シングルス優勝６回、２位２回、３位６回、ダブルス優勝１回、２位２回、３位３回の成績を残した。全日本シニア50才シングルスの２連覇を加えると全国大会９回優勝したことになる。

私がバドミントンを続けているのは、バドミントンが好きであること、身体を鍛えること、学生達を強くし結果として東亜大学を有名にすること、その手段として私が全国的に有名選手になることetcである。

30代後半から個人戦に出場し始めたが、まだそのころは全国のトップレベルがどれほどのものか解らないし、又、自分の力がどれほどのレベルか解らなかった。だが、39才の時の大会で石川の和田と対戦し敗れはしたが、かなり手ごたえを感じたので、40代になれば、トップレベルにいけるだろうという予感があった。なぜなら、私自身学生と毎日２～３時間練習しており、まだまだ強くなる可能性があるが、かつての一流選手は落ちるだけだからだ。

41才佐賀の大会で第３シードの三重の南のパッキンに入り、南、秋田の鈴木とやぶり、準決勝で熊本の西田と対戦した。第一ゲームをとり、第二ゲーム７－３でリードしたところで、左足に痙攣をおこし敗れてしまった。まだ体力不足だったのだ。翌年は第４シードとなり、準決勝で神奈川の杉田と対戦した。杉田は、バドミントン界では鉄人と云われ、私より７才年上である。杉田はそれまで、自分より10才年下以上の人には敗けたことのない鉄人だ。第１ゲームラウンドからのクロスカットがほとんどノータッチでとれず、11～３になった。そのころになってようやくカットがとれるようになり、ゲームはとられたが、私は11点まで追い上げた。第２ゲームに入り、とんでもないことが起った。私のバドミントン人生の中で、絶対に許すことのできないことだ。私も時には全国大会の決勝戦であっても手をぬくことはある。しかし、それは私が敗れるためだ。杉田は第２ゲームに入り、私がサーヴを打つとその返球はきびしい球を打ち、それを私が返すと、故意にネットにかけるか、コートの外に出すかし、結局15－０で第２ゲームは終り、第３ゲームに入った。杉田は第一ゲームで疲れたので、第２ゲームの間、休みをとったのであろう。第３ゲームは接戦となり、７～７の時、私の左足が少し痙攣を起し、結局15～８で私は敗れてしまった。この時、私の頭の中では、次に杉田と対戦したならば絶対に勝つと決意した。

翌年の青森大会で勝ち残れば決勝で杉田と対戦するはずだ。ところが、北海道の阿部に準決勝で敗れてしまった。翌年から杉田は50才代になり、杉田との決戦はおあづけとなった。福井大会で初優勝をし49才の時に東京の関に作戦敗をした以外はシングルスではベスト４に入った。

50才の愛知大会は私が７年間待ち望んだ杉田との決戦の大会だった。多分杉田の方も私を意識していただろう。第１ゲーム杉田、第２ゲーム私とフイナルゲームになった。１時間を超す戦いとなった。第３ゲーム11対11、杉田サーヴで、杉田のフォアー奥からクロスカットがきた。コースとしてはアウトで、私はコースを読み、体が完全に入っていた。ところが、ネットにシャトルが触れオンラインとなった。なんとこの時のネットインでこの試合９本目であった。ネットにかかったのは全くなかった。とんでもない選手だと思う。ところが高校生の線審はアウトを宣告した。杉田はいかりくるい、ラケットを床に叩きつけ、ラケットが折れているのも気がついていない。この段階で私は勝利を確信した。

私は３連続ポイントをセンターロングサーヴを打ち、返球をしゃがんでレシーヴし、又14ポイントをとり、２回目のマッチポイントで、15対11で決戦を制した。これまでの私のバドミントン人生の中で、勝つことを意識し集中した試合は二試合しかない。この杉田戦と、51才の全日本シニア決勝対高橋戦で、他の試合は、集中せずとも勝てた試合だった。私としては、勝ちを意識した時には勝てるように、毎日学生との練習はこの先何年も続けるだろう。

私　の　国　体

山口県バドミントン協会副理事長　松　村　和　美

山口県バドミントン協会創立50周年まことにおめでとうございます。『昭和38年山口国体』この大事業を前に、すでに山口県防府市に本籍を置いていた私は、香川県から引っ張り出されてきたのです。私のような者で、どうにもなる訳ではなかったのですが、当時の山口県バドミントン女子競技のレベルは、全国的に言えばあまりにひどかったように思います。私のパートナーの江原敏子さんも門司の方でしたが、二人して山口県のために頑張ろうと、一生懸命男性の方と練習したものです。

お陰で、四国の穐山先生、岡山の毛利先生、九州の伊藤先生という、西日本の偉大な三先生にご指導頂く機会があったのは私の最大の幸せでした。

前年度の国体開催地であった岡山の合宿にも参加しました。その頃、あの湯木博江（現、新沼）さんは中学生でしたが、合同練習に参加していました。今にしてみれば、あの頃から岡山県では協会が実業団、高校中学と、合同練習の機会を作っていたのです。私の育った香川県でも、そのような機会がありました。合同練習で、レベルの低い中学、高校の選手は、体育館の外で先輩のプレーを窓越しに見ながら、縄跳び（二重跳び）ばかりさせられていたように思います。中学生の頃は合間に短時間コートに入った時等、ただ先輩と新しいシャトルで打てる喜びで満足していました。（何故だかその時は、新しいシャトルだったのです）近頃はこんなハングリーな練習はないでしょうね。

ただ、江原さんと私は、山口県に来た時から大変恵まれておりました。ダブルスでは、強豪岡山と五分五分の力でした。全国で10チーム出場の国体では、ベスト4を狙って岡山との対戦にかけた県協会でしたが力及ばずダブルスを落として、1対2で負けてしまいました。協会の落胆は計り知れませんが、私たちはあの時点では、落胆よりも恥ずかしい気持ちで一杯でした。2年後、岐阜国体で北海道に勝った時は、山口県の選手として何か残したと本当に嬉しかったです。

県内唯一の女子実業団として昭和40年『第14回全日本実業団バドミントン選手権大会』に江原敏子さんと二人で、下関市の山陽電気軌道株式会社から個人戦に出場しました。四国ではめずらしい大雪の松山市での大会でした。高校時代の先輩に交じってシングルス4位を手中にしたあの頃が私の一番輝いていた時代だったように思います。

（その時の先輩、東条フミ子さんと思いがけず32年振りの平成9年に全日本シニアでペアーを組んで頂き50代ダブルスで優勝することができました。家族やバドミントン仲間に祝福され、全国大会で優勝に恵まれなかった私は今までバドミントンを続けてきて良かったとつくづく思いました。）

その後の女子の活躍は、当時の国体ブロック予選でもあった中国地区総合選手権大会結果で見る限りでは9年後の上野富江さん（旧、丸山）16年後の松尾真澄さん（旧、浜田）の時代に移ります。上野さんは、平成3年石川県で家庭婦人の国体である全国大会団体都道府県対抗戦に復帰して嶋田、松村美、俵山、香井、八谷、松村和と共に、全国3位を手中にしました。松尾さんは現在でも、県内実力ナンバー1で活躍しておられます。

現在私は主に家庭婦人のお世話をさせて頂いております。三井副理事長と二人三脚、たりない脚は、家庭婦人の数えきれない頼もしい方々に支えられながら、平成10年山口県家庭婦人バドミントン連盟は結成10周年を迎えます。私の知る山口県協会の34年間にしては、あまりに空白が多過ぎますが、その間ずっとご苦労された県協会役員の皆様方のご尽力は多大なものだと思います。ご退陣された役員の方々もいらっしゃいますが、今後も、相変わらず私たちを見守ってほしいと思います。最後に山口県バドミントン協会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

社会体育バドミントン奮戦記

下松市バドミントン協会
名誉会長　椎　山　昭　二



第10回湯木杯
左から筆者、新沼、湯木、毛利

下松市にバドミントンが普及し始めたのは、昭和36年に下松市民体育館が市内西柳の一角に50m公認プールと共に誕生したのを契機に、市内の日石、日立、鋼鈑、笠戸ドックの社員連中が都会から習って帰ったものとして、段々と活気づいていったものと記憶している。

その当時、私は“子供会”のリーダーとして町内や小学校区及び市子連の世話をしていたが、このバドミントンが面白く、子供も大人も上手下手はぬきにして誰でも取り組める“軽スポーツ”？位に考えて飛びついたものである。以来「親子バドミントン教室」開いたり、市内小学校区対抗の「親子バドミントン大会」を開催してきたが、最初の内には子供達は“羽根つき”ぐらいの感覚であったものが1年過ち2年過つうちには“スマッシュ”攻撃に出る事も覚え、段々とやるほどに面白くなってきたようだ。

その内に、市子連主催の親子バドミントン大会は、親子の協力一致（心身共に）で教育上も大変有意義だということで、市教委や新聞社も後援して戴けるようになり、名実共に大変活気づいたものである。

然し、5年過ち10年過つ内に、この競技が実力の差により勝敗が目に見えてきだした事もあって、段々と大会はシリスボミになったようであるが、そのかわりといっては何だが、好きな者は大人同士で会社、工場職場同士で切磋琢磨し合い、ベテラン目指して頑張って居るし、子供も理解ある大人の指導を受けて教室やクラブを結成、バドミントンそのものは爾来大いに燃えあがり「バドミントン下松」の名声は、今日、県下においても不動なものになっているようである。

この間、私が下松市協会の会長を引き受けさせられたのは、たしか昭和42年頃であったと思うが、「親子バドミントン大会」の審判や世話を協会がするのだから貴方も協会の世話をして貰えないかーという依頼があり、あっさり会長なるものを引き受けたような気がする。

爾来、小学校のＰＴＡや子ども会や、居住する町内会の中にもバドミントンを引張り込んで「健康体力づくり」と親睦の一環として位置づけ、学校では学年・学級対抗（大人、親子）戦を行ったり、町内でも班対抗戦を展開し、大いに汗を流したものである。

平成4年4月に下松市バドミントン協会長を退任するまでの約25年間、一番の想い出は何といっても“湯木杯争奪大会”を昭和54年4月第1回大会を創設しバドミントン競技力向上に寄与したことであろうし、平成10年4月には、記念すべき20回大会となる。この湯木杯を創設し継承するに当っては、武内惠弍を中心として、川崎ラケットKKのご支援により市内の“ひさゆくスポーツ”の物心両面に亘るご協力と、湯木博恵選手（現・新沼謙治氏妻）の再々に亘る来大会の指導協力・新沼選手と夫婦同伴による大会参加、川崎ラケットKKの堺栄一選手や山陽女子高校（湯木選手の出身高校）の毛利先生や現役選手の参加等々、大いに下松バドミントン競技力の向上と普及に役立っていると思う。

その他「丸和杯」や「レッドソン杯」及び「下松市長杯」「会長杯」「県中学生大会」「小学生大会」「シニア大会」等々次々に誕生したことであろう。

然し、これ等は私の会長時代に発足したものであるが、何にしても武内惠弍を中心に利行好男、大段宏、水摩勝美、久次優、岡田一郎、安田悦子、香井晴江、日野眞知子、その他協会加盟の各団体役員の日夜を分たぬ絶大なるご協力とご支援が、自分達のものとして真剣にあったからであることは間違いないことである。

第１回中国選手権大会
ラインづくりは水を浸したチョーク

山口県バドミントン協会
常務理事　藏　成　秋　次

昭和33年９月５・６・７日、安来市第１中学校で第１回中国バドミントン選手権大会が開かれた。平成８年徳山市で開かれた中国地区総合バドミントン選手権大会の始まりの大会である。

国体ブロック予選は以前から行われていたが、中国地区の選手権をとの願いから始められたものらしい。

山口県から田中萬亀太監督率いる一般男子松永正敏・山本準（山高ＯＢ）桜井昭生・藏成秋次・梅本晃太郎（山大）、一般女子佐藤淳子・安田ミサ子・井上良枝（山大）、杉山佳寿子・河野元子・佐伯富子（山口女子短大）、高校女子姫野和子・藤田綾子・渡部綾子（徳山高）14人が参加している。

５日午後５時から安来公会堂で開会式、郷土芸能披露として本場の安来節とどじょうすくいをたっぷりと鑑賞した。

明けて６日団体戦、男子は２複３単、女子は１複２単の対抗戦。まず、一般男子は岡山・島根に敗れ３位一般女子は岡山・鳥取に敗れ３位、高校女子は岡山・鳥取に敗れ３位の成績。当時岡山の強さは圧倒的、一般男子には毛利清志、前田俊一、石原利通らがおり、一般女子には山陽女高ＯＢ、岡大勢が強かった。さらに島根県にはインターハイを制した松江商のＯＢ池田文造、村松政幸らがいた時代であった。

次いで個人戦、一般男子単は前田、石原が１位・２位、３位に山本（山口）、池田（島根）、一般女子は大橋艶子、草野千栄（岡大）が１・２位をとっている。

複では、毛利・前田（岡大）が優勝、２位に梅本・藏成（山口）が入っている。

高校勢は圧倒的に岡山が強く、山口県勢で入賞した人はいない。



第一回中国選手権大会
山口県選手団

選手一覧表をみると選手の中でその後協会の役員を務めた人も多い。阿部淳美（広島）、毛利清志（岡山）佐々木義政（鳥取）らの名前もなつかしい。

もうあれから40年、今の中国地区総合選手権大会は、高校がはずれ、一般男女に加え30歳、40歳、50歳代の男子種目が加わり、さらに混合を加えた大きな大会となっている。

今一つ書き添えておかなくてはならないことは、昭和28年８月１日から３日間山口市立大殿小学校講堂で開かれた中国・四国バドミントン選手権大会のことである。おそらく、創立間もない山口県バドミントン協会が初めて引き受けた県外から選手を迎えての大会であった。種目は一般男女、高校男女、バドミントンの普及の程度、遠征費用（当時の所得レベルからすれば遠征費の捻出は苦労の種であった）の関係からフルエントリーではなかった。特に四国からの参加は香川、愛媛のみであったと記憶する。

山口県選手団は、一般男子福田修造、原田俊宏、津守幸介、松田光夫（以上山大）玉木康彦（山高ＯＢ）一般女子は今井美代子（日石）に山高ＯＢ、高校男子は大内義明、久富義介、林学而ら山高勢、高校女子は山高と下関南勢であったと記憶する。

試合結果は山口県勢は芳しくなく、岡山県勢が圧倒的に強く、また女子は香川県勢がよい成績を残した。

その会場となったのは、体育館ではなく、小学校の講堂である。広さ888㎡、天井の高さ約５ｍの今では考えられない粗末なものである。

ネットは支柱の上から股状にロープを張り床上にヒートンをねじ込んでつくっていた。圧巻はコートである。現在のようなテープは勿論ない。無論本格的なペンキのコートは県内でもなかった時代である。

主力はチョークである。チョークを水に浸してコートを引き、これが乾くと、チョークの白色が浮かび上がって線が見えるという計算である。

テカテカにすり切れ、磨きがかかったような講堂の床のラインづくりは苦労が多かった。

全国高校バドミントン選手権大会開催記

元山口県高体連バドミントン部専門委員長　安藤輝夫



同大会での選手宣誓

昭和61年度、全国高等学校総合体育大会が山口県を中心に中国地区で実施され、高松宮、高松宮妃賜杯第37回全国高等学校バドミントン選手権大会が下関市で開催されました。

・期日　昭和61年８月１日（金）～６日（水）

・主催　全国高等学校体育連盟・（財）日本バドミントン協会・山口県・山口県教育委員会・下関市・下関市教育委員会

・後援　文部省・（財）日本体育協会・ＮＨＫ・（財）山口県体育協会・下関市体育協会

・主管　全国高等学校体育連盟バドミントン部・山口県高等学校体育連盟・山口県バドミントン協会

・会場　主会場・下関市体育館、下関商業高等学校体育館、山口県立下関中央工業高等学校体育館、山口県立下関南高等学校体育館、梅光女学院大学短期大学部体育館

バドミントン競技に関する主な大会役員としては、

◉大会委員長　遠井稔男（全国高体連バド専門部長）

◉大会副委員長　大喜古吉弘・森田精一（全国高体連バド専門分部長）・山内正孝・安藤輝夫・近藤満・津守幸介（山口県バド協会理事長）・岡村義昭（山口県高体連理事長）・小松英三（山口県高体連バド専門部長）・大野倍弘（下関市バド協会理事長）

◉大会委員　平沢寛（62年度開催地高体連バド専門委員長）・競技役員長　遠井稔男・委員長　安倍淳美・会場主任　福永孝章（長府高バド顧問）・関谷典彦（下関商バド顧問）・福川典雄（下関中央工高バド顧問）・岡村昭生（早鞆高バド顧問）・日熊実（下関南高バド顧問）その他、進行、記録、放送、選手他４係約60名。

◉大会運営役員　総務委員長　安藤輝夫（山口県高体連バド専門委員長）・植田博宣、岸野保則（以上山口県バド協会理事）他役員主任、総務、記録本部、他８係（下関地区高等学校教職員・県バド協会・市バド協会役員）30名

◉審判役員・審判長　津守幸介・副審判長　山内正孝・田中章喜・瀬島靖彦・三宅勝・渡辺恒輔・蔵成秋次・尾上忠（以上全国・中国高体連・山口県バド協会・下関市バド協会競技役員、他審判主任、審判員）約110名

◉式典表彰役員・式典総括　大野倍弘・総務・進行・放送・表彰・音楽中村芳喜（下商ブラバン顧問）他８係約30名。

◁補助員▷　進行、記録、放送、シャトル、選手、連絡、報道、線審、得点、音楽（下商ブラバン部）、他７係約580名、以上大会関係者総延人数1,200名で、下関市の開催種目がバドミントン・弓道・ウエイトリフティングの３種目あり、これらに関係しての役員、補助員は下関地区周辺の高校教職員、生徒が「一人一役」をテーマに総動員された。

昭和59年準備委員会が設置され、秋田県大会（大曲市）の視察から始まり、前年度の石川県大会（金沢市）では期間中役員として参加し、運営・実施要領等つぶさに視察、資料の収集をした。昭和61年下関市引受けは、北海道を初め沖縄県まで48都道府県、選手男子411名、女子381名他監督マネージャーを合せ総勢約1,000名を迎えて冷房完備の下関市民会館大ホールで８月１日15時より開会式が挙行されました。特に山口県大会では８月５日男子シングルスをＮＨＫテレビの放映があり高校バドミントン大会では初めてだと思います。

以上大会規模の記録にとどまりましたが、全国大会の開催がいかに大変か、膨大な人達の協力で成り立っているか実感しました。

日本リーグ徳山大会開催記

徳山市バドミントン協会
副会長　田村弘実



日本リーグ徳山大会プロ表紙

昭和55年徳山市は市政45周年に当たり、その記念行事として、県協会植田博宣副会長より日本リーグ開催の話が持ち込まれた。

徳山市協会の関係者にはこのような大会を経験した者がおらず、協会として引き受けに自信がなかった。

県協会として全面支援、更に市職員隅哲也が専任で応援してくれることになった。

市協会として日本リーグ山口県初開催の栄誉を与えてくれた県協会・徳山市の期待に応えるため、引き受けを決定し、6月日本協会に立候補、9月徳山大会が正式に決定された。

組み合わせは、男子ヨネックスーカワサキラケット女子カワサキラケットー全日本学生選抜と決まった。

10月の東京での実行委員会開催（植田・隅・東出席）や県協会・徳山市との打合会で具体化され各役員の任命、関係先への協力依頼、入場券及びプログラムの作成等々担当者の動きも活発になった。

11月に入ると各役員にブレザーやトレーナーを新調、入場券を県下全般に配布したりと開催に向けて忙しさが増した。

万全を期するため東京大会の運営方法を東・小生が見学し最後の詰めをした。

審判員は徳山市協会では賄いきれず、岩国市の川岡智・光市の三牧実夫等にもお願いした。

その間にも入場券は、各位の協力で順調に売りさばくことができた。

12月6日試合前日コート設営・線審講習会・最終打ち合せを行い、7日の試合当日を迎えた。

晴天のすがすがしい朝を迎えて、関係者一同張り切って所定の位置に着いた。13時の開会式に向けて観覧者はどんどん集まり超満員になった。

2面のラバーコートを使用して

男　子　　ヨネックス対カワサキラケット

女　子　　カワサキラケット対全日本学生選抜

の2ダブルス1シングルスが行われた。

さすが日本の一流プレーヤー達である、蝶が舞うように華麗に動き回り1700人観衆を魅了した。

人々は自分もいつかあのレベルにと、それぞれの思いを抱いて家路についた。

また、この大会が県内各地のレベルアップの一助にもなったものと確信している。

試合結果は女子カワサキの3勝0敗・男子ヨネックスの3勝0敗と両チームの圧勝に終わった。

大会の運営について日本リーグ総務担当野村嘉明より盛会であったとの評価をいただき、関係者一同苦労が報われた気持ちがした。

この大会を成功裏に終了できたことは県；植田・市；隅の意気込みと市協会東悦穂理事長を中心にした役員諸氏のチームワークの賜である。

また徳山市協会にとって大きな収穫であったことは、大会成功が協会の自信と基盤強化になった事である。

競　技　役　員

オフィシャル　野村嘉明　中山邦夫
総務委員長　田村弘美
副委員長　岸野保則　渡辺　忠　東　悦穂　今村康穂
委員　大森啓令　金子忠義　北山　勝　石丸　栄　村田和夫
安沢　正　中倉利男　中村武史　隅　哲也　新原千寿子
競技委員長　津守幸介
副委員長　松村哲幸　末広秀樹　生田喜夫　沢田恭治
委員　石松幸也　吉谷　武　中村昌治　住田宗士　佐藤純一
審判長　渡辺恒輔
副審判長　大野倍弘　河野耕司　三浦捷治　蔵成秋次
審判員　三牧実夫　川岡　智　笹部浩一　内山正也　相本　忠
佐田国正和　笹部ヒロ子　藤川ヤス子　三奈本正紀　伊藤武正
砂川　穆　玖村富人
補助員　徳山高等学校バドミントン部

高校選手育成記

柳井工業高校バドミントン部顧問　三浦捷治

昭和39年に柳井商工高校に勤務することになり、バドミントン部を受け持つことになった。昭和47年に商業科と工業科は分離独立し、バドミントン部は、工業高校に引き継がれた。しかし、体育館も無い状態で、校舎の空地や、小学校の講堂を、日曜日に借用し、練習する日が続いた。昭和49年に体育館が完成し、正式な部として部員も募集でき、再スタートした。体育館は3つのクラブで使用するため、週2回は、外での練習となり、ランニング中心の練習をした。長距離走・砂浜でのトレーニング、山登り、トラックでのインターバル走等、雨天の時は、実習棟の廊下を使ってサーキットトレーニングを行った。これが、選手育成の重要なポイントとなった。体育館での練習は、基本ストローク練習、組み合せ練習、ノック練習等に重点を置き、試合練習は少なくした。また脚を使って速く動くことの大切さを理解させ、反復練習を続けた。ゲーム練習は、主に、電車で40分くらい離れた所にある実業団チームの「日本製紙」へ出向き、ゲームの相手をしてもらい、更に指導を受けた。ただし、事前に各生徒にそれぞれ、課題や目標を持たせ、勝敗も大切であるが、内容に重点を置いて取り組ませた。そのゲーム内容を観察し、学校では、弱点をカバーする練習を中心に反復練習した。これらは、年間を通してお願いした結果、生徒の技術の向上はもとより、精神面も向上し、チームレベルは、次第に良くなってきた。成果としては、24年間の内、県総体15回優勝、中国大会10回優勝、全国大会でも数々の入賞を残せた。

ここで、私の指導方針のあらましを述べると、次のようになる。

①指導者が先頭に立ち、夢を持って取り組む。チームの主役は生徒であるから、生徒の気持ちを大切にしながら、アドバイスし、実現可能な目標を持たせ、練習に取り組ませる。　②試合で結果が出なかった時は、生徒に当らず、監督自らが反省し、弱点をカバーする練習内容を考え、生徒に理解させ取り組ませる。　③バドミントンは、シャトルを打つことも大切であるが、シャトルの飛んでくるコースへ、いかに速く動くか、ということを中心に指導する。そのためには、フット・ワークのスピードを付ける脚力の強化が大切になる。

④毎月の指導にあたっては、技術面は言うまでもなく、精神面に特に力を置いた。試合当日は、技術面より、精神面が大きく、ゲームの流れを左右するからである。ゲームの流れを分析する能力を、日頃から身に付けさすことが大切な一つになる。　⑤チーム編成については、出来るだけ、1～3年生の編成する。理由は、新チームに切り替えた時、チームレベルは下がらず、多く試合経験を積むことにより、いろんな面でプラスになる事が多くある。　⑥どんな試合も勝つことを中心にしながら、礼儀を身に付けさす。本校の生徒は、ほとんどが卒業すると、職場に付くので、あたりまえであるが、挨拶の出来る、忍耐力のある、協調性がある、感謝の心を持つ生徒を育てる。　⑦レギュラーになれなくても、他の人より何か優れた面を生かし、頑張ることの大切さを理解させる。　⑧生徒を褒めることを忘れないこと。褒めることにより、生徒に『やる気』を出させる。特に大会当日は、褒めることが、大変重要になる。褒めた後で、アドバイスすれば、生徒も納得しやすい。

以上、誌面の都合で要点を述べましたが、今考えると、外でトレーニングをして来たことが、柳井工高バドミントン部の育成の重要ポイントになったと思う。

終りにあたり、これまで数々の大会で、すばらしい成果をあげることが出来た要因には、いろいろあるがひとえに、力を持った良い選手に恵まれたことである。また、これらの選手を育てて送って下さった指導者、練習相手をしていただいた日本製紙の部員の皆さん、ＯＢを中心に後援会を組織して、応援して下さった皆さん、地域のバドミントン愛好者、また保護者のご協力やクラブ顧問のご協力等々、があってこそ約30数年間、続けることが出来たと思っています。

ここに多くの方々に深く感謝を申し上げます。

シニアプレヤーの野望に向って

宇部興産㈱　末広秀樹

私は、昭和37年山口高等学校へ入学、羽根つき程度の知識しかないまま入部した。即練習へ参加、亀山までのランニングに始まり、帰れば素振り・腹筋・ウサギ跳びなどの基礎練習に終始、自分自身の認識不足を思い知らされ3日で挫折した。しかし、翌年2月頃、友達が入部したことを聞き、それじゃといった軽い気持ちから再度入部、私のバドミントン人生がスタートした。今度は、いきなり打たせてもらえるようになり遅れを戻すべく夜遅くまで練習の虫と化し、担任からよく叱られたが何としても強くなりたいという一心から無我夢中で練習に取組み、昭和38年の新人戦に於いて単複2位という成績を挙げるまでになった。

3年生になると、キャプテンに抜擢され県ナンバーワンとして団体・個人戦に活躍したが、中国高校大会やインターハイ（京都）では大きな実力の差を感じさせられた。

昭和40年、近畿大学入学。当時のバドミントン部は関西学生リーグ2部の下位に低迷中であった。

佐藤監督・吉岡先輩らが関西制覇という大きな目標を掲げられ、1部リーグへの昇格を第一ターゲットに初年度の新戦力として、堰本・柴山・野村・私の4名が入部した。私にとってバドミントン人生で最も大きな転換期を向かえた時期でもあった。

入学前、香川県善通寺市に於いて開催された近大・付属高・布施女子高による合同春合宿へ参加、朝7時のランニング（60分）に始まり、9時からフットワーク（90分）・2対1フリー（150分）の順に、食事も交互にとりコートを空けることなく延々と夜11時まで続いた。途中、足上げ腹筋100分・ウサギ跳び／アヒル1.5KM等のトレーニングも採り入れられたハードな内容の合宿が10日間行われ、何とか脱落することなく「なせば成る」の心境であった。

この時の女子高生達こそ入学後、毎日、全く気の抜けない厳しい練習の相手をさせられた、インターハイで優勝した布施女子高の皆さんでした。

1回生の関西学生リーグは春・秋共、監督の檄もむなしく2部2位、関西学生新人戦単8強、関西学生選手権は単複共初戦敗退という屈辱から丸坊主に変身。

昭和41年3月、下関市体育館に於いて春合宿を開催、真壁・竹原・森の有望新人が加わり、1部昇格への体制が整った。2回生の春季リーグ戦は2部全勝優勝に輝き、大経大との入替戦に勝ち祈願の1部昇格を達成、秋季リーグ戦は1部の4位、西日本学生は単で16強入、インカレ団体・個人共初戦で敗退した。

この後、昭和44年春季関西学生リーグで近大は初優勝を飾り以後37季連続優勝（188連勝）の大記録を打ち建てた。何がなんでも勝つバドミントンや関西制覇の基礎固めに貢献できたこと等、貴重な体験をさせて頂き、大きく飛躍することができた。

昭和42年7月、大学を心半ばにし中退して就職浪人中の頃、山口大学の野見山さんと宇部興産の松村監督の家が近所であった縁から出向き、幸運にも宇部窒素工場に途中入社でき、バドミントン三昧の社会人生活が始まった。国体予選が最初の試合となり単で優勝、埼玉国体出場、対和歌山県戦2－1で初勝利を挙げ、以後国体11年連続出場を達成した。

県内では無敵を誇っていましたが、中国地方では岡山県の強さが突出した状況にあり、打倒岡山による中国地区制覇の目標を掲げ、日々の練習に打ち込み、入社3年目頃から、少しずつではあるが手応えを感じられるようになり、昭和44年の中国社会人大会、複で末廣・河添組で初優勝、以後4連勝含み5回優勝、単は優勝1回、中国選手権大会（団体戦）昭和46年から4年連続を含み5回優勝、中国実業団大会（団体戦）は優勝4回・準優勝6回の栄光に輝いた。

やはり、バドミントンが大好きで、高い目標を持ちそれに向かって努力邁進することの大切さを痛感し充実感に溢れる幸運な現役時代だった。

今後は、これまでの経験や人脈を活かしながら、協会役員として協会発展に尽力しながら、シニアプレヤーとしてあくなき野望に向かい、生涯スポーツとしてのバドミントンを追求していきたい。

山口県の国体歴代の選手達

宇部興産㈱　末広秀樹

国民体育大会バドミントン競技は昭和24年の第４回東京大会でオープン種目（個人戦）として参戦、第５回愛知国体から正式種目に採用された。

当時の国体は一般男子・一般女子・高校男子の３種目があり、山口県の初参加は第６回広島国体で全種目が初出場を飾った。この中には、山口大学を経て県教員となり一般・教員男子のエースとして活躍された高校男子の津守幸介（山口高）の雄姿もみられた。

第７回大会から高校女子、第14回大会から教員男子が加わり５種目になった。

本国体の出場権は一般男子のみ正式種目になった昭和25年から全県出場、一般男子以外は昭和33年に第１回国体中国予選が始まり各種目の優勝県へ本大会の出場権が与えられていた。

昭和37年の第17回岡山国体で全種目参加を達成、昭和38年の第18回山口国体に於いて、教員男子（大谷稔明監督・津守幸介・尾上　忠・渡辺恒輔）は１回戦対香川県戦２－１勝利、初のベスト８入賞、準々決勝対石川県戦は０－２で敗退した。

山口国体前後の一般女子強化選手は江原敏子・松村和美・玉木靖子であり、中国社会人大会や国体予選に於いて山口県として初の中国制覇を達成した。

この間、山口国体では第一シードのパッキンという不運から初戦突破できず、昭和40年岐阜国体、一般女子（大野倍弘監督・江原・松村・小林君枝）が１回戦対北海道戦２－１勝利、初のベスト８入賞、準々決勝対香川県戦は１－２で惜敗した。

この年以降、一般女子が昭和43年の後藤妙子・岡村智津子・渡辺美枝子、昭和45年の後藤・岡村・永田美登里、昭和49年の西村和美・丸山富江・永田、昭和50年の丸山・永田・広田久美子らが中国予選優勝、一般男子は昭和46年から末廣秀樹・河添忠夫・坂本賢二で４連覇、昭和51年優勝、高校男子が昭和45年の坂本・刈谷昭三・富田正四郎、昭和46年の沖堀保雄・城　保彦・竹中信行、昭和52年の喜良文明・久保田義弘・川原義信らが名将三浦捷治監督のもと中国予選優勝、中国地区ナンバーワンの地位に君臨すると共に全国区で活躍していた時期でもあった。

第35回大会からは成年男子・成年女子・少年男子・少年女子となり、現在の４種目に集約された。

更に、昭和55年から全県出場が成年女子・少年男子・少年女子・成年男子の順となり、残りの各種目は国体中国地区大会の１位・２位チームが中国ブロック代表として本大会へ出場できる方式に変更された。

昭和57年島根国体、成年女子（善本公志監督・山口里枝・浜田真澄・井上雅美）が１回戦対岩手県戦２－０勝利、２回目のベスト８入賞、準々決勝対大阪府戦は０－２で敗退、少年男子（三浦監督・沖　貞雄・高橋和也・田原暢也）が１回戦対香川県戦２－０勝利、初のベスト８入賞、準々決勝対石川県戦は０－２で敗退したが初出場以来の２種目入賞という快挙を達成した。この頃、少年男子・女子は地区大会で好成績を挙げていた、平成４年の第47回山形国体で山口国体以来の全種目出場を達成、平成５年成年男子が沖・安田耕司・河野強志で中国ブロック大会となって初優勝に輝いた。

これまでの最多出場選手は宇部興産㈱の河添忠夫の12回を最高に末廣秀樹11回、坂本賢二10回が続き、日本バドミントン協会による国体10回出場表彰を受賞、これに津守幸介の９回、沖　貞雄の８回が続き、監督・選手としては末廣が通算18回の最多出場を誇っている。

初出場以来、47年間にわたり幾多の変遷を経て、数々のドラマやエピソードを生みながら、平成９年第52回大阪国体の今日まで国体バドミントン競技は受け継がれ、数多くの監督選手を送り出してきました。

今後、全種目の入賞ができるよう、更にいつの日か全国制覇を夢みながら、県全体のレベルアップに努め、諸先輩を超える国体名監督・名選手が数多く輩出されることを期待したい。

全日本教職員バドミントン選手権大会開催記

山口県バドミントン協会理事長　三　井　　裕

第16回大会を下関市で引き受けることが決まり、何も様子がわからないために、三井、松本、福永、三奈木の４名が第15回東京大会に出場した。前日の代表者会議には、ジャンケンで負けた福永がしぶしぶ出席、残りの３名は、マージャンをしつつ報告を待った。

このような状態であるから、試合結果は述べるまでもないが、大会の雰囲気は味わえたように思う。

さて、第16回を迎えた大会は、今から20年余り前の昭和52年８月８日（月）～12日（金）の５日間に、下関市体育館を主会場とし、下関南高校、下関商業高校、下関中央工業高校の４会場で開催された。

種目は、一般男子団体戦（27チーム）、一般女子団体戦（11チーム）、成壮年男子団体戦（18チーム）、一般男子単（114名）・複（55組）、一般女子単（45名）・複（23組）、30才以上男子単（54名）・複（31組）、40才以上男子単（35名）・複（20組）、50才以上男子単（７名）・複（４組）、30才以上女子単（４名）・複（２組）、混合複（19組）が実施された。

昭和38年に下関市で開催された第18回国民体育大会以来の久々の全国大会ということで、地元下関市バドミントン協会役員や下関市在住の教職員の40名で実行委員会を組織し、円滑な大会運営のために何回も会議を重ね、大会運営にかかる約370万円の予算案や広告掲載申し込みについて意見を交わし、分担を決めて積極的に活動した。

大会１ヵ月前に行われた東京での組合せ会議には津守理事長と出席し、全国教職員連盟の役員さん達と共にホテルにかんづめで、眠い目をこすりながら夜を徹して組合せを作り、翌日日本バドミントン協会の承認を受けた。

大会開催まで、事務局として当時同じ小学校に勤務していた三奈木正紀と苦労しながらの企画運営であったが、私自身７月中旬の県国体予選中の右眼負傷により事務局として十分な役割を果たせなかったことと選手宣誓のみで試合に出場できなかったことが心残りである。

大会第１日目の団体戦の最中であったと思うが、雷雨による雨漏りで突然停電し、すぐに復旧する見込みがないために中断せざるを得なくなり、試合の一部を下関商業高に移すというハプニングがあった。その後は、大会役員さん達の熱心なご協力により、順調に運営された。成壮年団体において、山口県Ａチームは初めてベスト８に入る快挙をなし遂げた。

大会プログラムの表紙や表彰状は、円の中に水色で下関名産ふぐ、満珠干珠の島々、火の山のロープウェイ、赤間神宮、関門橋をデザインしたものであった。優勝トロフィーはブロンズ像、記念品は下関名産のふぐを形どった焼き物の貯金箱とした。

大会終了後に反省会を兼ねて実行委員会を開催したが、なんと13回目の会議であった。

以後、この大会を契機に県内教職員は、ほぼ毎年全日本教職員大会に積極的に出場し、特に東亜大学杉原哲彦の年齢別単の５回の優勝を始め、年齢別複の優勝、年齢別単及び複の２位、３位、成壮年団体の３位等優秀な成績を収めてきている。

各種目の成績（１位のみ）

種　目	男　子	女　子
一般団体	和歌山県	東京都
成壮年団体	熊本県Ａ	
一般単	舛田　吉光(石　川)	松田　敦子(青　森)
一般複	山本・米山(和歌山)	功刀・村田(東　京)
30才単	原　　栄一(石　川)	永原　敦子(富　山)
30才複	北方・　原（石　川）	西田・元田(熊　本)
40才単	鈴木　祐司(秋　田)	
40才複	本郷・　南（熊　本）	
50才単	畑　　忠雄(福　井)	
50才複	竹内・斎藤(大　阪)	
混合複	須藤・松田(青　森)	

記　　録

■ 歴　代　役　員 ■

年　度	会　　長	副　会　長	理　事　長	事務局長
昭和25年	長　井　秋　穂		友　沢　毅一郎	
26			佐久間　貫　弋	
27	野　村　幸　祐		田　中　萬亀太	
29	藤　本　菊　二			
37	市　河　八　五	田　中　萬亀太	植　田　博　宣	
45	林　　義　郎			
52		田　中　萬亀太 市　川　　稔		
53				岸　野　保　則
54		田　中　萬亀太 植　田　博　宣 石　崎　幸　亮	津　守　幸　介	
平成元年				植　田　博　宣
4		植　田　博　宣 石　崎　幸　亮		
8				久　次　　優
9	林　　芳　正	植　田　博　宣 石　崎　幸　亮 津　守　幸　介	三　井　　裕	

■ 山口県バドミントン協会規約 ■

第1章　名称及び組織

（名　称）

第1条　本会は、山口県バドミントン協会と称する。

（組　織）

第2条　本会は、県内各市郡支部バドミントン協会その他、本会の趣旨に賛同するアマチュアバドミントン団体（以下「加盟団体」と称する。）をもって組織する。

第2章　目的及び事業

（目　的）

第3条　本会は、山口県におけるバドミントンの普及と振興をはかりスポーツの実践と趣味をかんようすることを目的とする。

（事　業）

第4条　本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

(1)　競技会の主催並びに後援

(2)　財団法人日本バドミントン協会への加盟

(3)　県外大会への参加

(4)　競技の普及、発展並びに技術の向上に関する研究及び指導

(5)　審判員の指導及び養成、審判講習会の開催

(6)　功労者、優秀選手の表彰

(7)　その他本会の目的達成に必要な事業

第3章　役　　員

（役　員）

第5条　本会に次の役員を置く。

会　　長	1　名	副 会 長	若干名
理 事 長	1　名	副理事長	若干名
常務理事	若干名	理　　事	若干名
監　　事	2　名	事務局長	1　名

2　本会に名誉会長、顧問、参与を置くことができる。

（役員の選出）

第6条　役員は次により選出する。

(1)　名誉会長は、総会において推戴する。

(2)　顧問、参与は、常務理事会の推挙により、総会の承認を得て会長が委嘱する。

(3)　会長、副会長、理事長、副理事長、専門部長及び監事は、総会で選出する。

(4)　常務理事は、専門部長、事務局長及び理事長が必要とする者で理事会が承認した者をもって充てる。
(5)　理事は、加盟団体より１名選出する。
(6)　事務局長は、会長が委嘱する。

（役員の任期）

第７条　役員の任期は２年とするも、再任を妨げない。ただし、任期途中において役員となった者の任期は残余期間とする。

（役員の職務）

第８条　役員の職務は次の通りとする。
(1)　顧問は、会長の諮問に応じ、参与は、本会発展のための指導助言を行う。
(2)　会長は、本会を代表し会務を総理する。
(3)　副会長は、会長を補佐し、会長事故ある時はその職務を代理する。
(4)　理事長は、会務を執行する。
(5)　副理事長は、理事長を補佐し、理事長事故ある時はその職務を代理する。
(6)　常務理事は、常務理事会を組織する。
(7)　理事は、理事会を組織する。ただし事故ある時は代理を充てることができる。
(8)　監事は、会計を監査する。

（専門部）

第９条　本会は、次の専門部を置く。
(1)　総務部は、本会主催又は主管大会の開催及び運営を行う。
(2)　国体強化部は、国体選手の強化を行う。
(3)　競技部は、競技会の企画、選手の登録及び競技に関する指導を行う。
(4)　指導普及部は、バドミントンの普及と技術の向上に関する指導を行う。
(5)　審判部は、審判技術の向上と競技会における審判の派遣を行う。
(6)　表彰部は、披表彰者の選考等表彰に関する事項を行う。

第４章　会　　議

（会　議）

第10条　会議は、総会、理事会及び常務理事会とする。

（総　会）

第11条　総会は、会長、副会長、理事長、副理事長、常務理事、理事、監事、事務局長をもって構成し、次に掲げる事項を審議する。
(1)　協会の予算、決算に関する事項
(2)　規約の改廃に関する事項
(3)　事業計画に関する事項
(4)　役員の選出
(5)　加盟分担金、登録料及び大会参加料の決定
(6)　加盟脱退の承認
(7)　その他重要な事項
(8)　総会は定期総会とし、年１回開くものとする。ただし会長が必要と認めたとき、又は構成する役員の１／３

以上の要求があったとき会長が招集する。

（理事会）

第12条　理事会は、理事長、副理事長、常務理事、理事、事務局長をもって構成し、次に掲げる事項を審議する。

(1)　総会から委任された事項

(2)　各大会の運営

(3)　その他軽易な事項

（常務理事会）

第13条　常務理事会は、理事長、副理事長、常務理事、事務局長をもって構成し、次に掲げる事項を審議する。

(1)　総会又は理事会から委任された事項

(2)　総会及び理事会に提出する議案に関する事項

(3)　その他軽易な事項

（会議の招集）

第14条　総会は、会長がこれを招集し、理事会及び常務理事会は、理事長がこれを招集する。

（議　決）

第15条　会議は、会議を構成する役員の定数の１／２以上の出席をもって成立し、議決は出席者の過半数をもって決定する。ただし、可否同数の場合は、議長の決するところによる。

第５章　事　務　局

（事務局）

第16条　事務局は、理事長が定めるところに置く。

２　事務局長は、事務局を代表し協会の庶務を執行する。

第６章　加 盟 団 体

（加盟団体）

第17条　本会の加盟団体は、次の通りとする。

(1)　山口県内の市郡バドミントン協会

(2)　実業団バドミントン連盟

(3)　教職員バドミントン連盟

(4)　家庭婦人バドミントン連盟

(5)　学生バドミントン連盟

(6)　高体連バドミントン専門部

(7)　中体連バドミントン専門部

(8)　ジュニアバドミントン連盟

（加盟団体の規約）

第18条　加盟団体に関する事項は、加盟団体の定める規約による。ただし、その規約及び役員名簿を本会に提出しなければならない。

第７章　加盟及び登録

（加盟の更新）

第19条　加盟団体は、毎年５月末までに加盟を更新しなければならない。

（加盟分担金）

第20条　加盟分担金は、総会において定められるが、前条の期限までに納入なき場合は、その加盟団体は、本会における全ての権利を喪失する。

第21条　本会の主催及び主管する競技会に参加せんとする競技者は、加盟団体を通じて本会に登録しなければならない。

（登録料）

第22条　登録料は、総会で定め、加盟団体は登録と同時にこれを納入しなければならない。

第８章　経費及び会計

（経　費）

第23条　本会の経費は、加盟分担金、登録料、寄付金、事業収入、補助金及びその他雑収入をもって充てる。

（会　計）

第24条　本会の会計年度は、４月１日に始め翌年３月31日に終わる。

附　則　本会は、昭和25年４月１日に設立された。

（改正の沿革）

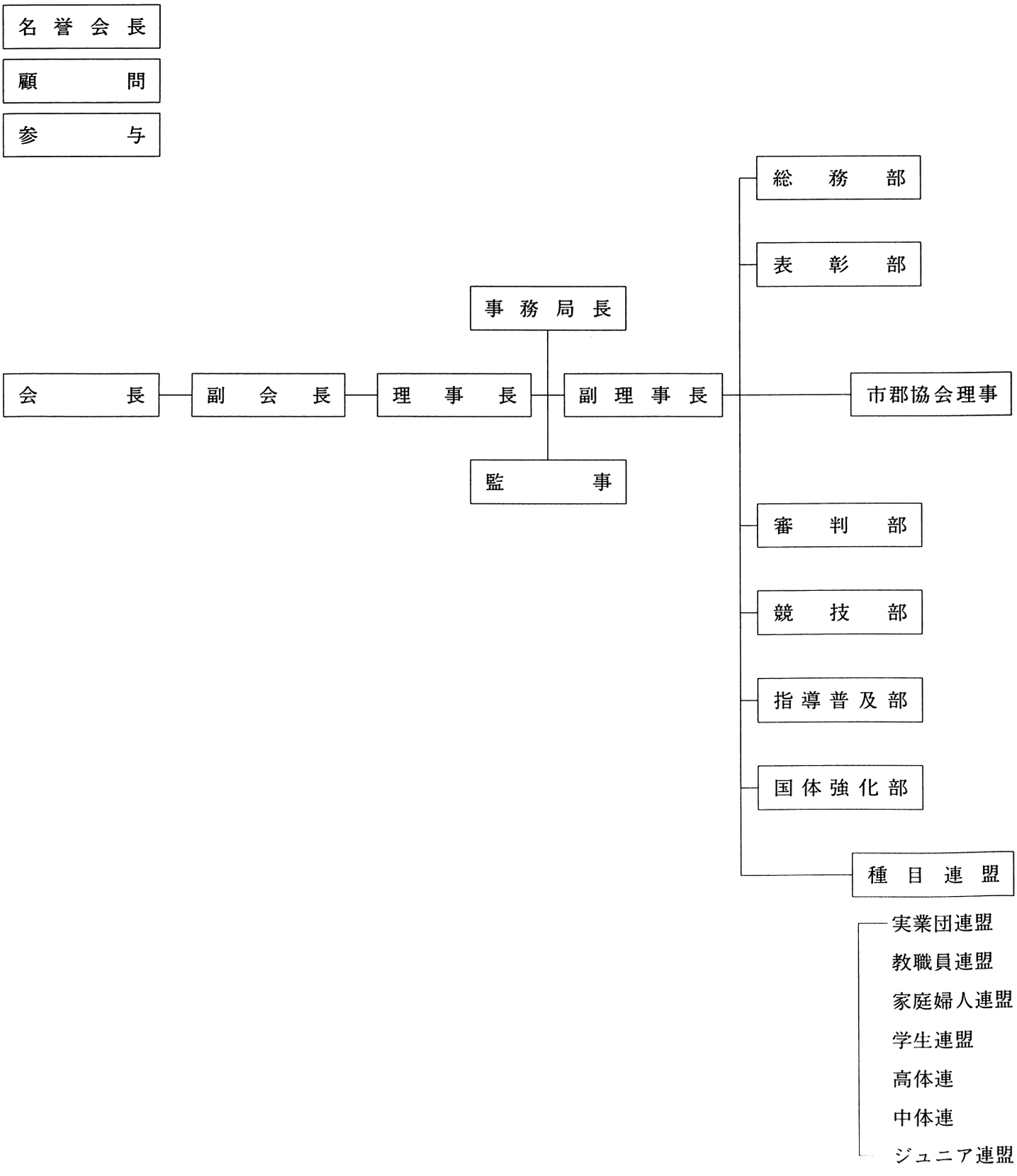
昭和40年４月１日

昭和51年４月１日

平成７年４月１日

平成９年３月23日

■ 山口県バドミントン協会組織図 ■



■ 山口県バドミントン協会運営規定 ■

第１条　山口県バドミントン協会（以下県協会と称する）の主催または主管する大会は、日本バドミントン協会競技規則、大会運営規定及び公認審判員規定に準じて運営する。

県協会加盟支部、連盟の主催する各種競技会も、本規定に準じて運営することを原則とする。

第２条　県協会の主催する大会は、次の通りとする。

１．※国体県予選
２．　春季地区（東部、中部、西部）
３．※春季家庭婦人
４．※会長杯争奪
５．※夏期家庭婦人
６．※夏期選手権
７．※中国総合選手権県予選
８．※協会結成記念
９．　秋季地区（東部、中部、西部）
10．※秋季家庭婦人
11．　小学生
12．※中学生
13．※ヨネックスカップ
14．　郡市対抗
15．※総合選手権

第３条　県協会の後援する大会は、次の通りとする。

１．※中学校体育連盟主催大会
２．※高等学校体育連盟主催大会
３．※大学連盟主催大会
４．　実業団連盟主催大会
５．　教職員連盟主催大会
６．　家庭婦人連盟主催大会

第４条　大会に参加できる競技者は、県内に在住、在勤、在学しているもの及び帰郷大学生のうち、定めた期日までに県協会に会員登録をした者とする。

第５条　総合選手権大会の参加有資格者は、上記の第２条、第３条の※印の大会において、下記の条件を満たす者とする。

１．前年度総合選手権大会……ベスト８
２．一般男子（Ａ級）……ベスト16
３．一般女子（Ａ級）、家庭婦人（Ａ１級）、大学男女、高校男女……ベスト８
４．中学校男女……ベスト４

第６条　大会の組合せは、各市郡協会が行う。

第７条　県協会、中国協会、日本協会主催大会の年齢別種目の年齢は、当該年度４月２日現在の満年齢とする。

第８条　大会の組合せを作成する場合、同一の市郡協会、会社、クラブ等の団体から複数の参加がある場合は、なしうる限り相異なる山に組み入れねばならない。

第９条　表彰は、原則として各種目２位までとする。ただし、郡市対抗、総合選手権大会は３位までとする。

第10条　昇給は、Ｃ級は２位まで、Ｂ級は単、複１位とする。

第11条　大会開催市郡協会は、大会終了後速やかに競技記録を作成し、協会事務局、競技委員長、各理事に送付する。

第12条　競技委員長は、総合選手権大会終了後速やかにランキング案を作成し、理事長に承認を得て決定する。

第13条　競技記録、ランキングは、競技委員会が整理保管する。

記　録

《内　規》

（１）　大会要項案は、大会開催月の２ヶ月前15日までに競技委員長に送付する。

（２）　大会要項は、１ヶ月前に一括して競技委員長より県協会役員に送付する。

（３）　申込締め切りは、山口県中学生大会を除き、大会２週間前必着とし、申込締め切り後の変更は認めない。締め切り前に変更する場合は、競技委員長まで連絡する。

（４）　参加料は、申込締め切り日までに郵便振替で山口県バドミントン競技委員会の口座（０１５５０－６－８０６０）に振り込む。

（５）　申込締め切り後に棄権する場合、参加料は返さない。

（６）　申込は、封書またはファックスによるものとし電話等では受け付けない。

（７）　大会の日程がずれた場合には、重ねて出場してもよい。ただし、その大会で昇給した場合は、次の大会は申込後でも上級に出場する。

（８）　ランキングは、ポイント制で10位までを決定する。

ランキング決定のためのポイント制

県内大会を、次のランクに分けて、成績によって以下のようなポイントを与え、合計ポイントでランキングを決定する。

Ａ．総合選手権大会

１位	２４	２位	１２	ベスト４	６	ベスト８	３

Ｂ．会長杯争奪大会、夏季選手権大会、協会結成記念大会、ヨネックスカップ大会

１位	８	２位	４	ベスト４	２	ベスト８	１

（９）　40才以上のＡ級登録者は、Ｂ級に出場してもよいが、ランクはＡ級のままである。ただし、優勝した場合、１年間（同一大会終了まで）はＡ級として出場する。50才以上のＢ級登録者は、Ｃ級に出場してもよいが、ランクはＢ級のままである。ただし、優勝した場合、１年間（同一大会終了まで）はＢ級として出場する。

（10）　大会申込書には必ず県協会登録番号（下５桁）を記入する。

（11）　出場者７名（組）以下の種目の昇給は、県協会と主管協会とで検討し、決定する。

（12）　大会の組合せを作成する場合は、前年度同一大会の成績で１、２シードを決め、前年度ランキングで３、４シードを決めることを原則とする。

付　則

本規定は、昭和59年３月25日制定
昭和62年３月８日一部改正
平成元年３月21日一部改正
平成７年３月21日一部改正

■ 山口県バドミントン協会表彰規定 ■

第１条　山口県バドミントン協会（以下協会という。）の功労者及び優秀選手に対する表彰については、本規定による。

第２条　功労者とは次の各号に該当するものをいう。

1　協会の振興に尽力し、功労顕著なもの。

2　協会又はその加盟団体の発展のために、永年尽力し功労顕著なもの。

第３条　優秀選手とは、次の各号に該当するものをいう。

1　連続国体に出場したもの。

2　中国大会に出場し優勝したもの。

3　山口県大会において、連続して優秀な成績をおさめたもの。

第４条　表彰は原則として表彰状及び記念品を授与して行う。

第５条　各支部で表彰の該当がある場合は、次の事項を記載した推薦書を事務局に提出し表彰委員会が選考して、理事会で決定する。

1　氏名・生年月日

2　現住所。勤務先

3　業績の概要・推薦の理由

第６条　表彰を受けた者で著しくその体面を汚辱する行為があったときは、表彰委員会の議決を経て、理事会にはかり、これを取り消すことがある。

附　則　1　昭和48年６月１日から施行する。

2　昭和54年11月24日一部改正

3　昭和63年７月31日一部改正

《内　規》

○表彰委員会で選考する場合、その選考基準は次のとおりとする。

１．表彰は個人を対象とし、表彰の種類は、功労賞と優秀選手賞とする。

２．功労賞は次の条件による。

(1)　県協会の役員を含め協会役員として10年以上（市郡協会役員の場合は20年以上）つとめ、その業績が顕著であり、かつ年齢が50歳以上のもの。

(2)　指導普及等の分野で特に顕著な業績が認められるもの。

３．優秀選手賞は次の条件による。

(1)　表彰は学生時代、社会人時代の生涯２回とし、それ以上は表彰の条件を満たしても該当しないものとする。

(2)　ア　国体に５回以上出場したもの。

イ　真に大会一を決めると認められる中国大会以上の大会で、優勝あるいはそれに相当すると認められる成績を残したもの。年齢別・教職員・家庭婦人等の特殊種目にあっては、中国大会以上の大会で３年連続優勝あるいはそれに相当すると認められる成績を残したもの

ウ　県内大会の同一大会、同一種目で３回優勝したものの中から、総合選手権大会の成績を中心にランキング等を考慮する。

４．優秀選手賞の推薦は、予め表彰委員会で予備審査を行い、支部・専門部等に推薦を求めて行うものとする。

記　録

■ 平成10年度山口県バドミントン協会役員 ■

協会所在地　〒744-0043 山口県下松市東陽２－９－７　久次　優　気付

役職名	氏名	自宅住所 勤務先
名誉会長	林　義郎	下関市貴船町４－７－１ 下関市貴船町４－４－１　林義郎事務所
会長	林　芳正	下関市貴船町４－７－１ 下関市貴船町４－４－１　林芳正事務所
副会長	植田博宣	下関市彦島本村町４－８－29 下関市岬之町13－22　杉岡商会
〃	石崎幸亮	下関市彦島江の浦町２－14－１ 下関市彦島福浦町２－23－15　石崎建設工業
〃	津守幸介	山口市堂の前町２－50 防府市岸津２－24－20　岸津苑
理事長	三井　裕	柳井市中央３－15－46Ａ25 柳井市大字阿月1729　阿月小学校
副理事長	嘉村悦男	防府市久兼２ 防府市緑町１－９－２　文化福祉会館
〃	末廣秀樹	吉敷郡小郡町田町 宇部市西本町１－12－32　宇部興産
〃	松村和美	防府市高倉１－６－７
常務理事 国体強化部	沖　貞雄	宇部市東梶返３－５－１ 徳山市岐山通１　徳山市役所
〃 競技部	松本克芳	山口市嘉川3363－２ 新南陽市土井１－８－１　新南陽高校
〃 指導普及部	松原康則	熊毛郡田布施町麻郷奥241－２ 柳井市伊保庄田布呂木2658　柳井工業高校
〃 審判部	利行好男	下松市東陽５－２－10 徳山市御幸通２－16　東山口信用金庫
〃 表彰部	蔵成秋次	山口市大字平井1161
〃 総務部	山下新一	柳井市琴風1269－５ 熊毛郡田布施町下田布施1050－４　田布施中学校
理事 家庭婦人連盟	三井房子	山口市朝田1413－１
〃 教職員連盟	福田光博	小野田市共和台13－12 宇部市大字東須恵4267　原小学校
〃 実業団連盟	末廣秀樹	吉敷郡小郡町田町 宇部市西本町１－12－32　宇部興産
〃 学生連盟	安田智子	山口市大字平井765－３第２若草荘110号 山口市大字吉田1677－１　山口大学バドミントン部
〃 高体連	永茂勝弘	山口市野田48－２柴山荘33号 山口市野田56　野田学園高校
〃 中体連	津守真治	山口市堂の前町２－50 山口市桜畠４－９－１　宮野中学校
〃 ジュニア連盟	河野敬三	宇部市北迫新町２－５－２ 宇部市西本町１－12－32　宇部興産

役職名	氏名	自宅住所 勤務先
理事 （玖珂）	田中博美	広島県大竹市元町４－３－18 岩国市麻里布町１－３－15　詩仙堂
〃 （岩国）	中本隆生	岩国市錦見２－９－60 岩国市飯田町２－８－１　日本製紙
〃 （柳井）	山下新一	柳井市琴風1269－５ 熊毛郡田布施町下田布施1050－４　田布施中学校
〃 （熊毛）	山根康夫	熊毛郡田布施町長田 熊毛郡大和町岩田　大和町役場
〃 （光）	小田和典	光市和田町10－２ 光市中央６－１－１　光市役所
〃 （下松）	大段宏	下松市末武下956－91 下松市東豊井1302　東洋鋼鈑
〃 （徳山）	内山正也	新南陽市川崎２－18－１ 徳山市御影町１－１　トクヤマ南陽設備課
〃 （新南陽）	吉田節夫	新南陽市長田町23－３ 新南陽市開成町4560　東ソー
〃 （防府）	嘉村悦男	防府市久兼２ 防府市緑町１－９－２　文化福祉会館
〃 （山口）	重田道正	山口市吉敷2534－11稲葉団地 山口市滝町１－１　山口県庁
〃 （吉敷）	末永文男	吉敷郡小郡町上郷1337－42 美祢郡秋芳町岩永下郷　岩永郵便局
〃 （宇部）	石川好夫	宇部市厚南区西際波台１－５－７ 宇部市小串　宇部興産
〃 （小野田）	笹尾克之	厚狭郡山陽町緑ケ原60 小野田市日の出１－１－１　小野田市役所
〃 （下関）	三原一郎	厚狭郡山陽町埴生897 下関市中之町１－２　下関市役所
〃 （長門）	大藤之典	長門市俵山大羽山
〃 （萩）	小原浩二	萩市平安古東区の４ 萩市江向　萩市水道局
〃 （大津）	長野茂生	大津郡油谷町掛渕 大津郡油谷町　油谷農業協同組合
監査	田村弘実	熊毛郡熊毛町呼坂81 徳山市築港町２－18　徳山海陸運送
〃	吉賀孝博	玖珂郡由宇町神東久保859－２
事務局長	久次優	下松市東陽２－９－７ 徳山市鐘楼町３－44　周南生コンクリート協同組合

■ 平成10年度一般会計予算 ■

【収入の部】　　単位：円

項　目	前年決算額	予　算　額	摘　要	
前期繰越金	529,477	737,809		
日本協会登録料	615,600	614,000	一般　700×330人	213,000
			大学　700×250人	175,000
			高校　400×520人	208,000
山口県協会登録料	2,052,900	2,059,000	一般　1,500×1,220人	1,830,000
			大学　500×250人	125,000
			高校　200×520人	104,000
補助金	1,054,200	750,200	委託金（日本バドミントン協会）	210,200
			県体委託金（山口県）	265,000
			国体選手強化費（山口県体育協会）	225,000
			中国地区教職員大会（中国地区協会）	50,000
加盟分担金	340,000	340,000	20,000×17支部	
協力金	1,061,400	1,040,000	400×2,600人	
雑収入	975	8,991	利息他	
合計	5,654,552	5,550,000		

【支出の部】

項　目	前年決算額	予　算　額	摘　要	
日本協会登録料	615,600	614,000	一般　700×330人	213,000
			大学　700×250人	175,000
			高校　400×520人	208,000
分担金	400,000	400,000	県体協	150,000
			中国地区協会	200,000
			日バ	50,000
助成金	100,000	100,000	各種目連盟へ補助	
大会運営補助費	415,000	515,000	県体（山口県）	265,000
			中国地区教職員（中国地区協会・県協会）	100,000
			中国中学生（県協会）	50,000
			中国地区国体（県協会）	100,000
強化費	1,438,854	1,400,000	強化合宿、強化練習、シャトル代、他	
指導講習会費	332,913	350,000	指導者講習会、選手講習会、普及費用他	
通信費	256,589	300,000	電話代、郵送料	
旅費交通費	496,830	600,000	中国地区協会総会・理事会、県協会総会・理事会他	
会議費	94,748	200,000	総会、常務理事会、理事会他	
印刷費	213,440	250,000	賞状、封筒、ドロー用紙他	
事務費	320,976	350,000	ファックス・パソコンリース料、事務用品他	
表彰費	39,275	50,000	トロフィー代他	
雑費	67,518	70,000	ドロー表紙宅配料、振込手数料他	
予備費		226,000		
特別会計へ支出	125,000	125,000	50周年記念事業費	
合計	4,916,743	5,550,000		

■県協会長表彰者■

年度	功労者	優秀選手
48	渡辺　忠（新南陽）　松村哲幸（宇部） 植田博宣（下関）　市川八五（下関）	
49	田中萬亀太（山口）　津守幸介（下関） 大野倍弘（下関）	河添忠夫（宇部）
50	岡崎光弘（下関）	末廣秀樹（宇部）　西村和美（下関） 丸山富江（下関）　永田美登里（下関）
52	渡辺恒輔（下関） 浅谷寿々也　（下関）	宮岡康臣（岩国）　林　厚志（岩国） 水津信彦（山口大）　喜良明文（柳井工） （団）柳井工　（団）家庭婦人県代表
53	宮崎伊三郎（下関）　山県保夫（宇部） 尾上　忠（山口）　川岡　智（岩国）	
54	蔵成秋次（山口）	河野耕司（岩国）　川岡　智（岩国）
55	松永正敏（山口）	沖　貞雄（須々万中）　高橋和也（須々万中） 松原康則（須々万中）
56	新宅正和（下関）	坂本賢二（宇部）
57	吉川慶一（光）　鳥居和彦（山口）	木山茂雄（玖珂）　田中伸幸（須々万中） 広谷　勲（須々万中）　河野強志（須々万中）
58		山口里枝（新南陽）　浜田真澄（新南陽）
59	長野嘉久（防府）	津守真治（山口大）　鳥居慶子（山口大） 金子義信（川中中）
60	椎山昭二（下松）	杉原哲彦（下関）　重永光弘（下関） 田原暢也（山口大）
61	佐藤純一（徳山）	金子義治（柳井工）

62	植田久昭（下関） 岸野保則（下関）	古賀信之（玖珂）　加藤康弘（玖珂） 近藤正俊（柳井工）　田中貴光（柳井工） 内富　進（柳井工） 秋元直幸（須々万中）　山東　寿（須々万中）
63		三井　裕（山口） 柳　宏幸（柳井工）　吉岡哲夫（柳井工）
平成元	松井孝一（萩）	木村雄一（柳井工）　遠藤正徳（柳井工） 睦田健二（須々万中）　森広浩二（須々万中） 村田みつえ（串中）
2		堀　悦子（山口） 棟居秀行（柳井工）　武内敏寿（柳井工） 波田　晃（垢田中）　金山　敬（垢田中）
3	大藤之典（長門）	相本浩一（柳井工）　谷　克典（柳井工） 永尾　忠（柳井工）
4	古賀孝博（玖珂）　水摩勝美（下松）	松村和美（防府）　三井房子（山口） 中山　整（柳井工）　柳　孝三（柳井工） 増田敏雄（末武中）
5	三原一郎（下関）	米川真司（下松中） 石田健太（末武中）　長嶺　宙（末武中）
6	三浦捷治（柳井）	矢野　潤（下関）　沖　貞雄（宇部） 古城周子（徳山）　嶋田文江（新南陽）
7		河野強志（下関）　田内正彦（徳山） 安田耕司（宇部）　青木伸也（東亜大） 馬場直樹（東亜大）　横井靖幸（東亜大） 川田弘美（鴻南中）　森永裕美（鴻南中）
8		石井伸子（熊毛）　香井晴江（下松） 藤井経久（山口高） 三輪誓子（大殿中）　大西美香（大殿中）
9	渡辺省吾（光）	藤田　進（防府）　河村則彦（下松） 三好紗也香（山口中央高）

■ 山口県バドミントン協会登録者数の推移 ■

年度	58年度			元年度			6年度			9年度		
	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計
玖珂郡	28	8	36	35	14	49	32	18	50	35	26	61
岩国市	30	11	41	71	61	132	43	48	91	36	53	89
大島郡	7	3	10		2	2						
柳井市	21	15	36	15	3	18	24	3	27	21	1	22
熊毛郡	12	24	36	27	48	75	26	32	58	32	43	75
光市	49	45	94	63	43	106	38	47	85	42	47	89
下松市	52	45	97	55	111	166	63	108	171	56	67	123
徳山市	30	34	64	58	71	129	70	95	165	61	98	159
新南陽市	27	34	61	24	33	57	29	30	59	30	26	56
防府市	26	17	43	30	26	56	31	45	76	24	39	63
山口市	11	5	16	21	27	48	37	49	86	37	67	104
吉敷郡	15	13	28	8	8	16	22	14	36	17	15	32
宇部市	17	18	35	31	39	70	32	55	87	37	59	96
小野田市	27	19	46	23	11	34	23	12	35	19	16	35
美祢市	6	6	12	6	2	8						
下関市	93	23	116	39	32	71	39	38	77	44	51	95
長門市	23	31	54	8	14	22	12	23	35	18	19	37
萩市	29	38	67	8	13	21	24	32	56	25	31	56
大津郡	9	6	15	8	4	12	12	10	22	14	8	22
阿武郡	4		4									
県外	4	1	5									
合計	520	396	916	530	562	1092	557	659	1216	548	666	1214

年度	58年度			元年度			6年度			9年度		
	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計
学生	92	79	171	84	123	207	116	113	229	127	127	254
高校生	159	213	372	169	354	523	175	330	505	217	300	517
中学生	208	292	500	332	501	833	299	507	806	268	532	800

■市郡協会登録者数■

H．10．3．1現在

市郡名	実男	実女	教男	教女	社男	社女	家婦	県協会登録（8年度）	実男	実女	教男	教女	社男	社女	家婦	日本協会登録（8年度）
玖珂郡					35	6	20	61 (55)					21	2	1	24 (25)
岩国市	18				18	11	42	89 (81)	16				8	2	10	36 (33)
柳井市			5		16	1		22 (33)			3		2			5 (12)
熊毛郡					32	1	42	75 (82)					8		12	20 (19)
光市					42	7	40	89 (83)					16		5	21 (22)
下松市		5			56	6	56	123 (135)		5			24	2	25	56 (52)
徳山市			2		59	14	84	159 (181)			1		26	9	16	52 (62)
新南陽市					30	7	19	56 (56)					16	3	6	25 (23)
防府市			1		23	7	32	63 (63)					8	1	5	14 (14)
山口市			7	2	30	6	59	104 (102)			6	2	7	2	1	18 (23)
吉敷郡			2		15	2	13	32 (40)			2		5			7 (14)
宇部市	9				28		59	96 (94)	5				3		3	11 (13)
小野田市			3	2	16	10	4	35 (32)			3	2				5 (9)
下関市	12	6	6		26	4	41	95 (92)	1	5	5		10	1	10	32 (32)
長門市					18	4	15	37 (41)								0
萩市					25	9	22	56 (52)					1	1		2
大津郡					14	1	7	22 (25)							2	2 (2)
合計	39	11	26	4	483	96	555	1214(1247)	22	10	20	4	155	23	96	330 (355)

学生　２５４人　　高校生５１７人　　中学生８００人
（昨年度２１５人）　（５３２人）　（６２５人）

■ 平成９年度日本バドミントン協会登録者数 ■

H．10．３．１現在

学生

学校名	男	女	合計
大島商船		2	2
徳山	14	2	16
徳山高専	8	3	11
徳山女短			0
山大本部	18	11	29
山口県立	3	27	30
山口大工学部	7		7
山口大医学部	15	15	30
山口大医技短		11	11
宇部高専	2		2
宇部短	4	37	41
下関市立	18	14	32
東亜	38	3	41
梅光			0
梅光女短			0
その他		2	2
計	127	127	254

高校生

学校名	男	女	合計
大島商船		2	2
徳山高専	1	5	6
岩陽		28	28
高水	8	6	14
高森	1	17	18
柳井工	6	7	13
光	11	4	15
光丘	7	15	22
熊毛北	7	13	20
華陵		21	21
徳山		21	21
徳山工	26	4	30
桜ケ丘	10	1	11
新南陽		28	28
山口	11	5	16
山口中央		27	27
西京	20	13	33
中村女子		23	23
野田学園	18	9	27
徳佐高俣		9	9
長府		42	42
下関西	20	14	34
下関南		24	24
下関中央工業	23		23
下関商業	16	14	30
早鞆	19	5	24
響		15	15
萩光塩		15	15
山口農業	9		9
熊毛南上関	7	19	26
山口県鴻城	14		14
その他	3		3
計	237	406	643

中学生

学校名	男	女	合計
天尾		4	4
日積			0
熊毛	32	29	61
浅江		20	20
久保		14	14
末武	27	36	63
須金	11	9	20
大津島		5	5
太華	1		1
住吉			0
華陽	8	26	34
宮野	26	25	51
大殿	10	3	13
大内		22	22
鴻南	31	25	56
平川	26	26	52
潟上	28	23	51
野田学園			0
二島	9	3	12
常盤		9	9
上宇部		1	1
彦島	28	30	58
玄洋		50	50
向洋		22	22
名陵		28	28
山の田	18	30	48
垢田		16	16
安岡		24	24
勝山	9	37	46
萩光塩		12	12
厚南	3		3
その他	1	3	4
計	268	532	800

上記のうち、日本協会登録者は
５１７人(男２１７　女３００)

■ 平成元～9年度　大会参加者数 ■

月　日	大　会　名	開催地	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度 (一般参加数)
4／20	春季中部地区	下　松	303	161	199	224	145	198	222	150	204(181)
5／11	会長杯争奪	下　関	144	161	126	128	152	151	105	151	122(122)
5／18	春季東部地区	柳　井	345	141	155	171	245	203	230	203	136(134)
5／25	第45回家庭婦人	防　府	44	186	110	202	177	210	119	163	187(187)
6／15	春季西部地区	萩	164	200	269	259	325	244	367	310	301(289)
6／22	国体選考会	宇　部	16	16	14	24	15	15	14	14	15(15)
7／6	協会結成記念	新南陽	274	309	361	206	206	188	160	138	160(160)
7／20	第46回家庭婦人	山　口	66	120	142	212	170	154	192	148	160(160)
8／3	夏季選手権	徳　山	231	190	224	201	222	214	151	154	199(185)
8／17	中国総合県予選	岩　国	167	141	201	168	168	204	183	236	201(201)
8／30	中　学　生	下　松	424	446	520	547	616	731	647	637	774(0)
10／12	第47回家庭婦人	光	167	148	172	130	166	170	130	172	190(190)
10／19	秋季東部地区	岩　国	164	202	165	207	90	99	161	114	124(117)
10／19	秋季西部地区	長　門	116	153	196	218	223	237	232	250	212(211)
10／26	秋季中部地区	防　府	264	265	214	302	288	282	300	262	296(273)
11／8	次年度国体予選会	宇　部				18	18	22	26	22	17(17)
11／23	ヨネックスカップ	宇　部	160	198	142	120	158	142	117	166	110(96)
12／14	小　学　生	柳　井	123	107	163	170	156	149	119	130	131(0)
2／15	総合選手権	下　関	187	145	172	195	96	162	160	112	106(73)
		合　計	3359	3289	3545	3702	3636	3775	3635	3651	3645(2611)

参　考　　2月1日都市対抗（小野田）　参加チーム数　10チーム

■国　体　選　手　名　簿■

○第６回（昭和26年）広島国体
監　督　友沢毅一郎　小郡クラブ
一般男子選　手　末廣　吉郎　小郡第一病院
〃　中道　修　大洋漁業
〃　萩原　惇　〃
〃　堀田　秋人　〃
一般女子選　手　前原　知子　山口高
〃　山本　裕子　〃
〃　中村由美子　〃
〃　豊福　久恵　〃
高校男子選　手　林　登　鴻城高
〃　隅　和照　山口高
〃　津守　幸介　〃
〃　玉木　康彦　〃
○第７回（昭和27年）宮城国体
一般男子監　督　佐久間貫弍　山口高
選　手　津守　幸介　山口大学
〃　堀田　秋人　大洋漁業
一般女子監　督　友沢毅一郎　小郡クラブ
選　手　中村由美子　ＯＢＧ
〃　豊福　久恵　ＯＢＧ
○第８回（昭和28年）香川国体
一般男子選　手　玉木　康彦　ポーラ化粧品
〃　津守　幸介　山口大学
〃　松田　光夫　〃
高校女子
○第９回（昭和29年）北海道国体
一般男子監　督　田中萬亀太　山口女子短大
選　手　植木　徹　日本石油
〃　大久保友春　〃
〃　堀田　秋人　大洋漁業
○第10回（昭和30年）神奈川国体
一般男子
○第11回（昭和31年）兵庫国体
監　督　庄井　政雄　下関商業高
一般男子選　手　津守　幸介　徳山教育委員会
〃　松田　光夫　柳井教育委員会
一般男子選　手　松永　正敏　山口市役所
一般女子選　手　谷野　弘子　下関南高ＯＧ
〃　西村美穂子　〃
〃　原田　幸子　〃
○第12回（昭和32年）静岡国体
一般男子監　督　田中萬亀太　山口女子短大
選　手　津守　幸介　徳山教育委員会
〃　松永　正敏　山口市役所
〃　植木　徹　日本石油
○第13回（昭和33年）富山国体
一般男子監　督　田中萬亀太　山口女子短大
選　手　津守　幸介　徳山教育委員会
〃　松永　正敏　山口市役所
〃　小畑　文策　関門油脂
○第14回（昭和34年）東京国体
一般男子監　督　田中萬亀太　山口女子短大
選　手　津守　幸介　徳山教育委員会
〃　松永　正敏　山口市役所
〃　義永　保　宇部窒素
○第15回（昭和35年）熊本国体
一般男子選　手　玉木　俊一　山陽パルプ
〃　室井　勝夫　〃
〃　岡崎　修身　〃
○第16回（昭和36年）秋田国体
一般男子監　督　藤井　豊秋　山口郵便局
選　手　山縣　保夫　宇部窒素
〃　玉木　俊一　山陽パルプ
〃　室井　勝夫　〃
○第17回（昭和37年）岡山国体
一般男子監　督　中浜　浅吉　山陽パルプ
選　手　室井　勝夫　〃
〃　川岡　智　〃
〃　佐藤　昌利　東洋曹達
一般女子監　督　大野　倍弘　下関市役所
選　手　江原　敏子　山陽電軌
〃　玉木　靖子　山陽パルプ
〃　村中マチ子　〃

記　録

高校男子監　督　中村　勇夫　山口高
選　手　吉岡　　淳　〃
〃　林　道彦　〃
〃　小村　勝征　柳井商工高
高校女子監　督　片山　健助　徳山高
選　手　野村　靖子　〃
〃　山崎　和江　〃
〃　目黒　晴美　長府高
教員男子監　督　植田　博宣　大洋漁業
選　手　津守　幸介　彦島中
〃　尾上　　忠　〃
〃　末広　光啓　山大付属小

○第18回（昭和38年）山口国体
一般男子監　督　川岡　　智　山陽パルプ
選　手　三島　俊輔　中国電力
〃　村上　恵一　国立下関病院
〃　山縣　保夫　宇部興産
一般女子監　督　小畑　文作　ニッカ石鹸
選　手　江原　敏子　山陽電軌
〃　松村　和美　山陽電軌
〃　清田　澄枝　下関国体事務局
高校男子監　督　重村　達彦　柳井商工高
選　手　二宮　修三　〃
〃　高橋　政義　〃
〃　右田　光弘　山口高
高校女子監　督　片山　健助　徳山高
選　手　貞安百合子　柳井商工高
〃　川向　京子　〃
〃　守田　友子　下関南高
教員男子監　督　大谷　稔明　彦島中
選　手　津守　幸介　〃
〃　尾上　　忠　〃
〃　渡辺　恒輔　〃

○第19回（昭和39年）新潟国体
一般男子監　督　大野　倍弘　下関市役所
選　手　三島　俊輔　中国電力
〃　村上　恵一　国立下関病院
〃　山縣　保夫　宇部興産

○第20回（昭和40年）岐阜国体
一般男子監　督　新宅　正和　下関市役所
一般男子選　手　村上　恵一　国立下関病院
〃　三島　俊輔　中国電力
〃　川岡　　智　山陽パルプ
一般女子監　督　大野　倍弘　下関市役所
選　手　江原　敏子　山陽電軌
〃　松村　和美　山陽電軌
〃　小林　君枝　大嶺高

○第21回（昭和41年）大分国体
一般男子監　督　松村　哲幸　宇部興産
選　手　村上　恵一　国立下関病院
〃　河添　忠夫　宇部興産
〃　石川　好夫　〃

○第22回（昭和42年）埼玉国体
一般男子監　督　山縣　保夫　宇部興産
選　手　末廣　秀樹　〃
〃　河添　忠夫　〃
〃　石川　好夫　〃

○第23回（昭和43年）福井国体
一般男子監　督　松村　哲幸　宇部興産
選　手　末廣　秀樹　〃
〃　河添　忠夫　〃
〃　石川　好夫　〃
一般女子監　督　水永平八郎　下関大丸
選　手　後藤　妙子　大東魚類
〃　岡村智津子　下関大丸
〃　渡辺美枝子　山陽パルプ

○第24回（昭和44年）長崎国体
一般男子監　督　松村　哲幸　宇部興産
選　手　末廣　秀樹　〃
〃　河添　忠夫　〃
〃　石川　好夫　〃

○第25回（昭和45年）岩手国体
一般男子監　督　山縣　保夫　宇部興産
選　手　末廣　秀樹　〃
〃　河添　忠夫　〃
〃　石川　好夫　〃
一般女子監　督　三原　一郎　下関市役所
選　手　後藤　妙子　大東魚類
〃　永田美登里　日本生命
〃　岡村智津子　下関大丸

高校男子監　督　三浦　捷治　柳井商工高
選　手　坂本　賢二　〃
〃　刈屋　昭三　下関商業高
〃　富田正四郎　下関中央工業高

○第26回（昭和46年）和歌山国体
一般男子監　督　山縣　保夫　宇部興産
選　手　末廣　秀樹　〃
〃　河添　忠夫　〃
〃　坂本　賢二　〃
高校男子監　督　三浦　捷治　柳井商工高
選　手　沖堀　保雄　〃
〃　城　保彦　〃
〃　竹中　信行　下関中央工業高

○第27回（昭和47年）鹿児島国体
一般男子監　督　山縣　保夫　宇部興産
選　手　末廣　秀樹　〃
〃　河添　忠夫　〃
〃　坂本　賢二　〃

○第28回（昭和48年）千葉国体
一般男子監　督　山縣　保夫　宇部興産
選　手　末廣　秀樹　〃
〃　河添　忠夫　〃
〃　坂本　賢二　〃

○第29回（昭和49年）茨城国体
一般男子監　督　山縣　保夫　宇部興産
選　手　末廣　秀樹　〃
〃　河添　忠夫　〃
〃　松田　仁　三菱重工下関
一般女子監　督　三原　一郎　下関市役所
選　手　西村　和美　〃
〃　永田美登里　日本生命
〃　丸山　富江　丸山工業所

○第30回（昭和50年）三重国体
一般男子監　督　山縣　保夫　宇部興産
選　手　末廣　秀樹　〃
〃　河添　忠夫　〃
〃　坂本　賢二　〃
一般女子監　督　三原　一郎　下関市役所
選　手　丸山　富江　丸山工業所
〃　永田美登里　日本生命
選　手　広田久美子　周陽小

○第31回（昭和51年）佐賀国体
成年男子監　督　木曽新一郎　宇部興産
選　手　末廣　秀樹　〃
〃　河添　忠夫　〃
〃　坂本　賢二　〃

○第32回（昭和52年）青森国体
成年男子監　督　山縣　保夫　宇部興産
選　手　末廣　秀樹　〃
〃　河添　忠夫　〃
〃　坂本　賢二　〃
成年女子監　督　渡辺　忠　東洋曹達
選　手　嶋田　文江　〃
〃　重永　雅子　〃
〃　守田　育代　下松市役所
少年男子監　督　三浦　捷治　柳井工業高
選　手　喜良　文明　〃
〃　久保田義弘　〃
〃　川原　義信　〃

○第33回（昭和53年）長野国体
成年男子監　督　永富　正史　林兼造船
選　手　森本　隆則　〃
〃　林　厚志　山陽国策パルプ
〃　辻中　公人　〃

○第34回（昭和54年）宮崎国体
教員男子監　督　福永　正一　小月小
選　手　林　道彦　阿知須小
〃　三井　裕　養治小
〃　松本　克芳　宇部高

○第35回（昭和55年）栃木国体
成年女子監　督　引地　朱美　下関大丸
選　手　浜田　真澄　日新製鋼
〃　長野　光子　下関大丸
〃　井上　雅美　〃
少年女子監　督　岡村　善光　柳井工業高
選　手　中原　弘子　〃
〃　中村　朋子　下関南
〃　乾　千鶴　〃

○第36回（昭和56年）滋賀国体
成年女子監　督　善本　公志　日新製鋼

記　録

成年女子選　手　山口　里枝　日新製鋼
〃　浜田　真澄　〃
〃　引地　朱美　下関大丸
少年男子監　督　三浦　捷治　柳井工業高
選　手　森永　雄二　〃
〃　尾園　正和　〃
〃　杉山　覚　山口高
少年女子監　督　池田　信郎　岩陽高
選　手　笠井　早苗　〃
〃　藤中　修子　〃
〃　岩尾　寿子　〃

○第37回（昭和57年）島根国体
成年女子監　督　善本　公志　日本製鋼
選　手　山口　里枝　〃
〃　浜田　真澄　〃
〃　井上　雅美　下関大丸
少年男子監　督　三浦　捷治　柳井工業高
選　手　沖　貞雄　〃
〃　高橋　和也　〃
〃　田原　暢也　山口高
少年女子監　督　栗栖　君代　岩陽高
選　手　溝辺　恵子　〃
〃　守川　洋子　〃
〃　小笠原和子　〃

○第38回（昭和58年）群馬国体
成年男子監　督　末廣　秀樹　宇部興産
選　手　坂本　賢二　〃
〃　渡辺　光男　林兼造船
〃　重永　光弘　自営
少年男子監　督　三浦　捷治　柳井工業高
選　手　沖　貞雄　〃
〃　高橋　和也　〃
〃　松原　康則　徳山北高

○第39回（昭和59年）奈良国体
成年女子監　督　善本　公志　日新製鋼
選　手　田中　和枝　〃
〃　井上　雅美　下関大丸
〃　中岡　宏子　〃
少年男子監　督　藤沢　圭治　柳井工業高
選　手　山崎　隆司　〃
少年男子選　手　田中　伸幸　徳山工業高
〃　河野　強志　徳山高

○第40回（昭和60年）鳥取国体
成年男子監　督　末廣　秀樹　宇部興産
選　手　坂本　賢二　〃
〃　高橋　良明　山陽国策パルプ
〃　重永　光弘　自営
成年女子監　督　杉原　哲彦　東亜大学
選　手　三井　房子
〃　鳥居　慶子　名池小
〃　井上　雅美　下関大丸
少年男子監　督　三浦　捷治　柳井工業高
選　手　田中　伸幸　〃
〃　森本　孝敏　〃
〃　河野　強志　徳山高

○第41回（昭和61年）山梨国体
少年男子監　督　三浦　捷治　柳井工業高
選　手　内富　進　〃
〃　金子　義治　下関中央工業高
〃　田内　正彦　新南陽高
少年女子監　督　池田　信郎　高森高
選　手　田辺　佳代　〃
〃　松原久美子　〃
〃　村田　浩子　新南陽高

○第42回（昭和62年）沖縄国体
成年男子監　督　末廣　秀樹　宇部興産
選　手　坂本　賢二　〃
〃　重永　光弘　自営
〃　沖　貞雄　宇部興産
少年男子監　督　三浦　捷治　柳井工業高
選　手　田中　貴光　〃
〃　吉岡　哲夫　〃
〃　柳　宏幸　〃

○第43回（昭和63年）京都国体
成年女子監　督　三井　裕　阿知須小
選　手　井上　雅美　下関大丸
〃　藤中　修子　国立岩国病院
〃　堀　悦子　県国保連合会
少年男子監　督　岡村　善光　柳井工業高
選　手　柳　宏幸　〃

少年男子選　手　吉岡　哲夫　柳井工業高
〃　藤井　謙治　徳山工業高
○第44回（平成元年）北海道国体
少年男子監　督　中村　圭治　柳井工業高
選　手　遠藤　忠徳　〃
〃　木村　雄一　〃
〃　棟居　秀行　〃
○第45回（平成２年）福岡国体
少年男子監　督　岡村　善光　柳井工業高
選　手　棟居　秀行　〃
〃　武内　敏寿　〃
〃　秋元　直幸　徳山工業高
少年女子監　督　池田　信郎　高森高
選　手　西町　由紀　〃
〃　村田　悦子　〃
〃　村田みつえ　〃
○第46回（平成３年）石川国体
成年男子監　督　末廣　秀樹　宇部興産
選　手　沖　貞雄　〃
〃　森本　孝敏　山陽国策パルプ
〃　河野　強志　下関中央工業高
少年男子監　督　渡辺　光男　下関中央工業高
選　手　相本　浩一　柳井工業高
〃　柳　孝三　〃
〃　中山　整　〃
○第47回（平成４年）山形国体
成年男子監　督　末廣　秀樹　宇部興産
選　手　沖　貞雄　〃
〃　安田　耕司　〃
〃　河野　強志　下関中央工業高
成年女子監　督　井上　雅美　下関大丸
選　手　沖村　尚美　〃
〃　村田　浩子　日立笠戸
〃　西町　由紀　日興証券
少年男子監　督　渡辺　光男　下関中央工業高
選　手　柳　孝三　柳井工業高
〃　中山　整　〃
〃　中村　淳一　下関中央工業高
少年女子監　督　田中　功　高森高
選　手　村田みつえ　〃
少年女子選　手　木村　真澄　柳井工業高
〃　山野井優子　〃
○第48回（平成５年）東四国国体
成年男子監　督　末廣　秀樹　宇部興産
選　手　沖　貞雄　〃
〃　安田　耕司　〃
〃　河野　強志　下関中央工業高
少年男子監　督　渡辺　光男　下関中央工業高
選　手　中村　淳一　〃
〃　内田　英樹　〃
〃　山野井幸治　柳井工業高
○第49回（平成６年）愛知国体
少年女子監　督　松本　克芳　山口中央高
選　手　杉村　紀子　華陵高
〃　蔵成　路恵　山口中央高
〃　松中　満美　柳井工業高
○第50回（平成７年）福島国体
成年男子監　督　末廣　秀樹　宇部興産
選　手　沖　貞雄　徳山市役所
〃　河野　強志　下関中央工業高
〃　相本　浩一　東亜大学
○第51回（平成８年）広島国体
成年男子監　督　末廣　秀樹　宇部興産
選　手　沖　貞雄　徳山市役所
〃　河野　強志　下関南高
〃　青木　伸也　東亜大学
成年女子監　督　井上　雅美　下関大丸
選　手　内田　玲子　〃
〃　中島亜紀子　日立笠戸
〃　土坂　康子　下関大丸
少年男子監　督　松原　康則　柳井工業高
選　手　米川　真司　柳井工業高
〃　中本　直良　〃
〃　藤井　経久　山口高
○第52回（平成９年）大阪国体
成年男子監　督　沖　貞雄　徳山市役所
選　手　河野　強志　下関南高
〃　田内　正彦　徳山市役所
〃　田崎誠一郎　東亜大学
少年男子監　督　永茂　勝弘　野田学園高

記　録

少年男子選	手	中原　利通	山口高
	〃	青木　昌彦	西京高
	〃	村松　壮一	野田学園高
少年女子監	督	松本　克芳	山口中央高
	選　手	三好紗也香	〃
	〃	稲子田朝美	中村女子高
	〃	川田　弘美	山口中央高



■ 平成9年度　ラ　ン　キ　ン　グ ■

（山口県バドミントン協会）

種別	順位	男子	女子
シングルス	1	永松勇一郎（下関東亜大）	土坂康子（下関下関大丸）
	2	安田耕司（宇部宇部興産）	西本慶子（下関東亜大）
	3	霜村栄一（下関東亜大）	三好紗也香（山口山口中央高）
	4	矢野潤（下関東亜大教）	三井寛子（山口大歳ク）
	5	沖貞雄（徳山徳山市役所）	村田浩子（下松日立笠戸）
	6	田上尚寛（下関東亜大）	稲子田朝美（山口大歳ク）
	7	藤田進（防府J T）	川田弘美（山口山口中央高）
	8	相本浩一（徳山徳山市役所）	村田みつえ（下松日立笠戸）
	9	米村房純（下関東亜大）	小林聖子（大津油谷愛好会）
	10	米川真司（下関東亜大）	内田玲子（下関下関大丸）
ダブルス	1	田上尚寛（下関東亜大） 永松勇一郎（下関東亜大）	三井寛子（山口大歳ク） 稲子田朝美（山口大歳ク）
	2	河野強志（下関下関南高教） 田内正彦（徳山徳山市役所）	星野洋子（光 H S C） 松尾真澄（光 H S C）
	3	高岡良樹（下松下松市役所） 米川真司（下関東亜大）	村田みつえ（下松日立笠戸） 中島亜紀子（下松日立笠戸）
	4	米川真司（下関東亜大） 楠智紀（下関東亜大）	村田みつえ（下松日立笠戸） 三井寛子（山口大歳ク）
	5	藤田進（防府J T） 河村則彦（下松日立笠戸）	内田玲子（下関下関大丸） 土坂康子（下関下関大丸）
	6	秋元直幸（徳山徳山市役所） 相本浩一（徳山徳山市役所）	三井寛子（山口大歳ク） 杉山裕美（山口大歳ク）
	7	重永光弘（下関重永石油） 矢野潤（下関東亜大教）	山本恵美（下関下関マンディーズ） 武田世津子（下関下関マンディーズ）
	8	尾上雄一（山口山口市役所） 岡健一（山口山口市役所）	川田弘美（山口山口中央高） 川副良子（山口山口中央高）
	9	青木厚樹（下関東亜大） 松田達也（下関東亜大）	嶋田文江（新南陽東ソー） 古城周子（徳山秋月クラブ）
	10	先川準樹（下関東亜大） 後藤徳明（下関東亜大）	井上雅美（下関下関大丸） 土坂康子（下関下関大丸）

記　録

昭和55年度　ランキング

男子単	1位	重永光弘（重永石油）
	2位	坂本賢二（宇部興産）
	3位	河添忠夫（宇部興産）
	4位	永冨正史（林兼造船）
	5位	末廣秀樹（宇部興産）
	6位	渡辺光男（林兼造船）
	7位	森本隆則（林兼造船）
	8位	加藤康広（三井石油化学）
女子単	1位	浜田真澄（日新製鋼）
	2位	長野光子（下関大丸）
	3位	三井房子（小郡クラブ）
	4位	井上雅美（下関大丸）
	5位	藤中修子（岩陽高校）
	6位	笠井早苗（岩陽高校）
	7位	嶋田文江（東洋曹達）
	8位	竹広和美（東洋曹達）
男子複	1位	重永・渡辺（重永石油・林兼造船）
	2位	森本・永冨（林兼造船）
	3位	辻中・高橋（山陽国策パルプ）
	4位	河添・坂本（宇部興産）
	5位	加藤・藤田（三井石油化学）
	6位	三井・松本（小郡クラブ）
	7位	杉原・山本（東亜大・下関協会）
	8位	久次・平川（フィーバー・東洋鋼鈑）
女子複	1位	浜田・山口（日新製鋼）
	2位	井上・中岡（下関大丸）
	3位	三井・高嶋（小郡クラブ）
	4位	今本・田中（日新製鋼）
	5位	笠井・岩尾（岩陽高校）
	6位	村重・三島（三井石油化学）
	7位	池田・庄司（下関市立大学）
	8位	嶋田・竹広（東洋曹達）

平成元年度　ランキング

男子単	1位	沖　貞雄（宇部興産）
	2位	重永光弘（重永石油）
	3位	高橋良明（山陽国策パルプ）
	4位	高橋和也（山陽国策パルプ）
	5位	田原暢也（於福中学校教員）
	6位	安田耕司（宇部興産）
	7位	加藤康広（三井石油化学）
	8位	遠藤正徳（須々万クラブ）
	9位	河村則彦（フィーバー）
	10位	森本孝敏（山陽国策パルプ）
女子単	1位	堀　悦子（国保連合会）
	2位	松尾真澄（光市クラブ）
	3位	河野淳子（小野田クラブ）
	4位	井上雅美（下関大丸）
	5位	沖村尚美（下関大丸）
	6位	松原昌代（武田薬品）
	7位	村田佐智子（大歳クラブ）
	8位	安田恭子（下松市クラブ）
	9位	稲月純子（下松市クラブ　）
	10位	國弘恭代（山口県庁）
男子複	1位	重永・渡辺（重永石油・林兼造船）
	2位	沖・安田（宇部興産）
	3位	高橋和・森本（山陽国策パルプ）
	4位	河村・藤田（フィバー・ライフィックス）
	5位	高橋和・柳　（山陽国策パルプ）
	6位	杉山・林　（吉見中教・JR幡生）
	7位	津守・田原（潟上中教・於福中教）
	8位	大内・吉川（宇部興産）
	9位	瀬戸・坂村（下関クラブ）
	10位	林・井上（ＪＲ幡生・吉見ク）
女子複	1位	山本・松尾（関門ク・光市ク）
	2位	俵山・松村（平生ク・田布施ク）
	3位	國弘・堀　（山口県庁・国保連合会）
	4位	河村・安田（下松市クラブ）
	5位	嶋田・古城（秋月クラブ）
	6位	井上・沖村（下関大丸）
	7位	松村・岡崎（防府ク・宇部シャトルズ）
	8位	西山・大和（ＦＣＣ）
	9位	三井・村田（大歳クラブ）
	10位	生田・河野（小野田クラブ）

■ 中国地区総合選手権大会優勝者 ■

第５回（昭和37年）
一般女子　単　江原　敏子
〃　複　江原　敏子・玉木　靖子

第７回（昭和39年）
一般女子　単　松村　和美

第８回（昭和40年）
一般女子　単　松村　和美
〃　複　江原　敏子・松村　和美

第９回（昭和41年）
一般女子　単　松村　和美

第11回（昭和43年）
一般女子　単　岡村知津子
〃　複　岡村知津子・後藤　妙子

第12回（昭和44年）
一般男子　複　末廣　秀樹・河添　忠夫

第13回（昭和45年）
一般女子　単　後藤　妙子
〃　複　後藤　妙子・永田美登里

第14回（昭和46年）
一般男子　単　河添　忠夫
〃　複　末廣　秀樹・河添　忠夫
一般女子　複　西村　和美・永田美登里

第16回（昭和48年）
一般男子　複　末廣　秀樹・河添　忠夫
40才以上男子　単　木山　茂雄

第17回（昭和49年）
一般男子　単　末廣　秀樹
〃　複　末廣　秀樹・河添　忠夫
40才以上男子　単　木山　茂雄

第18回（昭和50年）
一般男子　単　坂本　賢二
〃　複　末廣　秀樹・河添　忠夫
一般女子　単　丸山　富江
〃　複　丸山　富江・永田美登里
40才以上男子　単　木山　茂雄

第19回（昭和51年）
一般男子　複　末廣　秀樹・河添　忠夫
40才以上男子　単　木山　茂雄
〃　複　木山　茂雄・咲賀　正則

第20回（昭和52年）
30才以上男子　単　林　厚志
40才以上男子　単　川岡　智
〃　複　木山　茂雄・川岡　智

第21回（昭和53年）
30才以上男子　単　林　厚志
〃　複　林　厚志・宮岡　康臣
40才以上男子　単　木山　茂雄

第22回（昭和54年）
40才以上男子　単　川岡　智
〃　複　川岡　智・河野　耕司
50才以上男子　複　野口　健二・玉井　彦自

第23回（昭和55年）
一般男子　単　坂本　賢二
40才以上男子　単　木山　茂雄
〃　複　木山　茂雄・藤元　繁樹

第25回（昭和57年）
一般女子　単　浜田　真澄
30才以上男子　単　林　厚志
40才以上男子　単　杉原　哲彦
〃　複　杉原　哲彦・山内　孝志

第26回（昭和58年）
50才以上男子　複　野口　健二・田中　伸

第27回（昭和59年）
30才以上男子　複　末廣　秀樹・河添　忠夫
50才以上男子　単　木山　茂雄

第28回（昭和60年）
30才以上男子　複　末廣　秀樹・河添　忠夫
40才以上男子　単　林　厚志
50才以上男子　単　木山　茂雄

第29回（昭和61年）
30才以上男子　複　加藤　康宏・古賀　信之
40才以上男子　単　林　厚志

50才以上男子　単　木山　茂雄

第30回（昭和62年）

30才以上男子　複　加藤　康宏・古賀　信之
40才以上男子　単　三井　裕
〃　複　田中　博美・照永　福三
50才以上男子　単　木山　茂雄
〃　複　野口　健二・日柳　実

第31回（昭和63年）

40才以上男子　単　三井　裕
〃　複　嘉村　悦男・三井　裕
50才以上男子　複　蔵成　秋次・松永　正敏

第32回（平成元年）

30才以上男子　単　加藤　康宏
40才以上男子　複　田中　博美・照永　福三
50才以上男子　複　蔵成　秋次・松永　正敏

第33回（平成２年）

一般女子　単　堀　悦子
30才以上男子　単　高橋　良明
〃　複　加藤　康宏・古賀　信之
40才以上男子　単　宮岡　康臣
〃　複　嘉村　悦男・三井　裕
50才以上男子　複　木山　茂雄・三分一重厚

第34回（平成３年）

30才以上男子　複　藤田　進・河村　則彦
40才以上男子　単　宮岡　康臣
〃　複　大段　宏・久次　優

第35回（平成４年）

40才以上男子　複　松田　仁・末廣　秀樹

第37回（平成６年）

40才以上男子　複　松田　仁・末廣　秀樹
50才以上男子　複　林　厚志・宮岡　康臣

第38回（平成７年）

一般男子　複　河野　強志・田内　正彦
30才以上男子　複　藤田　進・河村　則彦
40才以上男子　複　金子　隆志・広田　喜信
50才以上男子　単　宮岡　康臣
〃　複　林　厚志・宮岡　康臣

第39回（平成８年）

一般男子　複　河野　強志・田内　正彦
30才以上男子　複　藤田　進・河村　則彦
40才以上男子　複　石田　純一・田村　敦
50才以上男子　単　宮岡　康臣
〃　複　林　厚志・宮岡　康臣

第40回（平成９年）

一般男子　複　田上　尚寛・永松勇一郎
30才以上男子　複　藤田　進・河村　則彦
40才以上男子　複　高橋　良明・重永　光弘
50才以上男子　単　三井　裕
〃　複　中村　拓男・吉田　正弘

㈱第１回～第37回大会は中国社会人バドミントン選手権大会の記録

■ 全日本シニア大会優勝・準優勝者 ■

第７回（平成２年）　30男単　準優勝　重永光弘
50男単　準優勝　杉原哲彦

第８回（平成３年）　50男単　優勝　杉原哲彦

第９回（平成４年）　50男単　優勝　杉原哲彦

第14回（平成９年）　50女複　優勝　松村和美
（パートナー　東条フミ子　香川）

■ 中国教職員バドミントン大会優勝者 ■

○第１回大会　平成３年　米子市
団体戦　第１位　山口県
個人戦優勝者　４０単　三井　裕
４０複　三井　裕　松本克芳

○第２回大会　平成４年　松江市
団体戦　第１位　山口県
個人戦優勝者　一般女子単　鶴田恵美子
３０女子単　江夏久美子
４０男子単　福永正一
４０男子複　松本克芳　福永正一
５０男子複　津守幸介　杉原哲彦

○第３回大会　平成５年　山口市
団体戦　第１位　山口県
個人戦優勝者　一般男子単　田内正彦
３０男子単　津守真治
３０女子複　江夏久美子　高木恵子
４０男子複　三井　裕　石田純一
５０男子複　杉原哲彦　沢田恭治

○第４回大会　平成６年　広島市
個人戦優勝者　４０男子単　福田光博
４０男子複　福永正一　福田光博

○第５回大会　平成７年　岡山市
団体戦　第１位　山口県
個人戦優勝者　一般女子単　大平聖子
３０女子単　三井広子
３０女子複　高木恵子　八次万子
４０男子単　福田光博
４０男子複　松本克芳　福田光博

○第６回大会　平成８年　米子市
団体戦　第１位　山口県
個人戦優勝者　３０女子単　八次万子
４０男子複　村田泰己　三奈木正紀

○第７回大会　平成９年　松江市
個人戦優勝者　一般女子単　稲月純子
３０女子複　稲月純子　山本愛枝
４０男子複　福永正一　福田光博
５０男子単　三井　裕

■ 中国中学校バドミントン選手権大会成績(山口県関係) ■

1回(S．55)	男子団体　③須々万	男子単　①沖　貞雄(須々万)	男子複　①高橋和也・松原康則(須々万)
2回(S．56)	男子団体　③日　新		男子複　③中村浩史・上野順一(日　新)
3回(S．57)	男子団体　③須々万	男子単　①田中伸幸(須々万) ③尾上雄一(日　新)	男子複　①河野強志・広谷　勲(須々万) ②古川一登・中村篤史(彦　島)
4回(S．58)	男子団体　③須々万	男子単　①田内正彦(須々万) ②平上満嘉(日　新) 女子単　②村田浩子(須々万)	男子複　②村田英範・嘉津宏司(須々万) ③岸村智紀・津村剛志(須々万)
5回(S．59)	男子団体　③彦　島	男子単　①金子義信(川　中)	男子複　②岡村克紀・白石健司(川　中)
6回(S．60)	男子団体　③須々万	男子単　③河本隆久(太　華)	男子複　②佐藤圭治・藤井謙治(須々万)
7回(S．61)			男子複　②倉永敏史・平岡　透(彦　島)
8回(S．62)	男子団体　①浅　江 ③彦　島	女子単　③村田悦子(須々万)	男子複　①秋元直幸・山東　寿(須々万) ③岡田裕次・徳重成顕(大　殿)
9回(S．63)		女子単　②佐藤純子(須々万)	男子複　③伊川大次郎・宇津巻幸一(宮野)
10回(H．1)	男子団体　①須々万 女子団体　②大　殿	女子単　①村田みつえ(　串　)	男子複　①陸田健二・森広浩二(須々万)
11回(H．2)	男子団体　①垢　田 ②潟　上 女子団体　③大　殿	男子単　③長広陽介(潟　上)	男子複　①金山　敬・波田　晃(垢　田) 女子複　②前田奈美・小野妙子(大　殿)
12回(H．3)	男子団体　③垢　田 ③末　武 女子団体　③大　殿	男子単　①増田敏雄(末　武)	男子複　②山田　潤・宮崎宏志(垢　田) ③瀬良　龍・菅原真一(潟　上) 女子複　②宮原妙子・脇　由子(大　殿)
13回(H．4)	男子団体　①末　武	男子単　①増田敏雄(末　武) ②長岡尚樹(鴻　南) 女子単　③属　一枝(大　殿)	男子複　③日塚洋一・濱田享幸(末　武)
14回(H．5)	男子団体　②末　武 ③宮　野 女子団体　③大　殿	男子単　①米川真司(下　松) ③藤井経久(鴻　南)	男子複　①石田健太・長嶺　宙(末　武) ③岡本浩司・後小路武(潟　上) 女子複　③林　弘美・廣中　愛(大　殿)
15回(H．6)	女子団体　③大　殿		女子複　③米澤華奈美・三好紗也香(大殿)
16回(H．7)			女子複　①森永裕美・川田弘美(鴻　南)
17回(H．8)	女子団体　①鴻　南	男子単　③坂本忠昭(宮　野) 女子単　③河上陽子(鴻　南)	男子複　②岩田高幸・山根正明(鴻　南) 女子複　①三輪誓子・大西美香(大　殿)
18回(H．9)	女子団体　③大　殿 ③久　保	女子単　③末永倫子(大　殿)	

■ 山口県中学校バドミントン選手権大会成績 ■

男子	団体		シングルス		ダブルス	
	優勝	2位	優勝	2位	優勝	2位
1回	須々万	川中	沖（須々万）	坂本（日新）	高橋・松原（須々万）	藤田・小河（川中）
2回	日新	須々万	田中（須々万）	平上（日新）	中村・上野（日新）	河野・広谷（須々万）
3回	須々万	川中	田中（須々万）	尾上（日新）	河野・広谷（須々万）	中村・古川（日新）
4回	須々万	川中	田中（須々万）	平上（日新）	村田・嘉津（須々万）	岸村・津村（須々万）
5回	須々万	彦島	田中（須々万）	金子（川中）	岡村・白石（川中）	中村松尾（彦島）
6回	須々万	日新	河本（太華）	虎谷（大殿）	藤井・佐藤（須々万）	藤井・井上（浅江）
7回	垢田	彦島	遠藤（須々万）	松岡（垢田）	倉永・平岡（彦島）	品川・山村（垢田）
8回	浅江	宮野	生島（太華）	藤原（垢田）	秋元・山東（須々万）	友口・藤本（浅江）
9回	宮野	彦島	永尾（須々万）	伊藤（宮野）	山田・松岡（垢田）	伊川・宇津巻（宮野）
10回	須々万	堀	河村（須々万）	吉本（宮野）	睦田・森広（須々万）	藤本・藤井（須々万）
11回	垢田	潟上	長広（潟上）	河村（末武）	内田・中村（垢田）	金山・波田（垢田）
12回	垢田	末武	増田（末武）	江本（垢田）	瀬良・菅原（潟上）	末岡・三井（鴻南）
13回	末武	宮野	増田（末武）	長岡（鴻南）	日塚・田（末武）	藤井・白石（垢田）
14回	末武	潟上	米川（下松）	藤井（鴻南）	石田・長嶺（末武）	岡本・後小路（潟上）
15回	宮野	鴻南	中原（鴻南）	石田（末武）	西村・光永（垢田）	村松・宮岡（宮野）
16回	宮野	大殿	石田（末武）	立石（垢田）	久野・脇山（末武）	工野・片山（宮野）
17回	鴻南	潟上	水津（大華）	坂本（宮野）	岩田・山根（鴻南）	瀬戸・片山（大殿）
18回	宮野	大殿	水津（大華）	沖本（末武）	常久・長廣（潟上）	池田・宮原（大殿）
19回	末武	大殿	竹光（末武）	斉藤（潟上）	浅原・磯部（二島）	米澤・佐々木（大殿）

女子	団体		シングルス		ダブルス	
	優勝	2位	優勝	2位	優勝	2位
1回	玄洋	川中	矢野（玄洋）	山本（玄洋）	大藤・藤村（川中）	原・諸戸（川中）
2回	川中	大殿	俵（川中）	渡辺（川中）	徳本・堀（大殿）	酒田・村田（川中）
3回	須々万	大殿	村田（須々万）	泉田（玄洋）	遠藤・末政（須々万）	鹿本・藤本（大殿）
4回	須々万	安岡	村田（須々万）	松尾（彦島）	鹿本・高山（大殿）	鶴田・藤本（安岡）
5回	須々万	大殿	浦吉（川中）	犬塚（日新）	藤井・末政（須々万）	内田・西田（安岡）
6回	大殿	安岡	浦吉（川中）	山東（須々万）	矢野・江本（大殿）	首藤・中原（安岡）
7回	大殿	安岡	西町（垢田）	藤井（須々万）	古里・原田（大殿）	吉川・福田（浅江）
8回	垢田	熊毛	西町（垢田）	村田（須々万）	徳本・貞森（大殿）	石川・山本（大殿）
9回	宮野	大殿	佐藤（須々万）	村田（　　）	田中・井上（大殿）	加藤・木戸（彦島）
10回	大殿	須々万	村田（　　）	三井（鴻南）	山根・橋本（大殿）	和田原（宮野）
11回	大殿	須々万	久保田（須々万）	中島（太華）	小野・前田（大殿）	秋元・山崎（須々万）
12回	大殿	浅江	杉村（須々万）	蔵成（平川）	宮原・脇（大殿）	田中・縄田（須々万）
13回	大殿	山の田	岡崎（浅江）	弧（大殿）	谷川・吉岡（鴻南）	宮崎・和田（山の田）
14回	浅江	大殿	河邨（　　）	矢田部（鴻南）	松西・小野原（大殿）	林・廣中（大殿）
15回	大殿	末武	吉川（末武）	稲子田（鴻南）	米澤・三好（大殿）	脇山・宮島（末武）
16回	大殿	鴻南	中村（末武）	中邑（大殿）	川田・森永（鴻南）	伊藤・大村（大殿）
17回	鴻南	大殿	藤井（末武）	中末（大殿）	三輪・大西（大殿）	川副・中野（鴻南）
18回	久保	大殿	中村（常盤）	末永（大殿）	山崎・竹内（常盤）	久次・松繁（久保）
19回	浅江	久保	松繁（久保）	松尾（浅江）	宇多村・松岡（大殿）	山崎・竹内（常盤）

■ 山口県小学生バドミントン大会成績 ■

（１位のみ）

	男子単	男子複	女子単	女子複
第１回（S59）	棟居秀行（下松木曜会）	生島英治・川崎政之（久米小）	山内映美（柳井日積）	重枝奈美江・木村真澄（柳井日積）
第２回（S60）	沖山勝美（柳井日積）	大田了啓・松中誉樹（柳井日積）	山内雅恵（柳井日積）	重枝奈美江・木村真澄（柳井日積）
第３回（S61）	柳　孝三（下松木曜会）	中山　整・叶井孝博（下松木曜会）	山内雅恵（柳井日積）	木村真澄・山野井優子（柳井日積）
第４回（S62）	松中誉樹（柳井日積）	大田啓文・山野井幸治（柳井日積）	山内雅恵（柳井日積）	西村知加子・松中満美（柳井日積）
第５回（S63）	山野井幸治（柳井日積）	河津雅広・沖原雅和（柳井日積）	松中満美（柳井日積）	田村恭子・寒竹優子（下松木曜会）
第６回（H１）	増田敏雄（下松木曜会）	浜田享幸・日塚洋一（下松木曜会）	松中満美（柳井日積）	河村智子・中島麻奈美（下松木曜会）
第７回（H２）	沖原雅和（柳井日積）	米川真司・石田健太（下松木曜会）	青山祐子（下松木曜会）	田中末香・青見真紀（柳井伊保庄）
第８回（H３）	石山健太郎（下松木曜会）	林　純自・往長孝治（下松木曜会）	高木理江（宇部バド教室）	原田祐子・古川由紀（下松木曜会）
第９回（H４）	柳本純平（久米小）	石田剛史・岩本健一郎（下松木曜会）	高木理江（宇部バド教室）	青柳てるや・原谷みち代（柳井日積）
第10回（H５）	沖原健司（柳井日積）	水津諒一・高橋健二（久米小）	藤井麻美（徳山桜木）	花田優子・山賀由佳里（下松木曜会）
第11回（H６）	水津諒一（久米小）	河本裕樹・河村　允（柳井日積）	河近裕子（柳井日積）	吉本理恵・有田美恵子（柳井伊保庄）
第12回（H７）	竹光章浩（下松木曜会）	広中良章・好村正輝（柳井日積）	梅田京子（桜木バド）	山崎志帆・竹内沙織（宇部ジュニア）
第13回（H８）	山縣圭太（宇部ジュニア）	利行謙一・久次雄一（下松木曜会）	松尾杏澄（下松木曜会）	福田絵理子・相本真紀（新南陽）
第14回（H９）	松尾光平（下松木曜会）	山平康太・河野亮輔（日積・宇部）	末長　南（光ジュニア）	実近愛子・青見知英（柳井日積）

■ 全国高等学校総合体育大会出場校・出場者一覧 ■

			団体	シングルス	シングルス	ダブルス	ダブルス
1回	昭和25年	男子	参加なし				
		女子	参加なし				
2回	昭和26年	男子	参加なし				
		女子	参加なし				
3回	昭和27年	男子	山口				
		女子	山口				
4回	昭和28年	男子	参加なし				
		女子	参加なし				
5回	昭和29年	男子	参加なし				
		女子	参加なし				
6回	昭和30年	男子	山口	長峰精一郎(山口)	山本準(山口)	山本・森近(山口)	栗崎・松永(山口)
		女子	下関南	秋山瑞穂(下関南)	西村美保子(下関南)	秋山・松崎(下関南)	西村・谷野(下関南)
7回	昭和31年	男子	柳井商工	富永武(柳井商工)	鍬原栄治(柳井商工)	久保田・堀(柳井商工)	富永・鍬原(柳井商工)
		女子	参加なし	———	———	———	———
8回	昭和32年	男子	山口	宮内達雄(山口)	———	宮内・泉(山口)	———
		女子	柳井商工	吉野早智子(柳井商工)	———	吉野・藤井(柳井商工)	———
9回	昭和33年	男子	山口	———	———	———	———
		女子	徳山	———	———	———	———
10回	昭和34年	男子	柳井商工	小原重信(山口)	吉光忠義(柳井商工)	山崎・松岡(山口)	岩本・吉本(柳井商工)
		女子	徳山	光田公子(徳山)	明石礼子(徳山)	小林・武信(徳山)	山本・鳥羽(徳山)
11回	昭和35年	男子	山口	三島俊雄(山口)	右田浩司(山口)	三島・右田(山口)	横田・倉橋(山口)
		女子	徳山	池田慶子(徳山)	———	数井・光田(徳山)	———
12回	昭和36年	男子	山口	山田熙(山口)	大内輝男(山口)	山田・田中(山口)	大内・吉岡(山口)
		女子	参加なし	上津原喜美江(下関南)	———	上津原・堀田(下関南)	———
13回	昭和37年	男子	山口	吉岡淳(山口)	林道彦(山口)	吉岡・林(山口)	末廣・右田(山口)
		女子	徳山	山崎和子(徳山)	野村靖子(徳山)	野村・石田(徳山)	山崎・古谷(徳山)
14回	昭和38年	男子	柳井商工	右田光弘(山口)	二宮修三(柳井商工)	二宮・高橋(柳井商工)	右田・原田(山口)
		女子	柳井商工	貞安百合子(柳井商工)	守田友子(下関南)	貞安・川向(柳井商工)	伊藤・藤井(徳山)
15回	昭和39年	男子	山口	西本満晴(柳井商工)	塩谷俊次郎(柳井商工)	熊丸・松下(山口)	末廣・野村(山口)
		女子	徳山	川向京子(柳井商工)	原田光子(徳山)	川向・藤田(柳井商工)	原田・藤井(徳山)
16回	昭和40年	男子	柳井商工	松下健二(山口)	河添忠夫(柳井商工)	西本・宮崎(柳井商工)	石川・河添(柳井商工)
		女子	徳山	岸本邦子(高森)	木下美津子(下関南)	藤井・高松(徳山)	———
17回	昭和41年	男子	参加なし	秋本清(山口)	———	———	———
		女子	下関南	西村和美(下関南)	福好雅子(下関南)	西村・角(下関南)	永田・福好(下関南)
18回	昭和42年	男子	参加なし	宮田泰典(柳井商工)	萩原進(柳井商工)	宮田・萩原(柳井商工)	———
		女子	下関南	松田文子(下関南)	土生由子(下関南)	渡辺・風間(下関南)	松田・土生(下関南)
19回	昭和43年	男子	柳井商工	友弘純次(柳井商工)	中原清隆(柳井商工)	堀江・友弘(柳井商工)	中原・兼森(柳井商工)
		女子	下関南	柳村由紀子(柳井商工)	高橋由美(下関南)	柳村・釜山(柳井商工)	高橋・藤谷(下関南)
20回	昭和44年	男子	下関商業	坂本賢二(柳井商工)	利行好男(柳井商工)	和田・吉村(下関商業)	松田・樋口(下関中央工業)
		女子	下関南	浜田理恵子(下関南)	西田茂子(長府)	永田・浜田(下関南)	西田・藤本(長府)
21回	昭和45年	男子	下関商業	坂本賢二(柳井商工)	富田正四郎(下関中央工業)	坂本・中原(柳井商工)	辻中・河村(山口)
		女子	高森	原田裕巳子(長府)	中山美代子(長府)	田中・野島(高森)	時田・山崎(高森)
22回	昭和46年	男子	下関商業	城保彦(柳井商工)	沖堀保雄(柳井商工)	城・沖堀(柳井商工)	上林・西本(柳井商工)
		女子	長府	磯部純子(高森)	門田満恵(長府)	渡部・中村(下関南)	門田・末岡(長府)
23回	昭和47年	男子	下関商業	竹中信行(下関中央工業)	橋本光義(下関商業)	竹中・渡辺(下関中央工業)	上林・末長(柳井工)
		女子	下関商業	富盛晶子(長府)	浅繁京子(長府)	富盛・浅繁(長府)	島田・大石(下関商業)
24回	昭和48年	男子	下関中央工	永富正史(下関中央工業)	山本昭生(下関中央工業)	永富・山本(下関中央工業)	金田・上利(下関中央工業)
		女子	下関南	西川都子(長府)	武内睦美(下関商業)	多和・青木(下関南)	山内・武内(下関商業)

記　録

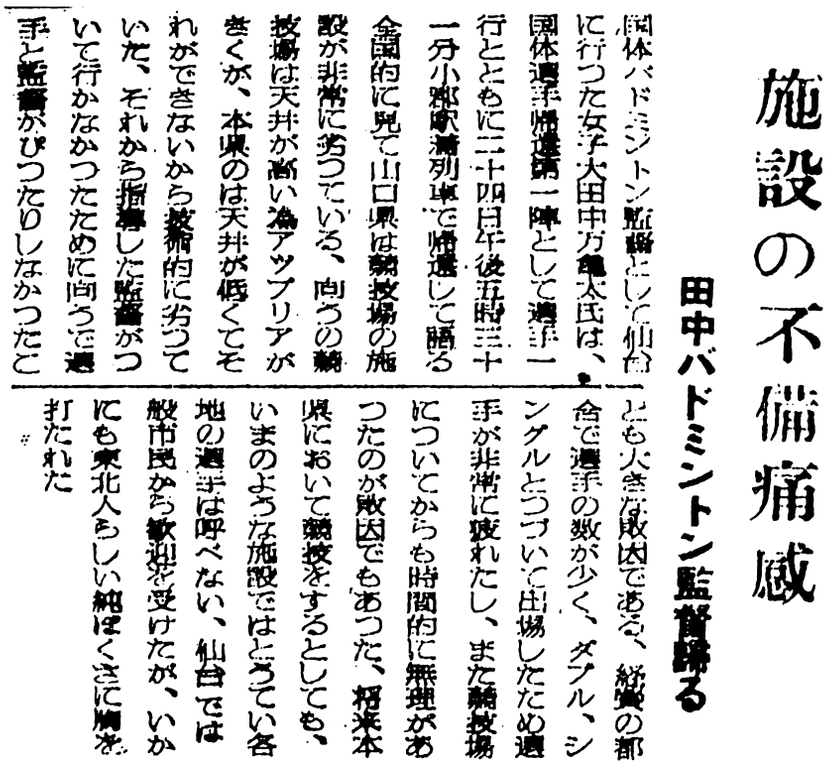
			団体	シングルス	シングルス	ダブルス	ダブルス
25回	昭和49年	男子	下関商業	重永光弘(下関商業)	小林実(山口)	水戸・重永(下関商業)	吉村・白石(下関商業)
		女子	徳山	田上裕子(下関南)	穂積繁子(下関商業)	竹広・大庭(徳山)	田上・加戸(下関南)
26回	昭和50年	男子	下関中央工	白石亘(下関商業)	瀬戸清志(下関中央工業)	瀬戸・竹中(下関中央工業)	白石・増山(下関商業)
		女子	下関商業	市野豊子(下関商業)	川上美由紀(下関商業)	市野・川上(下関商業)	柿本・楠(早鞆)
27回	昭和51年	男子	柳井工	宮川真二(下関中央工業)	平川京澄(柳井工)	平川・内藤(柳井工)	坂村・戸沢(下関中央工業)
		女子	下関南	野口奈津美(下関商業)	楠幸恵(早鞆)	楠・山村(早鞆)	河野・林(下関南)
28回	昭和52年	男子	柳井工	喜良明文(柳井工)	川原美信(柳井工)	喜良・川原(柳井工)	内田・山村(山口)
		女子	下関南	浜田真澄(柳井工)	西川すが子(下関商業)	上利・穂積(下関商業)	國弘・横山(山口)
29回	昭和53年	男子	山口	藤井明夫(山口)	岸田潤三(山口)	藤井・西村(山口)	岸田・吉村(山口)
		女子	下関南	井上雅美(下関南)	平井幸恵(下関南)	須田・中岡(下関南)	井上・平井(下関南)
30回	昭和54年	男子	下関中央工	伊藤宏(山口)	大畑隆義(下関中央工業)	伊藤・原田(山口)	大畑・金子(下関中央工業)
		女子	下関南	今本真利子(柳井工)	小林登世子(下関南)	今本・広兼(柳井工)	川越・津村(長府)
31回	昭和55年	男子	山口	村上弘明(柳井工)	内山秀樹(柳井工)	村上・内山(柳井工)	松木・本間(山口)
		女子	早鞆	中原弘子(柳井工)	岡村可奈江(早鞆)	中村・乾(下関南)	田畑・福島(下関南)
32回	昭和56年	男子	柳井工	杉山覚(山口)	田原暢也(山口)	森永・尾園(柳井工)	末長・高橋(柳井工)
		女子	岩陽	藤中修子(岩陽)	笠井早苗(岩陽)	笠井・岩尾(岩陽)	藤中・友兼(岩陽)
33回	昭和57年	男子	柳井工	沖貞雄(柳井工)	田原暢也(山口)	沖・高橋(柳井工)	田原・三戸(山口)
		女子	岩陽	守川洋子(岩陽)	溝辺恵子(岩陽)	守川・溝辺(岩陽)	中司・高月(下関南)
34回	昭和58年	男子	柳井工	高橋和也(柳井工)	沖貞雄(柳井工)	沖・高橋和(柳井工)	高橋兼・田中(柳井工)
		女子	下関南	小笠原和子(岩陽)	俵まり(下関南)	俵・渡辺(下関南)	西田・清水(徳山)
35回	昭和59年	男子	柳井工	田中伸幸(柳井工)	河野強志(徳山)	山崎・田中(柳井工)	河野・広谷(徳山)
		女子	下関南	俵まり(下関南)	渡辺真理子(下関南)	俵・渡辺(下関南)	石川・村田(山口)
36回	昭和60年	男子	柳井工	河野強志(徳山)	田中信幸(柳井工)	田中・森本(柳井工)	河野・広谷(徳山)
		女子	下関南	泉田康子(下関西)	村田浩子(新南陽)	有馬・末政(徳山)	沖村・楠瀬(長府)
37回	昭和61年	男子	柳井工	内冨進(柳井工)	田内正彦(新南陽)	内冨・金子(柳井工)	曽我部・寺尾(下関中央工業)
			下関中央工	近藤正俊(柳井工)	平上満嘉(下関中央工業)	平上・金子(下関中央工業)	吉村・白石(下関商業)
		女子	高森	村田浩子(新南陽)	田辺佳代(高森)	田辺・松原(高森)	藤井・叶井(高森)
			新南陽	藤井孝子(高森)	松原久美子(高森)	田中・鶴田(下関南)	村田・西村(新南陽)
38回	昭和62年	男子	柳井工	柳宏幸(柳井工)	田中貴光(柳井工)	吉岡・柳(柳井工)	田中・近藤(柳井工)
		女子	高森	藤井孝子(高森)	末政由美子(新南陽)	藤井・寺嶋(高森)	内田・槙埜(下関南)
39回	昭和63年	男子	柳井工	柳宏幸(柳井工)	吉岡哲夫(柳井工)	吉岡・柳(柳井工)	内冨・遠藤(柳井工)
		女子	高森	藤井美佐子(高森)	山東美穂(徳山)	藤井・西町(高森)	山東・工藤(徳山)
40回	平成元年	男子	柳井工	棟居秀行(柳井工)	遠藤正徳(柳井工)	遠藤・木村(柳井工)	棟居・武内(柳井工)
		女子	高森	藤井美佐子(高森)	西町由紀(高森)	藤井・西町(高森)	清田・松野(下関商業)
41回	平成2年	男子	柳井工	棟居秀行(柳井工)	武内敏寿(柳井工)	棟居・武内(柳井工)	秋元・生島(徳山工)
		女子	高森	西町由紀(高森)	村田みつえ(高森)	西町・村田み(高森)	村田悦・増田(高森)
42回	平成3年	男子	柳井工	柳孝三(柳井工)	相本浩一(柳井工)	相本・中山(柳井工)	森野・山根(下関中央工業)
		女子	柳井工	木村真澄(柳井工)	村田みつえ(高森)	木村・中島(柳井工)	桂・村田(高森)
43回	平成4年	男子	下関中央工	柳孝三(柳井工)	中山整(柳井工)	柳・中山(柳井工)	内田・中村(下関中央工業)
		女子	柳井工	村田みつえ(高森)	木村真澄(柳井工)	木村・中島(柳井工)	山野井・池上(柳井工)
44回	平成5年	男子	下関中央工	中村淳一(下関中央工業)	内田英樹(下関中央工業)	内田・中村(下関中央工業)	吉村・末岡(柳井工)
		女子	山口中央	松田亜希子(長府)	小野妙子(山口中央)	小野・前田(山口中央)	松田・伊藤(長府)
45回	平成6年	男子	柳井工	山野井幸治(柳井工)	米川真司(柳井工)	山野井・米川(柳井工)	山田・松原(下関中央工業)
		女子	柳井工	杉村紀子(華陵)	蔵成路恵(山口中央)	吉村・松中(柳井工)	蔵成・阿部(山口中央)
46回	平成7年	男子	下関中央工	立石恵介(下関中央工業)	長岡尚樹(西京)	立石・山元(下関中央工業)	長岡・青木(西京)
		女子	柳井工	松中満美(柳井工)	西本慶子(柳井工)	松中・西本(柳井工)	諏佐・谷川(中村女子)
47回	平成8年	男子	野田学園	米川真司(柳井工)	藤井経久(山口)	米川・中本(柳井工)	藤井・中原(山口)
		女子	柳井工	西本慶子(柳井工)	宮崎彩子(下関南)	西本・河邨(柳井工)	有森・青見(柳井工)
48回	平成9年	男子	西京	中原利通(山口)	青木昌彦(西京)	村松・宮岡(野田学園)	渡邊・小西(下関中央工業)
		女子	中村女子	三好紗也香(山口中央)	川田弘美(山口中央)	稲子田・森永(中村女子)	三好・川田(山口中央)

■ 山口県家庭婦人バドミントン連盟結成記念大会成績 ■

回	会　場	開催日	順位	A　級	B　級	C　級
1	防　府	1．9．27	1位	松　村・俵　山（田布施）	藤　川・大　坪（下　松）	森　・新　倉（山　口）
			2位	松　村・三　井（防　府）	肥　塚・岸　村（徳　山）	衛　藤・高　石（徳　山）
2	宇　部	2．9．3	1位	上　野・岡　崎（宇　部）	立　石・森　脇（新南陽）	森　脇・　原　（新南陽）
			2位	松　村・三　井（防　府）	中　杉・木　村（宇　部）	天　野・宮　崎（宇　部）
3	防　府	3．10．4	1位	山　本・松　尾（　光　）	今　西・上　原（宇　部）	石　田・村　上（山　口）
			2位	村　上・長　嶺（下　松）	村　田・斉　藤（山　口）	玉　井・山　県（下　松）
4	下　松	4．9．24	1位	山　本・松　尾（　光　）	香　井・石　井（下　松）	井　上・谷　岡（平　生）
			2位	松　村・久　野（下　松）	幡　部・浅　田（徳　山）	杉　村・　沖　（徳　山）
5	田布施	5．10．1	1位	松　村・俵　山（田布施）	田　村・谷　岡（平　生）	平　山・木　戸（熊　毛）
			2位	松　村・久　野（下　松）	黒　田・由　良（田布施）	吉　永・藤　田（周　東）
6	下　関	6．10．6	1位	松　村・久　野（下　松）	伊　藤・岡　村（下　関）	西　・平　野（徳　山）
			2位	山　本・武　田（下　関）	安　部・星　野（宇　部）	田　原・高　藤（　萩　）
7	由　宇	7．10．24	1位	松　尾・合　田（　光　）	惣　田・西　本（田布施）	兼　重・久木野（岩　国）
			2位	松　村・松　村（防　府）	三　隅・藤　本（山　口）	吉　松・山　根（田布施）
8	岩　国	8．10．22	1位	松　村・俵　山（田布施）	松　村・石　井（防　府）	赤　尾・橋　本（岩　国）
			2位	上　重・義　松（田布施）	三　輪・藤　本（山　口）	河　井・亀　島（岩　国）
9	新南陽	9．10．1	1位	河　村・松　村（下　松）	森　口・土　本（徳　山）	佐　伯・尾　崎（徳　山）
			2位	古　城・山　本（徳　山）	吉　次・溝　部（防　府）	岡　村・三　浦（　光　）
10	山　口 記念大会	10．10．31 ～ 11．1	10周年記念大会としてオープン団体戦を開催する。 ☆1部3位　新南陽・下関マンディーズ ☆2部3位　防府同好会・ふしの ☆3部3位　下　松			

天井の高い体育館が欲しい

昭和27年頃の山口県内
本格的な体育館皆無



施設の不備痛感

田中バドミントン監督帰る

国体バドミントン監督として仙台に行つた女子大田中万亀太氏は、国体選手帰還第一陣として選手一行とともに二十四日午後五時三十一分小郡駅着列車で帰還して語る

全国的に見て山口県は競技場の施設が非常に劣つている、向うの競技場は天井が高い為アップリアがきくが、本県のは天井が低くてそれができないから技術的に劣つていた、それから指導した監督がついて行かなかつたために向うで選手と監督がぴつたりしなかつたことも大きな敗因である、経費の都合で選手の数が少く、ダブル、シングルとつづいて出場したため選手が非常に疲れたし、また競技場についてからも時間的に無理があつたのが敗因でもあつた、将来本県において競技をするとしても、いまのような施設ではどうでい各地の選手は呼べない、仙台では般市民から歓迎を受けたが、いかにも東北人らしい純ぼくさに胸を打たれた

防長新聞の記事

バドミントン競技創始の頃、その殆どは学校の講堂が会場であった。従って、天井の高さはせいぜい６ｍ、ハイクリアーが中々使えない時代であった。

記事は、宮城国体に参加し帰還し、県の施設の貧弱さを防長新聞記者に語った田中萬亀太元副会長の弁。

氏はその後勤務先の県立山口女子短期大学の体育館建設に尽力された。

あとがき

■「沿革史をつくろう」県協会の会議のたびに在任中元副会長田中萬亀太氏が力説されたことであった。バドミントン協会創始の頃から携わって苦労された方の意見として今思えば重みのあることであった。
その後、氏は山口市スポーツ百年史などに断片的にその歴史を記述され残されただけで他界された。

■協会結成50周年を迎えるに当たって、協会もようやく腰をあげた。平成８年度山口県バドミントン協会総会でその発行が決定され、平成９年６月常務理事会（第１回編集委員会）で、その大綱と編集委員が決定した。

■編集委員に委嘱された人もそれぞれ仕事があり、また、県下各地に住んでおり、中々一緒に集まって作業することができなかった。そこで作業分担を明確にして、各々の作業をその責任において仕事の合間にこなすことにした。
そうした作業を始めたのが平成９年の夏のことであった。

■ここで難題が持ち上がった。創立から山口国体の昭和38年までの資料が全くなく、沿革史が綴れないということであった。
そこで一計を案じ、県立山口図書館に保存されている当時の防長新聞をくって関連記事を探すことにした。通算７日間通い、関連記事からその動きをつかんだ結果が沿革史の昭和38年以前の殆どの記述である。この作業には、岩本達夫前山口市バドミントン協会長、藤井豊秋同現会長にご協力いただいた。

■市郡協会の歩みは、現理事長を中心に執筆いただいた。大勢の人が集まって、その足跡の記録を探しながら記述されたところもあったときく。この機会に市郡協会の歴史を残せたことも大きかったと思っている。
専門部等の歩みは現専門部の部長が執筆した。その生い立ちと現況が後世に残せた意義ははかり知れないと自負している。

■寄稿の団体は学校９校、職域２から原稿をいただきそれぞれの歩みを綴ってもらった。その歴史を辿るのに、創立の古いところは、大変だったようである。
主な成績のみに終わったところもあるが、「関係者に問い合わせてやっとできました」と原稿を届けて下さった方もいた。編集者として大変うれしいことであった。

■寄稿個人は16人から玉稿をいただいた。これまで活躍された苦労話が記録に残せて満足している。全中、インターハイ、県内初の日本リーグ、全国教職員大会などの開催顛末は記録に残せたが、残念ながら山口国体の記録は掲載できなかった。大変心残りである。

■記録は諸規程のほかに登録者数、国体選手名簿、各大会優勝者等大学関係の記録以外当初意図したものは全部収録できたと思う。
これは、担当した末廣秀樹、松本克芳、久次優編集委員らの地道な調査の結果であった。

■50年史の装丁は尾上忠編集委員の手によるものである。裏面の山口県バドミントン協会シンボルマークも同氏の意匠によるものであり、50周年を迎えるにあたって初めて制定されたものである。

■それにしても記録の散逸は早いものである。編集中まとまったものには一切お目にかかれなかった。個人が持っている記録と見聞をつなぎ合わせて、難産に難産を重ねてやって弱々しい産声をあげたというのが正直な実感である。今改めて思うことは50年を一気に辿ることは無理であったと思っている。次回に期待したい。

■それにしても数多くの人達に力添えをいただき、資料の提供、原稿の執筆をいただいた。改めて厚く厚くお礼申し上げる。
最後に編集委員会記録を掲載し私の務めを終わらせていただく。

（文責　藏成秋次）

編集委員会記録

年　月　日	場所	内　　容
9．6．22	宇部	大綱・編集委員決定・執筆依頼
9．7．20	山口	分担・執筆者の確認
10．2．14	山口	原稿集まり状況の確認
10．5．22	山口	課題の整理、対応策
11．5．24	山口	沿革史の調査
11．6．6	山口	沿革史の整理

■ 50周年記念誌編集委員名簿 ■

	氏　　名	住　　所
委員長	藏成秋次	山口市大字平井1161
委　員	津守幸介	山口市堂の前町２－50
〃	岸野保則	下関市綾羅木本町５－３－２
〃	尾上　忠	山口市中園町４－26
〃	三井　裕	柳井市大字古開作307－３　A25
〃	末廣秀樹	吉敷郡小郡町田町
〃	嘉村悦男	防府市久兼２
〃	松村和美	防府市高倉１－６－７
〃	松本克芳	山口市嘉川3363－２
〃	山下新一	柳井市琴風1269－５
〃	重田道正	山口市吉敷2534－11　稲葉団地
〃	津守真治	山口市堂の前町２－50
〃	久次　優	下松市東陽２－９－７

山口県バドミントン協会50年史

飛　　翔

編　　集　　50周年記念誌編集委員会
発　　行　　山口県バドミントン協会
　　山口県下松市東陽２－９－７
発 行 日　　平成11年７月１日
印　　刷　　㈲嶋村印刷所
　　山口県山口市大字朝田255